

授業科目名・形態	人体の構造と機能 I	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	祐川 幸一	開講期	1 年前期	単位数 2

【授業の主題】

人体の構造的要素を扱うこの科目は、健康について学ぶ上で極めて基本的な知識の修得に関係する。人体の構造はその機能に活動の場を提供し、そこでの異変は種々の疾患の成立に繋がっていく。いわば他の専門科目の基盤・骨格に相当する重要な科目の一部である。

【到達目標】

高校の生物から延長するその内容を通して、身体を構成する各器官系の存在意義を把握し、それぞれの器官系の関係の中でダイナミックに展開する生命現象を総体的に捉えられるようになってほしい。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 組織・器官～骨格系 I (単位が高次元化するとどうなるか? ~ 結合支持組織としての骨の役割)
- 第 2 回 骨格系 II (人体の柱をかたち作るものとしての骨格の各部位における構成の特徴を眺める)
- 第 3 回 骨格筋系 I (体幹の運動と関係する主要な筋の、名称、骨との関係、運動の種類を対応させる)
- 第 4 回 骨格筋系 II (体肢の運動と関係する主要な筋の、名称、骨との関係、運動の種類を対応させる)
- 第 5 回 循環器系 I (血液を送るポンプとしての心臓の形態と、血液の流れ方を総合的に捉える)
- 第 6 回 循環器系 II (血液を流すホースとしての血管のうち、動脈系のルートと分岐を眺める)
- 第 7 回 循環器系 III (特殊なホースとしてのリンパ系の特徴を、静脈系と関連させてルートを概観する)
- 第 8 回 呼吸器系 (酸素を取り入れる経路が肺の中に至る変化と、その酸素が血液に移る仕組みをみる)
- 第 9 回 生殖器系 I (他人を排出する経路と捉え、男性生殖器の精子形成の場と排出経路を眺める)
- 第 10 回 生殖器系 II (女性の性周期を眺める中で、卵子形成をホルモンの働きと絡めて見渡す)
- 第 11 回 神経系 I (身体統御と司令塔としての脳の役割を、日常生活に当てはめて考えてみる)
- 第 12 回 神経系 II (スピードの速い経路としての脳と身体各部をつなぐ体性神経系の構成を眺める)
- 第 13 回 神経系 III (スピードの遅い経路としての自律神経系という内臓の自動制御の仕組みを眺める)
- 第 14 回 感覚器 I (光を感じる器官としての視覚器を構成する眼球の各部を眺め、特徴を捉える)
- 第 15 回 感覚器 II (音の情報を捉える内耳のしくみを、そこでの液体の動きと関連させて概観する)

【授業実施方法】

プロジェクターを用いた講義形式を採る中で、毎回ランダムに質問を重ね、ポイントを積算する。

【授業準備】

復習と予習に関する内容を質問の形で確認するので、課外での学習が必須になる。

【主な関連する科目】 「人体の構造と機能 II, III, IV」

【教科書等】

「人体の構造と機能」第 4 版 (人体の構造と機能 II で使用) を参考書とするが、講義関連内容を纏めた「ノート」を事前に配付するので、予習、授業、復習に活用するように。

【参考文献】

特になし (参考図譜は図書館、書店等で確認し、各自の判断で入手すること)。

【成績評価方法】

ポイント取得状況 40%、授業態度・出席状況 60% (欠席は 5% ずつ減点) により総合的に評価する。定期試験は実施しない。

【学生へのメッセージ】

中学・高校時代の生物が基本であることに留意し、課外学習の習慣化に努力すること。その中の作業として、テキスト等からの図をコピーしてノートに貼付けたり、資料の統合化を期すよう努力すること。それが学習効果の改善に繋がる。

授業科目名・形態	人体の構造と機能 I	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	武尾 照子	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題】

前期に開講した「人体の構造と機能Ⅰ」および「人体の構造と機能Ⅱ」で修得した形態学・代謝（生化学）の知識を基に、本科目では、人体の生理機能について学びます。ヒトのからだには、生きていくためにどのような仕組みが備わっているか、そしてその仕組みがどのように機能の調節に関わっているかを考え、生命を維持する仕組みについて総合的に理解します。このことは後に学習する、疾病や患者さんの状態を知るための基礎になります。

【到達目標】

- 1) 神経系の構成、機能と調節系としての役割を説明できる。
- 2) 運動器系の構造と運動調節の仕組みを説明できる。
- 3) 循環器系、呼吸器系の仕組みを理解し、それぞれの系がホメオスタシス維持に果たす役割を説明できる

【授業計画・内容】

- 第1回：神経系（1）神経系の構成・神経細胞の興奮発生と伝導・シナプス伝達
 第2回：神経系（2）中枢神経系—大脳・間脳・脳幹の役割
 第3回：神経系（3）中枢神経系—小脳・大脳基底核・脊髄の役割
 第4回：神経系（4）末梢神経系—体性神経系と自律神経系
 第5回：運動系（1）筋組織の分類・骨格筋の構造・筋収縮のしくみ
 第6回：運動系（2）骨格筋の神経支配・運動反射・運動の指令と制御
 第7回：循環系（1）心臓血管系・心臓のはたらきと心電図
 第8回：循環系（2）心周期に伴う諸現象
 第9回：循環系（3）血管系の調節・血圧
 第10回：循環系（4）循環の調節・リンパ循環・冠循環・脳循環
 第11回：呼吸系（1）呼吸器のはたらき・吸息と呼息のメカニズム
 第12回：呼吸系（2）換気機能検査
 第13回：呼吸系（3）ガス交換・ガスの運搬
 第14回：呼吸系（4）呼吸の調節
 第15回：まとめ

【授業実施方法】

講義形式で行う

【授業準備】

講義内容をふまえ、該当する教科書の内容を確認するなど、復習に力点を置くこと。
 配布の復習問題を解き、自己の理解度を確認すること。

【主な関連する科目】

前期に開講する「人体の構造と機能Ⅰ」「人体の構造と機能Ⅱ」

【教科書等】

「人体の構造と機能」第3版、編集：佐藤昭夫・佐伯由香・原田玲子、医歯薬出版株式会社

【参考文献】（参考書）

- ・ からだの構造と機能：A. シェフラー S. シュミット 著 三木明德 井上貴央 監訳（西村書店）
- ・ カラー図解 人体の正常構造と機能 《Ⅰ呼吸器、Ⅱ循環器、Ⅲ中枢神経、Ⅳ末梢神経・感覚器・皮膚、Ⅴ運動器》坂井建雄 河原克雅 総編集（日本医事新報社）

【成績評価方法】

筆記試験で100%評価します。出席状況は評価対象の可否に用います。

【学生へのメッセージ】

疑問点を放置しないで、調べる習慣をつけてください

授業科目名・形態	人体の構造と機能Ⅱ	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	佐藤 公彦	開講期	1 年前期	単位数	2

【授業の主題と目標】

「人体の構造と機能」は、人間、患者、私、の体の科学であり、現代の看護医療を志す学生にとって必須のものとなっています。科学とは、最も簡単には、検証可能な知識体系です。本講義では、「人体の構造と機能」第4版、の第1-2、7-9、11-12、14章、について、人体の構成と働きの基本的な仕組みを学びます。あなたの体が形容出来ない程良く出来ていることが分ります。どうして人体がそんなに複雑なのか？ それはね、環境の構成要素がおそろしく複雑でそれらに的確に対応する必要性が生じた結果と考えられます。適者生存、不適応では生きて行けませんよ。

【到達目標】

- 1) 人体の構成と生体リズム、血液、体液、生体防御機構/免疫他、消化器系、物質代謝、エネルギー代謝、などの基本的な仕組みを理解する。
- 2) 恒常性、ホメオスタシス、からの逸脱として疾病、病態を理解する。
- 3) 人体が極めて精妙に造られ機能している事実を理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 (第1章) 細胞、組織、器官、器官系
- 第2回 (第2章) 恒常性 (ホメオスタシス) と生体リズム
- 第3回 (第7章) 血液：血液の成分と機能
- 第4回 (第7章) 血液：止血機構
- 第5回 (第8章) 体液
- 第6回 (第9章) 生体の防御機構
- 第7回 (第9章) 特異的防御機構(免疫系)
- 第8回 (第9章) アレルギー、リンパ組織
- 第9回 (第11章) 消化器系：食物摂取と消化器系
- 第10回 (第11章) 消化器系：消化と吸収
- 第11回 (第12章) 代謝：物質代謝とエネルギー代謝
- 第12回 (第12章) 代謝：糖質代謝
- 第13回 (第12章) 代謝：脂質、タンパク質代謝
- 第14回 (第12章) 代謝：ビタミン、ミネラルの代謝
- 第15回 (第14章) 代謝：体温調節

【授業実施方法】講義形式、教科書とプリントを用います。

【授業準備】簡単な予習によって疑問点を明らかにしておく。専門用語が多いが英語訳も調べておく。

【教科書等】「人体の構造と機能」第4版、編集：内田さえ・佐伯由香・原田玲子、医歯薬出版(株)

【参考文献】①「ナースのための生化学・栄養学」、香川靖雄、野澤義則著、南山堂、3,500円

②「シンプル生化学」：林 典夫、廣野治子著、改訂第5版、南江堂 ② Biochemistry (Lippincott's Illustrated Reviews) Denise R. Ferrier, 6th ed. LWW Inc.

【成績評価方法】定期試験成績(85%)と受講状況(出席点15%)で評価します。

【主な関連する科目】「化学」、「生命科学」、「栄養学」

【学生へのメッセージ】学問が進歩すると知識が増えて覚えるのが大変と思うでしょうが事実は反対です。原因、病因、作用機構が明らかになると複雑な現象が整理されて理解が簡単になり、覚えることも少なくなります。ですから「よくも知識を増やしてくれたな」などと逆恨みをせず先人の努力に感謝しましょう。人体の構造と機能を知って、人、人生の素晴らしさが分かるのですから。

授業科目名・形態	人体の構造と機能Ⅱ	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	武尾 照子	開講期	1年後期	単位数 2

【授業の主題】

前期に開講した「人体の構造と機能Ⅰ」および「人体の構造と機能Ⅱ」で修得した形態学・代謝（生化学）の知識を基に、本科目では、人体の生理機能について学びます。ヒトのからだには、生きていくためにどのような仕組みが備わっているか、そしてその仕組みがどのように機能の調節に関わっているかを考え、生命を維持する仕組みについて総合的に理解します。このことは後に学習する、疾病や患者さんの状態を知るための基礎になります。

【到達目標】

- 1) 内分泌系の構成と分泌調節の仕組みを説明できる。
- 2) 各ホルモンの作用と調節系としての役割を説明できる。
- 3) 消化器系の概要と消化管運動、消化液分泌の仕組みを説明できる。
- 4) 尿生成と体液調節の仕組みを説明できる。
- 5) 感覚器系の概要と役割を説明できる。

【授業計画・内容】

- 第1回：内分泌系（1）ホルモンの一般的特徴・分泌調節
 第2回：内分泌系（2）各論－視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺・膵島
 第3回：内分泌系（3）各論－副腎皮質・副腎髄質・性腺ホルモン・その他
 第4回：消化器系（1）消化器系の働き・消化管運動
 第5回：消化器系（2）消化液の分泌調節
 第6回：泌尿器系（1）尿の生成
 第7回：泌尿器系（2）細胞外液の調節
 第8回：感覚器系（1）感覚の一般的性質
 第9回：感覚器系（2）視覚・聴覚
 第10回：感覚器系（2）平衡感覚・味覚と嗅覚
 第11回：感覚器系（3）体性感覚・痛覚（皮膚の構造）
 第12回：生殖 および まとめ
 第13回：グループワーク（1）加齢に伴う身体機能の変化
 第14回：グループワーク（2）加齢に伴う身体機能の変化
 第15回：グループワーク（3）加齢に伴う身体機能の変化

【授業実施方法】

講義形式およびグループワークで行う

【授業準備】

講義内容をふまえ、該当する教科書の内容を確認するなど、復習に力点を置くこと。
 配布の復習問題を解き、自己の理解度を確認すること。

【主な関連する科目】

前期に開講する「人体の構造と機能Ⅰ」「人体の構造と機能Ⅱ」

【教科書等】

「人体の構造と機能」第3版、編集：佐藤昭夫・佐伯由香・原田玲子、医歯薬出版株式会社

【参考文献】（参考書）

- ・ からだの構造と機能：A. シェフラー S. シュミット 著 三木明德 井上貴央 監訳（西村書店）
- ・ カラー図解 人体の正常構造と機能 《Ⅲ消化器、Ⅴ腎・泌尿器、Ⅵ生殖器、Ⅶ血液・免疫・内分泌、Ⅸ末梢神経・感覚器・皮膚》坂井建雄 河原克雅 総編集（日本医事新報社）

【成績評価方法】

筆記試験 80%、グループワーク 20%で評価します。出席状況は評価対象の可否に用います。

【学生へのメッセージ】

疑問点を放置しないで、調べる習慣をつけてください。

授業科目名・形態	栄養学	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	工藤友子	開講期	1年後期	単位数	1

【授業の主題】

生命を営む上で必須である「栄養学」の基礎知識を習得し、健康の維持や疾患の治療における栄養食事療法の役割と実際について学ぶ。特に高齢者の低栄養や成長期の子どもの栄養バランス、各ライフステージを通しての生活習慣病を予防するためのマネジメントなど、基礎知識を活用して応用へ発展させ、医療と保健活動において栄養面からのアプローチができるようになることを目標とする。

【到達目標】

- 1) 栄養学の基礎知識を習得すること。
- 2) 健康の維持や疾患治療における栄養食事療法の役割を理解すること。
- 3) 医療と保健活動に栄養ケア・マネジメント等、アプローチの仕方を理解すること。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 人間栄養学と看護：栄養学の歴史、保健・医療制度、看護と栄養、チーム医療と栄養ケア
- 第 2 回 栄養素のはたらき：三大栄養素、ビタミン、ミネラル、食物繊維、水
- 第 3 回 食物の消化と栄養素の吸収：消化器系のしくみとはたらき、吸収機構、吸収経路、便形成
- 第 4 回 栄養素の代謝：血漿成分、代謝と体内環境、肝臓、核酸代謝、吸収・代謝産物の排泄
- 第 5 回 エネルギー代謝：食品のエネルギー、体内エネルギー、エネルギー消費、エネルギー測定
- 第 6 回 食事と食品：食文化、日本人の食事摂取基準、食品と栄養素、食品群と分類法、保健機能食品
- 第 7 回 栄養ケア・マネジメント：チーム医療、看護の役割、栄養スクリーニング、栄養計画と栄養教育
- 第 8 回 栄養状態の評価・判定：栄養アセスメント、栄養状態の評価判定法、臨床検査、食事調査
- 第 9 回 ライフステージと栄養：乳児期、幼児期、学童期、思春期・青年期
- 第 10 回 ライフステージと栄養：成人期、妊娠期、授乳期、更年期
- 第 11 回 ライフステージと栄養：高齢期、食事の実際、咀嚼・嚥下機能
- 第 12 回 臨床栄養：栄養補給法（経腸栄養法・静脈栄養法など）、病院食の種類、成分コントロール食、食塩制限食、易消化食、経腸栄養食品、投与経路、静脈栄養剤
- 第 13 回 疾患別食事療法：循環器疾患、消化器疾患、栄養・代謝疾患、腎臓、食物アレルギー他
- 第 14 回 場面別栄養管理：術前・術後の栄養管理（高齢者・胃・腸・在宅療養・がん）サプリメント
- 第 15 回 健康づくりと食生活：食生活の変遷と課題、生活習慣病の予防、食の安全性と食品表示、食生活の改善への施策（健康増進法）、食生活指針、介護保険制度と食事

【授業実施方法】 基本的に講義形式で行う。

【授業準備】

講義内容について事前に予習し、講義後は配付プリントなどを活用して復習すること。

【主な関連する科目】 「人体の構造と機能Ⅱ」「専門基礎演習」「在宅ケア論」「在宅演習」

【教科書等】

- ① 系統看護学講座専門基礎分野「人体の構造と機能③栄養学」、著：小野章史ら、医学書院
- ② 「糖尿病食事療法のための食品交換表」第7版、編集：日本糖尿病学会、日本糖尿病協会、文光堂

【参考文献】

- ① 系統看護学講座別巻6「栄養食事療法」、足立香代子ら、医学書院
- ② 「腎臓病食品交換表」第7版、医歯薬出版株式会社

【成績評価方法】

後期定期試験の成績 90%、課題提出 5%、受講状況・態度 5%で総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

日常の食事や栄養に興味・関心を持ち、健康的な食生活ができるよう自己管理しましょう。その上で看護における食事の役割やアプローチの方法を考えてみてください。予習と復習を行って臨みましょう。

授業科目名・形態	薬理学概論	講義	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	金沢 久男	開講期	1年後期	単位数	1

【授業の主題】

薬物は、生体に作用して生物学的反応を引き起こす化学物質である。その中で、法律で定められ医療に用いられるものを医薬品といい、疾病の診断、治療、予防など医療一般に用いられる。本講義では、医療に用いられる薬物の薬理学を学び、看護師・助産師として必要な薬物療法の基礎知識を習得する。

【到達目標】

- 1) 薬理学とは何かを学び、薬物療法における看護師の役割を理解すること。
- 2) 薬が作用するしくみ（薬力学）と薬の体内の挙動（薬物動態学）の基本を理解すること。
- 3) 薬物使用の有益性と危険性を理解すること。
- 4) 薬と法律の関係についての基本を理解すること。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 薬理学とはなにか（薬理学のなりたち、薬物療法における看護師の役割）
- 第 2 回 薬が作用するしくみ（薬力学）
- 第 3 回 薬物動態学（吸収・代謝・分布・排泄）
- 第 4 回 薬物動態の指標、薬物投与計画（TDM）
- 第 5 回 薬物相互作用
- 第 6 回 薬効に影響する因子、小児・高齢者への薬物投与
- 第 7 回 薬物使用の有益性と危険性（副作用、妊婦・授乳婦への薬物投与、薬害）
- 第 8 回 薬と法律（薬の管理・保管、新薬の開発と治験）

【授業実施方法】

講義形式を主体とし、教科書、PC（パワーポイント）を用いる。

【授業準備】

予習と復習を実行してほしい。「予習をしてきたこと」を前提に講義をするので、「教科書」を読んで講義を受ける際のポイントを把握してほしい。

【主な関連する科目】

「臨床薬理学」

【教科書等】

系統看護学講座専門基礎分野「疾病のなりたちと回復の促進③薬理学」14版
著者：吉岡充弘・泉 剛・井関健；医学書院

【参考文献】

今日の治療薬 解説と便覧 2018：南江堂

【成績評価方法】

筆記試験 90%，授業態度・出席況及 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

日常生活の中で医薬品に関心を持ち、疑問点について「調べる」習慣を身につけてほしい。また、医薬品に関する報道に関心をもってほしい。

授業科目名・形態	疾病の成り立ち	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	松本一仁	開講期	1年後期	単位数 2

【授業の主題】

「疾病の成り立ち」とは、「病理学」という学問領域に属しており、病気の原因や病気の成り立ち、発生機序を明らかにする学問である。病気に伴い患者の身体の中で、臓器・組織・細胞にどのような変化が生じているのかを学び、疾病の成り立ちを理解する分野である。

【到達目標】

代謝障害・循環障害・炎症・免疫異常・先天異常・腫瘍などの総論に加えて、各論では各臓器における主要な疾患の病理発生のメカニズムを理解し、説明できることを目標とする。

【授業計画・内容】

- 第1回 病理学の領域、病因論、正常臓器の外観
- 第2回 細胞・組織の障害と修復
- 第3回 循環障害
- 第4回 炎症
- 第5回 免疫病理学
- 第6回 先天異常と遺伝子異常
- 第7回 腫瘍
- 第8回 循環器系の疾患
- 第9回 血液・造血器系の疾患
- 第10回 呼吸器系の疾患
- 第11回 消化器系の疾患Ⅰ（食道・胃・腸）
- 第12回 消化器系の疾患Ⅱ（肝・胆・膵）
- 第13回 泌尿器・男性生殖器系の疾患
- 第14回 女性生殖器・乳腺の疾患
- 第15回 内分泌・神経系の疾患

【授業実施方法】

講義形式（テキスト、配布プリント、スライドの併用）

【授業準備】

スライドで組織や臓器の所見を良く観察し、講義内容については復習を中心に学習すること。

【主な関連する科目】

解剖生理学（人体の構造と機能）。

【教科書等】

「系統看護学講座」専門基礎分野。疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学
大橋健一、他著。 医学書院

【参考文献】

わかりやすい病理学（改訂第5版） 岩田隆子監修 南江堂

【成績評価方法】

筆記試験 90%、授業態度・出席状況 10%により評価する。

【学生へのメッセージ】

疾病の成り立ちは、疾患治療や看護の基盤となる分野で、しっかりと身につけてほしい。

授業科目名・形態	感染と免疫	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	成田 浩司	開講期	1年前期	単位数 2

【授業の主題】

近年、新たな感染症の出現・流行がある一方、旧来の感染症が問題になっている。さらに、抵抗力の弱った人へのみ病原性を発揮する病原体が日常的に存在する。本授業では感染症を引き起こす微生物について学び、感染症発症のメカニズム、伝播、さらに病原体に対する生体防御機構について理解する。

【到達目標】

- 1) 主な病原体とそれが引き起こす感染症について理解すること。
- 2) 感染症に対する宿主の生体防御機構について理解すること。
- 3) 消毒法、滅菌法、微生物に対する化学療法について理解すること。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 微生物の性質、細菌の性質(細菌の形態、特徴、培養環境と栄養、遺伝)
- 第 2 回 感染と感染症(細菌感染の機構、感染の成立から治癒まで)
- 第 3 回 感染源・感染経路、感染の予防(滅菌と消毒)
- 第 4 回 感染症の診断、感染症の治療(化学療法の基礎、各種化学療法薬)
- 第 5 回 感染に対する生体防御機構(自然免疫、獲得免疫)
- 第 6 回 おもな病原細菌と感染症(グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性好気性桿菌)
- 第 7 回 おもな病原細菌と感染症(グラム陰性通性桿菌、カンピロバクター属、ヘリコバクター属)
- 第 8 回 おもな病原細菌と感染症(グラム陽性桿菌、抗酸菌と放線菌、嫌気性菌)
- 第 9 回 おもな病原細菌と感染症(スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア)
- 第 10 回 ウイルスの特徴・構造・機能・増殖、ウイルス感染の機構
- 第 11 回 おもなウイルスとウイルス感染症(DNA ウイルス)
- 第 12 回 おもなウイルスとウイルス感染症(RNA ウイルス)
- 第 13 回 おもなウイルスとウイルス感染症(ウイルスの臨床的分類)
- 第 14 回 真菌の形態、特徴・増殖、真菌感染の機構、おもな真菌と真菌感染症
- 第 15 回 おもな原虫と原虫感染症

【授業実施方法】

講義形式で行う。

【授業準備】

講義では多くの専門用語が出てきます。それらを理解するためには、予習、復習が不可欠です。

【主な関連する科目】

看護方法論全般

【教科書等】

系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 微生物学(医学書院)。

【参考文献】

適宜講義中に指示する

【成績評価方法】

筆記試験 90%、授業態度・出席状況 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

世界では様々な感染症が問題になっています。講義を通して病原微生物に関する知識や感染症予防に関する知識、技術を是非身につけて下さい。

授業科目名・形態	看護学概論		必修・選択の別	必修	
担当者氏名	小玉光子	開講期	1年前期	単位数	2

【授業の主題】

看護学を学ぶための第一歩であり、今後の専門領域を学ぶための基礎となる科目である。看護とは何かという看護の概念を学問的に捉え、看護学分野の根底にある共通内容を学習する。

【到達目標】

1. 看護の概念や歴史、理論を学び、看護学に対する理解を深めることができる。
2. 専門職としての看護の役割と看護実践の基本となる看護の機能や看護倫理、医療の安全等について理解できる。
3. 看護とは何かについて関心をもつことができる。

【授業計画・内容】

- 第1回 看護とは何か
- 第2回 看護の過去から現在まで
- 第3回 ナイチンゲール「看護覚え書」①
- 第4回 ナイチンゲール「看護覚え書」②
- 第5回 主要な看護モデルと看護理論 ①演習
- 第6回 主要な看護モデルと看護理論 ②演習
- 第7回 主要な看護モデルと看護理論 ③発表
- 第8回 看護実践における重要な概念
- 第9回 看護の役割と機能
- 第10回 看護実践の方法
- 第11回 看護における倫理と法
- 第12回 看護実践を支えるもの
- 第13回 専門職としての看護
- 第14回 医療の安全
- 第15回 グローバル社会と看護

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行うが、グループワーク形式の演習を取り入れる予定である。

【授業準備】

授業内容に関連した教科書の章を予め十分に目を通して授業に臨むこと。

【主な関連する科目】

教養科目、総合科目、看護過程論、看護倫理、成人看護学概論

【教科書等】

新体系看護学全書 基礎看護学①看護学概論 メヂカルフレンド社

フローレンス・ナイチンゲール（湯楨ます他訳）：看護覚え書－看護であること看護でないこと－改訂第7版 現代社

【参考文献】

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（1）看護学概論 第6版 メディカ出版

看護学原論 看護の本質的理解と創造性を育むために 改訂第2版 南江堂

【成績評価方法】

試験成績（95%）、出席状況・受講態度・グループ討議への参加態度・レポート課題（5%）を総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

この科目は看護学を学ぶ上での基盤となる科目です。難解で抽象的な専門用語もありますので、看護の初学者である皆さんがより理解を深められるよう臨床現場での具体例を取り入れて授業を行う予定です。しかし、皆さんも予習・復習に努め、自分なりの看護観を模索しながら主体的な姿勢で受講してください。

授業科目名・形態	基礎看護技術論 I	講義	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	黒澤繭子・小玉光子・小畑千春 千葉孝子・高山新吾	開講期	1年前期	単位数	2

【授業の主題】

看護技術の対象は人間であり、提供する看護者は、その技術を受ける人の反応全体を捉え、個々の状況に応じて変化させる柔軟な対応を必要とする。看護技術の実施にあたって、はじめに各看護技術の基礎的な知識と標準的な方法を習得する。この授業では、看護師業務の「療養上の世話」の内容・援助方法について学習する。

【到達目標】

1. 日常生活の援助に関する基礎知識を学び、援助技術一つひとつの基礎となる要素とその根拠を理解できる
2. 日常生活の援助（快適な環境整備、食事、排泄、活動、休息、清潔など）に対する援助方法を理解できる

【授業計画・内容】

- 第 1 回 看護技術とは何か 看護技術の特徴・基盤（小畑）
- 第 2 回 環境調整技術（小玉）
- 第 3 回 活動・休息援助技術(1)体位・体位変換（小畑）
- 第 4 回 活動・休息援助技術(2)移動・移送・体位保持（高山）
- 第 5 回 活動・休息援助技術(3)睡眠と休息の援助（千葉）
- 第 6 回 ヘルスアセスメント(1)バイタルサイン（小畑）
- 第 7 回 ヘルスアセスメント(2)身体計測（小畑）
- 第 8 回 清潔・衣生活援助技術(1)清潔の援助（黒澤）
- 第 9 回 清潔・衣生活援助技術(2)衣生活の援助（高山）
- 第 10 回 清潔・衣生活援助技術(3)洗髪演習（黒澤）
- 第 11 回 清潔・衣生活援助技術(4)清拭演習（黒澤）
- 第 12 回 排泄援助技術(1)自然排尿・排便の介助（千葉）
- 第 13 回 排泄援助技術(2)導尿・排便を促す援助（千葉）
- 第 14 回 感染防止の技術(1)（小畑）
- 第 15 回 まとめ（小畑）

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

授業内容に関連した教科書の章にあらかじめ目を通して授業にのぞんでください。また、授業で配布する資料や教科書で復習をし、理解を深めてください。

【主な関連する科目】

総合科目、専門基礎科目、看護学概論、基礎看護技術演習 I

【教科書等】

茂野 香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 第 16 版、医学書院、2015
 任 和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔3〕基礎看護技術 II 第 17 版、医学書院、2017
 医療情報科学研究所 編：看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 第 1 版、メディックメディア、2014

【参考文献】

吉田 みつ子、本庄 恵子編著：写真でわかる実習で使える看護技術 改訂第 2 版、インターメディカ、2013
 竹尾恵子監修：看護技術プラクティス 第 3 版動画付き、学研、2016

【成績評価方法】

定期試験(95%)、出席状況・授業態度・課題レポート(5%)より総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

看護技術の基本となりますので、予習・復習をしっかりと行ってください。患者さんに安全で安楽な看護技術を提供できるよう知識・技術を習得してください。教科書の付録の動画や、図書館にある視覚教材を利用しても良いと思います。

授業科目名・形態	基礎看護技術論Ⅱ 講義	必修・選択の別	必修		
担当者氏名	小玉光子・黒澤繭子・小畑千春・千葉孝子・伊藤洋介	開講期	1年後期	単位数	2

【授業の主題】

基礎看護技術論Ⅰ・基礎看護技術演習Ⅰで学んだ知識や技術を踏まえ、診療に伴う援助を安全・安楽に実施するための専門知識と根拠について学ぶ。

【到達目標】

1. 診療に伴う援助に関する基礎知識を理解できる。
2. 診療に伴う援助を安全・安楽に行う方法を理解できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 感染防止の技術(2)・安全確保の技術(小畑)
- 第2回 創傷管理技術(小玉)
- 第3回 食事援助技術(伊藤)
- 第4回 症状・生体機能管理技術 採血 診察・検査・処置介助の技術(小畑)
- 第5回 与薬の技術(1)与薬、注射の基礎知識(黒澤)
- 第6回 与薬の技術(2)注射の実施法、輸血(黒澤)
- 第7回 与薬の技術(3)点滴静脈内注射(黒澤)
- 第8回 呼吸・循環を整える技術(1)酸素吸入、吸引(小玉)
- 第9回 呼吸・循環を整える技術(2)体温管理、電法(小玉)
- 第10回 フィジカルアセスメント総論
- 第11回 フィジカルアセスメント(1)呼吸器(千葉)
- 第12回 フィジカルアセスメント(2)循環器(千葉)
- 第13回 フィジカルアセスメント(3)腹部(千葉)
- 第14回 死の看取りの援助(千葉)
- 第15回 まとめ

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

基礎看護技術論Ⅰ・基礎看護技術演習Ⅰを復習し、授業内容に関連した教科書の章を予め十分に目を通して授業に臨むこと。

【主な関連する科目】

総合科目、専門基礎科目、看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 基礎看護技術③ 第17版 医学書院 2017
 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学Ⅰ 基礎看護技術② 第16版 医学書院 2017
 看護技術がみえる① 基礎看護技術 メディックメディカ 2017

【参考文献】

吉田みつ子、本庄恵子編著：写真でわかる基礎看護技術・臨床看護技術(1)(2)、インターメディカ
 小野田千枝子監修：実践！フィジカル・アセスメント 第3版 金原出版、2008

【成績評価方法】

定期試験(95%)、出席状況・授業態度・課題レポート(5%)から総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

看護技術の基本となりますので正確な知識が求められます。予習・復習をしっかり行って患者さんに安全で安楽な看護技術を提供できるよう知識を習得してください。

授業科目名・形態	基礎看護技術演習 I	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	小畑千春・小玉光子・黒澤繭子 千葉孝子・高山新吾・伊藤洋介	開講期	1年前期	単位数	1

【授業の主題】

基礎看護技術論 I で学んだ日常生活を営む上で必要な援助に関する知識や技術を活用し、日常生活援助を安全・安楽に実施するための看護技術の実際を学ぶ。

【到達目標】

1. 日常生活の援助に関する基礎知識とその根拠を理解できる
2. 日常生活の援助（快適な環境整備、食事、排泄、活動、休息、清潔）を安全・安楽に実施するための基本技術を習得できる

【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション 手洗い方法・演習における留意事項など
- 第 2 回 環境調整技術(1) 環境調整、ベッドメイキング
- 第 3 回 環境調整技術(2) ベッドメイキング
- 第 4 回 活動・休息援助技術(1) 基本的活動の援助 体位・体位変換
- 第 5 回 活動・休息援助技術(2) 移動、移乗・移送
- 第 6 回 ヘルスアセスメントの実際(1)バイタルサイン測定①
- 第 7 回 ヘルスアセスメントの実際(2)バイタルサイン測定②
- 第 8 回 ヘルスアセスメントの実際(2)バイタルサイン測定③
- 第 9 回 清潔・衣生活援助技術(1)部分浴（手浴・足浴）
- 第10回 清潔・衣生活援助技術(2)洗髪
- 第11回 清潔・衣生活援助技術(3)清拭
- 第12回 清潔・衣生活援助技術(4)衣生活の援助
- 第13回 排泄援助技術(1)床上排泄
- 第14回 排泄援助技術(2)浣腸、陰部洗浄
- 第15回 看護技術の総合演習

【授業実施方法】

演習

【授業準備】

基礎看護技術論 I を復習し、授業内容に関連した教科書の章及び「写真でわかる実習で使える看護技術」の章を十分に読んで演習にのぞんでください。

【主な関連する科目】

総合科目、専門基礎科目、看護学概論、基礎看護技術論 I

【教科書等】

基礎看護技術論 I と同様

【参考文献】

基礎看護技術論 I と同様

【成績評価方法】

技術チェック(95%)、出席状況・演習態度・課題レポート(5%)より総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

看護技術の基本となりますので、予習・復習をしっかりと行ってください。特に技術は授業時間以外でも何度も練習をして体得してください。患者さんに安全で安楽な看護技術を提供できるよう知識・技術を習得してください。教科書の付録の動画や、図書館にある視覚教材を利用しても良いと思います。

授業科目名・形態	基礎看護技術演習Ⅱ 演習		必修・選択の別	必修	
担当者氏名	小玉光子・黒澤繭子・小畑千春・千葉孝子・高山新吾・伊藤洋介	開講期	1年後期	単位数	1

【授業の主題】

基礎看護技術論Ⅰ・基礎看護技術演習Ⅰで学んだ知識や技術を活用し、診療に伴う援助を安全・安楽に実施するための専門知識と根拠について学ぶ。

【到達目標】

1. 診療に伴う援助に関する基礎知識を理解できる。
2. 診療に伴う援助を安全・安楽に実施するための基本技術を習得できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 感染防止の技術 手袋の装着方法、ガウンテクニック
- 第3回 創傷管理技術 無菌操作、創傷処置、包帯法
- 第4回 排泄援助技術(3)導尿
- 第5回 症状・生体機能管理技術 静脈採血
- 第6回 与薬の技術(1)注射作成
- 第7回 与薬の技術(2)皮下・筋肉内注射
- 第8回 与薬の技術(3)点滴静脈内注射
- 第9回 呼吸・循環を整える技術 酸素吸入療法、吸引、安楽確保の技術 冷・温罨法
- 第10回 呼吸・循環を整える技術 酸素吸入療法、吸引、安楽確保の技術 冷・温罨法
- 第11回 食事援助技術 食事介助と経口与薬
- 第12回 フィジカルアセスメント(1)呼吸器
- 第13回 フィジカルアセスメント(2)循環器
- 第14回 フィジカルアセスメント(3)腹部
- 第15回 まとめ (技術チェック)

【授業実施方法】

演習

【授業準備】

基礎看護技術演習Ⅱは、基礎看護技術演習Ⅰよりもさらに高度な技術の習得になります。基礎看護技術論Ⅰ・基礎看護技術演習Ⅰを復習し、授業内容に関連した教科書の章及び「写真でわかる実習で使える看護技術」の章を十分に読んで演習に臨むこと。

【主な関連する科目】

総合科目、専門基礎科目、看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護技術演習Ⅰ

【教科書等】

基礎看護技術論Ⅱと同様

【参考文献】

基礎看護技術論Ⅱと同様

【成績評価方法】

技術チェック (95%)、出席状況・演習態度 (5%) から総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

看護技術の基本となります。特に基礎看護技術演習Ⅱでは患者さんに侵襲を与える技術もありますので、予習・復習を十分に行ってください。授業時間以外でも繰り返し練習をして技術を体得し、患者さんに安全で安楽な看護技術を提供できるよう知識・技術を習得してください。

授業科目名・形態	成人看護学概論	講義	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	水木暢子	開講期	1年後期	単位数	1

【授業の主題】

成人看護学の理念を基礎として、成人期の対象の特性及び多様な健康問題について理解を深める。成人期の生活に直結した生活習慣・職業・ストレス等に関連した健康問題を取り上げ、現代社会や現代人のライフスタイルの特徴と照らし合わせて検討する。また、成人期における健康の破綻による対象や家族への影響、回復に向けての看護者の役割とその方法の基本を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 成人期の対象の特徴と現代社会におけるライフスタイルに関連した健康への影響について理解する。
- 2) 成人期の健康問題の特徴、特に生活習慣病・職業性疾病・ストレスとの関連を理解する。
- 3) 成人看護学の基本となる代表的な理論や基本となる方法論について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 成人看護の対象の理解
- 第2回 成人への看護アプローチの基本
- 第3回 行動変容、行動強化に関する理論を用いた演習
- 第4回 慢性病をもつ人への看護方法
- 第5回 成人の生活と健康問題
労働、ストレス、がん予防と生活習慣
- 第6回 健康の急激な破綻からの回復を促す看護方法
- 第7回 成人の健康生活を促すための看護技術
ストレスマネジメントと看護介入
- 第8回 まとめと試験

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う

【授業準備】

毎回授業終了後に、次回授業のレジュメや資料を配布し、予習すべき内容を提示します。必ず事前学習により授業の内容を確認して臨み、課題提出については期限をしっかりと守ってください。

【主な関連する科目】

看護学概論、エイジング論、成人看護方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

【教科書等】

系統看護学講座専門5 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院

【参考文献】

成人看護学概論第2版 ニューヴェルヒロカワ
ナーシング・グラフィカ成人看護学①成人看護学概論 メディカ出版

【成績評価方法】

筆記試験 80%、レポート課題・受講態度・グループ討議への参加態度 10%、出席状況 10%で評価する。

【学生へのメッセージ】

この科目で学んだ理論や方法論が、2年次以降の成人看護方法論を学ぶための基礎になります。

授業科目名	老年看護学概論	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	檜原登志子	開講期	1年後期	単位数 1

【授業の主題】

高齢者は、成熟の段階を生きているが、又、それぞれに違う人生や価値観を持ち生きてきた。老いを生きるその人に焦点をあて、エイジングのポジティブな側面と加齢の病態変化や多様性について、身体的、精神心理的、霊的、社会的側面の変化について学ぶ。又、現在の高齢者を取り巻く保健・医療・福祉の動向等社会環境的にも学ぶ。これらから老年看護学の理論と看護方法を連結する基本的な考え方を学習する。

【到達目標】

- 1) 加齢による身体的、精神心理的、霊的、社会的側面の変化を理解する
- 2) 現在の高齢者を取り巻く保健・医療・福祉の動向等社会環境を理解する

【授業計画・内容】

第1回	老年看護学序論	老年看護の概念 老年看護学概論の構築	科目構成・概論の目的・内容
第2回	老年期の理解	高齢期の健康 老年看護に活用する理論	老年看護の対象となる人の特徴
第3回	高齢社会と社会保障	高齢社会と統計的輪郭	日本の人口高齢化
第4回	高齢者の生活の特徴と課題		
第5回	高齢者のニーズと保健医療福祉対策	ソーシャルサポート	
第6回	高齢者と社会システム	介護保険制度	
第7回	高齢者看護の機能と役割	高齢者と家族	
第8回	高齢者看護における倫理的課題	高齢社会における権利擁護	

【授業実施方法】

講義形式。必要に応じ（高齢者の立場に立って生活状況を考えるケア者になる為に、事例の視聴覚教材）等を視聴して、状況を洞察し思考する。グループワークを行う。

【授業準備】

授業で配布する資料や教科書で復習をし、理解を深めてください。

【主な関連する科目】

「エイジング論」、「病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（精神）」、「保健・医療と法律」

【教科書等】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第8版、医学書院、2018
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第4版、医学書院、2018

【参考文献】

ナーシング グラフィカ 26 「高齢者の健康と障害」、27 「老年看護の実践」、メディカ出版、2017
 山田律子他編：生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図、第1版、医学書院、2012/2015
 亀井智子編集：根拠と事故防止からみた老年看護技術、第1版、医学書院、2012/2014、第2版、2016

【成績評価方法】

筆記試験 85%、課題学習レポート提出 10%、出席状況（授業・演習態度含む）5% の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

講義第2回目「老年期の理解」の老いの意味については、後期エイジング論の授業で行っている、(老年期とは、老化に関する理論、老性変化(身体・精神心理・社会)を復習し、老いを生きる高齢者に愛と関心を寄せていきましょう。尊厳あるケアの出来る支援者としての理解を持って、医療・看護・福祉の統合社会について学習していきましょう。毎回ごとにより「事前学習」と「事後学習」の課題を提供後、提出を求めます。学習の評価としていきましょう。

授業科目名・形態	精神看護学概論	講義	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	畠山禮子	開講期	1年後期	単位数	1

【授業の主題】

こころの健康問題は深刻であり、精神保健に関連する課題がますます増加している。本講義では、主に人間のライフサイクルにおけるこころの健康問題について学ぶ。さらに、リエゾン精神看護の活動や精神保健と法律について学ぶ。

【到達目標】

人間のライフサイクルにおけるこころの健康問題について理解する。
エゾン精神看護の活動や精神保健と法律について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 精神看護とはどんな活動か
- 第2回 精神医療の歴史の変遷、精神看護における基本的人権と倫理的問題
- 第3回 ライフサイクルと精神保健①
- 第4回 ライフサイクルと精神保健②
- 第5回 事例から学ぶリエゾン精神看護
- 第6回 精神保健と法律
- 第7回 精神保健福祉の現状と課題、精神の健康に関する普及啓発活動
- 第8回 まとめ

【授業実施方法】

講義

【授業準備】

講義内容を踏まえて予習を中心に行う。

【主な関連する科目】

「病態治療学Ⅲ（精神疾患）」

【教科書等】

萱間真美 野田文隆 「精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種をつながり こころ・からだ・かかわりのプラクティス」
改訂第2版 南江堂 2015.

【参考文献】

適宜紹介

【成績評価方法】

出席状況・授業参加態度（10%）、後期定期試験（90%）により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

マスコミで報道されているこころの問題等に関連する内容に関心を持ち、一緒に考えて行きましょう。

授業科目名・形態	早期体験実習	実習	必修・選択の別		必修
担当者氏名	小玉光子・水木暢子・岩間薫・佐藤純子・ 畠山禮子・黒澤繭子・今野修・小畑千春・ 千葉孝子・高山新吾・伊藤洋介・山平良 子・若狭由紀子	開講期	1年前期	単位数	1

【授業の主題】

入学した早い時期に患者と患者を取り巻く環境を知り、実際の看護場面や看護職者の業務・役割を学ぶことによって看護の重要性を認識し、看護学生としての自覚を促す。

【到達目標】

1. 病院の概要、看護部の組織、看護体制、看護理念が理解できる。
2. 入院患者の特徴が理解できる。
3. 入院患者の環境（病棟の施設・設備を含む）が理解できる。
4. 入院患者の療養生活が理解できる。
5. 病院で働く看護職者の業務や役割が理解できる。
6. 看護職者の患者との関わりについて理解できる。
7. 看護職者と他の医療職者との連携について理解できる。

【授業計画・内容】

実習の概要についての詳細は実習オリエンテーションにて提示する。

【授業実施方法】

臨地実習

【授業準備】

看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ、基礎看護技術演習Ⅰで学んだことを十分に復習して、実際の臨床現場での早期体験実習に臨むこと。

【主な関連する科目】

看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ、基礎看護技術演習Ⅰ

【教科書等】

看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ、基礎看護技術演習Ⅰで使用した教科書・資料

【参考文献】

必要時配布

【成績評価方法】

出席状況・実習状況・実習記録（100％）により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

患者さんの健康状態の段階を知り、どのような環境で療養生活を送っているのか、その現状を学んでください。この実習で学んだことは、その後の学内での講義や演習に対する皆さんの姿勢に大きな影響をもたらすことと思います。

授業科目名・形態	臨床薬理学	講義	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	早狩 誠	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

臨床薬理学は、薬理学で学んだ薬物の作用機序に関する基本的な知識が、臨床の場面でのどのように応用されているかを学ぶ講義である。

【到達目標】

薬物の有効性は、併用薬剤や年齢等により効果が変動する場合がある。このような場合での薬物療法の注意点等についての知識を有していることは、患者に接する機会が多い看護師にとって、薬物の有効性や有害事象の発現の早期発見に繋がる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 臨床薬理学概論1（臨床薬理学とは、薬物の作用機構等について）
- 第 2 回 臨床薬理学概論2（麻薬等の取り扱い、違法薬物：薬物依存について）
- 第 3 回 治験とは（治療に使用される医薬品がどのような過程を経て販売されるか）
- 第 4 回 高齢者の薬物療法（高齢者の薬物療法への留意点）
- 第 5 回 薬理遺伝学1（薬物代謝酵素：遺伝子多形とは、遺伝子多形が影響を及ぼす薬剤について）
- 第 6 回 薬理遺伝学2（遺伝子多形が影響を及ぼす薬剤について）
- 第 7 回 薬理遺伝学3（遺伝子多形が影響を及ぼす薬剤について）
- 第 8 回 配合剤の意義（高齢者の服薬遵守の改善対策としての配合剤の意義について）
- 第 9 回 妊婦授乳婦への薬理学1（妊婦授乳婦人への薬物療法の基本について）
- 第10回 妊婦授乳婦への薬理学2（妊婦授乳婦人への薬物療法の留意事項について）
- 第11回 化学療法剤1（抗生物質）（抗生物質の作用機序について）
- 第12回 化学療法剤2（抗生物質および抗がん剤）（各種抗生物質の副作用および抗がん剤の作用機序）
- 第13回 化学療法剤3（抗がん剤）（新規抗がん剤：分指標的薬の作用機序等について）
- 第14回 薬物使用における医療安全（薬剤が患者に投与されるまでの留意事項）
- 第15回 薬害（過去の薬害から現在そして将来に向けた留意事項について）

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

各授業に関連する薬剤についての基礎的知識を薬理学の教科書で予習しておくこと。

【主な関連する科目】

薬理学、生物化学、生理学

【教科書等】

特になし

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

授業中に小試験を10回行う。また試験を行わない時は課題に沿ったレポートを提出する。
成績評価は小試験（80%）、レポート（10%）、そして出席・聴講態度（10%）で総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

薬物療法で生じる多くの有害事象を発見できる能力を身につけるように、常に現場にいることを想定して講義を受けることが望ましい。

授業科目名・形態	病態治療学Ⅰ（呼吸器）	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	村上 力也	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題と目標】

国家試験合格に必須の知識はもちろん、合格後、第一線の臨床に出た際に応用可能な知識・考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- 1) 解剖、呼吸のしくみを理解すること。
- 2) 多彩な呼吸器症状とその原因を理解すること。
- 3) 各種呼吸器疾患と症状、そのケアについて理解すること。

【授業計画・内容】

第 1 回 総論

解剖、生理、症状、身体所見

呼吸器画像診断、呼吸機能診断、その他の呼吸器関連検査

第 2 回 各論-1

COPD、気管支喘息、肺塞栓症、ARDS

第 3 回 各論-2

肺炎、間質性肺炎、肺結核

第 4 回 各論-3

肺腫瘍、気胸、過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

授業回数に対して講義範囲が大変広いです。一回の講義では理解が難しいと思います。教科書を中心に講義を行いますので、教科書の該当部位を事前に一読するようにしてください。

【主な関連する科目】

成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

【教科書等】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器（医学書院）

【参考文献】

【成績評価方法】

以下 1)2)で総合的に評価します。

- 1)筆記試験(多肢選択問題および筆記問題) 90%
- 2)出席状況・授業態度 10%

【学生へのメッセージ】

現場で良きパートナーとなれる日を楽しみにしています。

授業科目名・形態	病態治療学 I (循環器系)	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	大本 直樹	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題】

超高齢化社会を迎えているわが国では、今後も循環器系疾患の増加が予想されている。したがって循環器疾患の病態や治療法を理解することは成人看護学において極めて重要である。

【到達目標】

総論では循環系の基本的な仕組みを理解し、各論では個々の疾患の病態、最新の治療法について学習する。循環器病の全貌を概観し、日常的に遭遇する疾患については、より理解を深める。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 循環器病学 総論 循環器疾患の主な症候
- 第 2 回 循環器系の検査法 循環器疾患 各論 1 (心不全)
- 第 3 回 循環器疾患 各論 2 (不整脈、ペースメーカー治療)
- 第 4 回 循環器疾患 各論 3 (虚血性心疾患、心筋症)
- 第 5 回 循環器疾患 各論 4 (弁膜症、血管疾患、先天性心疾患)

【授業実施方法】

講義ノート（レジュメ）を配布し、PPT を用いた講義形式で行う。

【授業準備】

一般的な知識に臨床現場の状況を交えて、学生の印象に残る授業を目指す。教科書に沿って進めます、内容が多いので予習してください。レジュメはまとめになっており復習に役立ちます。

【主な関連する科目】

生理学、内科全般、心臓血管外科、成人看護方法論 I・II・III、老年看護方法論 I・II

【教科書等】

新体系 看護学全書 成人看護学③ 循環器

【参考文献】

循環器疾患ビジュアルブック 学研、2010

【成績評価方法】

筆記試験 90%、授業態度・出席状況 10%により総合的に評価する。

試験は講義した内容から出題する。レジュメを活用し、知識を整理すること。

【学生へのメッセージ】

循環器は難しい印象を持ちやすい教科ですが、きちんと勉強すれば理論的に考えられる分、得意な教科にもなりやすいと思います。まずは循環器疾患に興味を持ってもらいたいと思います。

授業科目名・形態	病態治療学Ⅰ（泌尿器科）	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	成田 知	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題】

泌尿器領域の臨床の基礎の習得

【到達目標】

泌尿器領域の基本的な解剖・生理を理解し、各疾患の病態・治療法を理解できる

【授業計画・内容】

- 第 1 回 泌尿器の解剖、生理
- 第 2 回 泌尿器の検査
- 第 3 回 泌尿器疾患 各論①
- 第 4 回 泌尿器疾患 各論②

【授業実施方法】

講義

【授業準備】

講義内容を理解し、復習を中心に行ってください

【主な関連する科目】

成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

筆記試験の成績 100%で評価する

【学生へのメッセージ】

講義では、要点のみを説明します。教科書を中心に復習を十分に行ってください。
わからないことがあったら、どんどん質問してください。

授業科目名・形態	病態治療学Ⅰ（内分泌系）	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	池島 進	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題】

看護の対象である内科系疾患の病態と治療について学ぶ。

【到達目標】

内分泌疾患、糖尿病を中心とした代謝疾患の基本、代表的な神経疾患について習得する。

【授業計画・内容】

第 1 回	内分泌	甲状腺ホルモン
第 2 回	内分泌	副腎皮質ホルモン
第 3 回	代謝	糖尿病
第 4 回	代謝	糖尿病
第 5 回	代謝	脂質代謝
第 6 回	神経疾患	脳卒中
第 7 回	神経疾患	筋萎縮性側索硬化症（ALS）、パーキンソン病

【授業実施方法】

板書とプリント、講義形式

【授業準備】

一般的な知識に臨床現場の状況を交えて学生の印象に残る授業を目指す。

【主な関連する科目】

成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

指定する教科書

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

筆記試験 100%

【学生へのメッセージ】

基本的内容の習得を目指してください。

授業科目名・形態	病態治療学Ⅰ（消化器）	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	小笠原 仁	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

消化器病血液病の基礎と病態について理解していただくようにしたい。

【到達目標】

消化器の種類、基礎習得する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 消化器病総論
- 第 2 回 " 各論Ⅰ
- 第 3 回 " 各論Ⅱ
- 第 4 回 血液病総論
- 第 5 回 " 各論Ⅰ
- 第 6 回 " 各論Ⅱ

【授業実施方法】

講義

【授業準備】

前回の復習をしておくように。

【主な関連する科目】

成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

特に指定せず、毎回プリントにて講義

【参考文献】

特に指定せず、毎回プリントにて講義

【成績評価方法】

筆記試験 100%により評価する

【学生へのメッセージ】

授業中の私語厳禁、ケイタイ電話の電源は切っておくこと。

授業科目名・形態	病態治療学Ⅰ(放射線)	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	吉野 浩教・小山内 暢	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

放射線医学は急速な発達を遂げ、現代の医療には欠かせないものとなっている。しかし、放射線は人間にとって利益ばかりではなく、不利益をも与える両面性を併せ持つ。このため医療従事者は、放射線に関する基礎的知識とリスクマネジメントをよく理解した上で医療を受ける人たちに接する必要がある。本講義では、診療に携わる看護師として必要な放射線の知識と放射線診断・治療の現場において必要となる放射線看護学の基本的事項を学ぶ。さらに、放射線被ばくのリスクと放射線防護を科学的な根拠に基づき理解する。

【到達目標】

- 1) 放射線の基礎知識について理解すること。
- 2) 放射線画像診断の原理と適応について理解すること。
- 3) 放射線治療の原理と適応について理解すること。
- 4) 放射線被ばくによる人体影響と放射線防護について理解すること。

【授業計画・内容】

- 第1回 放射線の基礎, X線一般撮影の概要(吉野)
- 第2回 X線CT検査, 血管造影, IVR (interventional radiology)の概要と理解(小山内)
- 第3回 MRI, 超音波検査および核医学検査の概要と理解(小山内)
- 第4回 放射線治療の概要と理解(吉野)
- 第5回 放射線被ばくと放射線防護(吉野)
- 第6回 終講試験

【授業実施方法】

スライド(パワーポイント), 資料および板書にて講義する。
毎回の講義の最初または最後に、講義内容に関する小テスト(出席確認を兼ねる)を行う。
質疑形式で進めるので積極的な姿勢で臨むこと。

【授業準備】

シラバスで授業の内容を確認し、配布資料や教科書を用いて予習をしておくこと。

【主な関連する科目】

成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学(第9版) 発行 医学書院

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

筆記試験70%, 出席状況・小テスト20%, レポート課題10%で総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

- 予習, 復習を十分に行っておくこと。
- 小テストのウェイトは大きいので, しっかり講義を聴き, 理解した上で設問に答えること。
- 5回中3回欠席すると試験を受けられないので注意すること。
- 質問や連絡に関しては, 電子メール(hyoshino@hirosaki-u.ac.jp)で随時受け付ける。

授業科目名・形態	病態治療学Ⅱ（外科）	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	吉原 秀一	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題】

消化器および甲状腺、乳腺の疾患についてその診断と治療を概説する。

【到達目標】

1. 消化器病の病態・診断・治療を説明できる
2. 乳腺・甲状腺疾患の病態・診断・治療を説明できる
3. 手術法を理解し手術後の消化管の状態が説明できる
4. 病態の頻度・重症度を理解した上で疾患の重要性を考える

【授業計画・内容】

- 第 1 回 食道
- 第 2 回 胃
- 第 3 回 肝、胆道、膵臓
- 第 4 回 大腸
- 第 5 回 乳腺
- 第 6 回 甲状腺
- 第 7 回 腹壁、ヘルニア
- 第 8 回 補講

【授業実施方法】

講義形式で画像、ビデオなどを使用

【授業準備】

関連分野の解剖生理を復習しておく

臓器の役割を理解しておく

【主な関連する科目】

成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

指定しない

【参考文献】

適宜、紹介する。

【成績評価方法】

定期試験による評価（定期試験 100%）

【学生へのメッセージ】

疾患の要点を的確に把握することに留意する。

特に病態を理解し応用できるようにしておくこと。

授業科目名・形態	病態治療学Ⅱ (脳神経外科)	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	高橋 敏夫	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

中枢神経疾患についての解剖・生理・病態治療学的な知識を深める。更に、脳神経外科の治療対象となる中枢性疾患の特長、看護するためのポイントとその理論的背景を学び、医療現場での応用力を養うことを主眼とする。

【到達目標】

- ① 中枢神経系の構造と機能が理解できる。 ② 脳神経疾患とその治療について理解できる。
 ③ バイタルサインについて理解できる ④ 各疾患の看護のポイントを理解できる。

【授業計画・内容】

第1回 脳神経外科看護の基礎知識

中枢神経系の解剖と病態生理を理解する。(意識障害、頭蓋内圧、脳ヘルニア、神経症候、脳脊髄液) 脳神経疾患の看護の基礎を身につける。

第2回 脳血管障害

脳血管障害とは何かを理解する。(閉塞性脳疾患、出血性脳疾患) 脳血管障害の看護のポイントを学ぶ。(刻々と変化する病態への理解を深める)

第3回 頭部外傷・機能的脳疾患

頭部外傷に伴う脳損傷の病態を理解する。頭部外傷後の合併症の病態、看護のポイントを学ぶ。機能的脳疾患の症候と治療について理解を深める。

第4回 脳腫瘍と中枢神経系感染症

脳腫瘍に共通する病態生理、代表的な脳腫瘍の特長を理解する。脳腫瘍の際に現れる特徴的な症候と看護のポイントを学ぶ。

第5回 先天性奇形・その他

中枢神経系の先天性奇形の発生機序と代表的な奇形の特長を学ぶ。医療事故を回避するために必要な考え方を事例から学ぶ。

【授業実施方法】

プロジェクターを使用した講義形式で行う。当日、スライドと同等の講義資料を配付します。

【授業準備】

3日(3回)に分けた集中講義の形で行いますので、各講義の間隔が空きます。内容を十分に理解するには、講義の前に、前回の講義(特に第1回の講義内容)について復習しておく必要があります。

【主な関連する科目】

解剖学、神経内科学、小児科学、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

特に教科書の指定はありません。参考図書としては「系統看護学講座(専門11)及び(別巻2)」、ビジュアルノート(MEDIC MECIA)等が、良いかも知れません。

【参考文献】 特になし

【成績評価方法】

- 1) 筆記試験 90% 2) 授業態度・出席状況 10% により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

丸暗記するのではなく、個々の疾患の病態を理解することに主眼を置いて下さい。臨床現場で実際に役立つ考え方の基本“何故そうなるのか”を身につけ、知識だけではなく応用力を高めましょう。

授業科目名・形態	病態治療学Ⅱ（整形外科）	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	森川 泰仁	開講期	2年後期	単位数 2

【授業の主題】

運動器の構造と機能および運動器疾患についての理解を深め、その看護についての基本的考え方や実際について学ぶ。

【到達目標】

運動器の知識を身につけて臨床で役立てることができる。国家試験に合格する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 運動器の役割、運動器の構造と機能、運動器疾患の症状
- 第 2 回 運動器疾患の診察、検査、治療法
- 第 3 回 外傷の診療
- 第 4 回 外傷の診療（神経）、脊椎疾患、四肢疾患（変形性関節症、スポーツ障害）、感染症
- 第 5 回 リウマチ性疾患、骨粗鬆症・代謝性疾患、先天性疾患、骨軟部腫瘍

【授業実施方法】

スライドを使った講義と配布資料

【授業準備】

講義予定範囲の教科書の予習

【主な関連する科目】

成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

新体系 看護学全書 成人看護学 11 運動器 メヂカルフレンド社

【参考文献】

配布資料により提示

【成績評価方法】

筆記試験 80% 授業態度・出席状況 20% により総合的に評価する

【学生へのメッセージ】

看護師国家試験問題も考慮した講義内容とします。
講義時間内で触れることができる範囲は限られるので復習、自己学習で補ってください。
社会人としての最低限のマナーを守ってください。

授業科目名・形態	病態治療学Ⅱ（歯科）	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	佐々木 知一	開講期	2年後期	単位数 2

【授業の主題】

歯、口腔領域の疾患の理解、検査と診断、治療方法を学ぶ。

【到達目標】

全身疾患を持った口腔状態の把握を目標とする。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 歯・口腔内・顎骨の解剖、歯科治療(ビデオ)
- 第 2 回 診断及び、歯科治療器具(ビデオ)、全身疾患との関わり
- 第 3 回 歯科疾患の解説、病態スライド

【授業実施方法】

講義、ビデオ、スライド

【授業準備】

講義で使用した配布資料やビデオ、スライドの内容を中心に復習を行って下さい。

【主な関連する科目】

成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学15 歯・口腔

【参考文献】

特に指定しない

【成績評価方法】

筆記試験の成績 90%、出席状況・授業態度 10%により、総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

口腔衛生の重要性、“摂食する”“嚙む”重要性を認識して頂きたい。

授業科目名・形態	病態治療学Ⅱ（眼科）	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	吉田 希望	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題】

医学は科学的な根拠（エビデンス）に基づいて行われることが望ましいが、実際には経験から学ぶことも多い。進歩する学問の中で見えることに対して行われている研究を紹介しながら、眼科疾患の理解を深め看護に生かせる知識を深めてほしい。

【到達目標】

- 1) 眼球の構造と機能を学び、物が見える仕組みを理解する。
- 2) 眼疾患が与える心理的、社会的な問題について理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 眼の構造と機能 見えることについて
 第 2 回 眼症状と疾患について
 第 3 回 全身疾患と眼の関連について

【授業実施方法】

講義

【授業準備】

教科書の予習

第一回 p14-22 第2回 p28-31、p110-114、p117 第3回 p96-99

【主な関連する科目】

成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

系統看護学講座 専門17眼、成人看護学[13]第11版（医学書院）

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

筆記試験で100%評価する

【学生へのメッセージ】

- 1) 見えることに対する理解を深めること（選択問題で配点50点）
- 2) 緊急性の眼疾患を見逃さないこと（記述問題で配点50点）

授業科目名・形態	病態治療学Ⅱ（皮膚科）	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	小野塚 直也	開講期	2年後期	単位数 2

【授業の主題】

ヒトの体を覆う皮膚は、体重の16%をも占める人体で最大の臓器である。水分の保持、体温の調節、微生物の侵入や物理刺激からの保護など生命を維持するための必要不可欠な様々な機能を持つ。皮膚疾患は年齢・性別を問わず実に多岐にわたり、なにより症状が目に見えることが特徴である。

【到達目標】

本講義を通じ、触診、視診による発疹の観察や、皮膚科特有の診断、治療を知り、皮膚疾患の理解を目標とする。

【授業計画・内容】

- 第1回 皮膚の構造と機能
発疹学
- 第2回 診断学
治療学
- 第3回 疾患の理解

【授業実施方法】

講義形式

【授業準備】

講義内容について事前に予習すること。

【主な関連する科目】

成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

系統看護学講座 専門16皮膚科

【参考文献】

適宜、紹介する。

【成績評価方法】

定期試験の成績100%により評価する

【学生へのメッセージ】

予習と復習を行って臨みましょう。

授業科目名・形態	病態治療学Ⅱ（耳鼻咽喉科）	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	蒔苗 公利	開講期	2年後期	単位数	2

【授業の主題】

耳鼻咽喉科領域における基本的知識を習得する

【到達目標】

耳鼻咽喉科領域における基本的知識を習得する

【授業計画・内容】

第一回 耳科学
 第二回 鼻科学
 第三回 咽喉頭学

【授業実施方法】

講義

【授業準備】

講義内容を踏まえ復習を中心に行ってください

【主な関連する科目】

成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

指定なし

【参考文献】

指定なし

【成績評価方法】

筆記試験 80%、出席状況・授業態度 20%で総合的に評価する

【学生へのメッセージ】

授業中にも活発に発言、質問してください

授業科目名・形態	病態治療学Ⅲ（小児科）	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	丹代 諭・澤田 朋啓・藤田 円	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題】

小児の心身の成長・発達や健康状態を母子関係の重要性を理解しながら学ぶとともに、人の一生の中の小児の位置づけを考えてゆく。

また、心身の成長・発達過程での異常や種々の疾患を理解し、それらの症状や治療法についてもよく学習し、小児の特性に配慮した看護について学ぶ。

【到達目標】

看護師になってから実践できる知識を身につける。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 感染症、寄生虫疾患（澤田）
- 第 2 回 感染症、寄生虫疾患（澤田）
- 第 3 回 消化器疾患（澤田）
- 第 4 回 呼吸器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患（丹代）
- 第 5 回 循環器疾患、血液リンパ系疾患、悪性腫瘍（丹代）
- 第 6 回 出生前・新生児疾患（藤田）
- 第 7 回 免疫、アレルギー性疾患、膠原病、腎・泌尿器・生殖器疾患（丹代）
- 第 8 回 神経疾患（藤田）
- 第 9 回 神経疾患（藤田）
- 第 10 回 運動器・皮膚・眼・耳鼻疾患、事故、虐待（丹代）
- 第 11 回 試験

【授業実施方法】

講義、ビデオ供覧、参考書籍紹介

【授業準備】

講義で使用した配布資料や教科書の復習を行ってください。

【主な関連する科目】

小児看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

筆記試験の成績 100%で評価する。

【学生へのメッセージ】

小児科は疾患範囲が広く敬遠されがちだが、コツがあるので楽しく学んでもらいたい。

授業科目名・形態	病態治療学Ⅲ（精神疾患）	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	佐藤泰治	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題】

日本精神看護技術協会では精神科看護を「精神科看護とは、精神的健康において援助を必要としている人々に対し、個人の尊重と権利擁護を基本理念として、専門的知識と技術を用い、自立の回復を通して、その人らしい生活が出来るように支援することである」と定義している(2004)。本講義では、人権に対する真摯な態度と専門的知識の初歩を学習し、各人の今後の看護活動の礎を築くことを目標とする。

【到達目標】

精神疾患の理解と基本的看護知識の習得。国家試験問題の傾向と対策。

【授業計画・内容】

総論

- 第 1 回 精神症状および状態像
- 第 2 回 精神科疾患の分類・診察と検査法
- 第 3 回 精神科医療の歴史
精神科治療（薬物療法・精神療法・その他の治療。リハを除く。）

各論

- 第 4 回 F0 症状性を含む器質性精神障害（認知症・狭義の器質性精神障害・症状精神病）
F1 精神作用物質使用による精神および行動の障害（依存・乱用）
- 第 5 回 F2 統合失調症
- 第 6 回 F3 気分障害（躁うつ病）
- 第 7 回 F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害（神経症・パニック障害・強迫性障害・ヒステリー）
- 第 8 回 F6 成人の人格および行動の障害
- 第 9 回 F7～9 児童精神医学（精神遅滞・発達障害・行動および情緒の障害）
G4 てんかん
- 第 10 回 精神科リハビリテーション

（FX および G4 は国際疾病分類である。）

【授業実施方法】

プリントを中心とした講義。てんかん発作の動画。補足資料。

【授業準備】

事前に配布されたプリントに目を通して、関連する箇所を教科書で調べておく。

【主な関連する科目】

「精神看護学概論」「精神看護方法論Ⅰ」「精神看護方法論Ⅱ」

【教科書等】

精神看護学Ⅱ 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社

【参考文献】

なし。

【成績評価方法】

筆記試験 80%、出席状況 10%、授業態度 10%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

ここで学ぶ事柄は全ての診療科で働く時の基礎となるものであり、精神的に飛躍を果たすべき発達段階にいる諸君にとっては自身に関わる内容でもある。一方、身体科と同様に、精神科看護を取り巻く現状は大きな変革期にある。このため授業で取り上げる内容はおのずと広範とならざるを得ない。授業においては真摯且つ積極的な態度で臨むことを期待する。

授業科目名・形態	病態治療学Ⅲ（産婦人科）	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名		開講期	2年後期	単位数 2

【授業の主題】

産婦人科（学）の領域は非常に広い。古典的産科学、婦人科学に加えて、生殖医学、老年医学をも包含し、女性の一生をサポートする分野であるとともに、社会的諸問題（女性の権利、少子化問題、性の倫理など）と深く関わっている特徴がある。

【到達目標】

女性の健康管理を通じ、社会や文化に与える影響を絶えず考察できる基本的素養を育む。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 女性の生理と解剖
- 第 2 回 産婦人科診断学
- 第 3 回 婦人科腫瘍学 1（良性）
- 第 4 回 婦人科腫瘍学 2（悪性）
- 第 5 回 婦人科機能性疾患 1（生殖医学・性感染症）
- 第 6 回 婦人科機能性疾患 2（老年婦人科学）
- 第 7 回 正常妊娠と異常妊娠
- 第 8 回 分娩生理学（正常分娩と異常分娩）
- 第 9 回 産科合併症と産科手術学
- 第 10 回 母子保健概論

【授業実施方法】

講義（スライド使用）

【授業準備】

講義で使用した配布資料やスライドの内容を中心に復習を行ってください。

【主な関連する科目】

母性看護学概論、母性看護方法論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

【教科書等】

系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 9 女性試生殖器 医学書院
 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学 2 母性看護学各論 医学書院

【参考文献】

なし

【成績評価方法】

講義終了時に実施する定期試験（100％）により、評価する。

【学生へのメッセージ】

社会の繁栄・家庭の幸せにとって、女性の健康がいかに重要であるかを、本講によって諸君は痛感するであろう。

授業科目名・形態	保健・医療と法律	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	古川照美・川村泰子	開講期	2年後期	単位数 2

【授業の主題】

看護職に関連のある医事、保健衛生、社会保障、薬事、福祉、労働などの関係法規について学習する。関係法規に関連する社会的な動向、背景について理解する。

【到達目標】

- 1) 法の概念や法の分類を理解する。
- 2) 看護関連法について、法の定義、内容、体系を理解する。
- 3) 法制定に関連する社会的背景と制定後の動向を理解する。

【授業計画・内容】

第1回	法の概念	(古川)
第2回	保健衛生法	(古川)
第3回	保健衛生法	(古川)
第4回	保健衛生法	(古川)
第5回	社会保障法	(古川)
第6回	社会保障法	(古川)
第7回	労働法と社会基盤整理	(古川)
第8回	労働法と社会基盤整理	(古川)
第9回	看護法	(川村)
第10回	医師法・医療法	(川村)
第11回	関係資格法	(川村)
第12回	医療を支える法	(川村)
第13回	薬務法	(川村)
第14回	環境衛生法	(川村)
第15回	環境法	(川村)

【授業実施方法】

講義

【授業準備】

講義前に教科書を一読してください。また、普段から新聞等に目を通し、看護・医療に関連する法律などの動向に関心をもって臨んでください。

【主な関連する科目】

公衆衛生学

【教科書等】

看護関係法令 医学書院

【参考文献】

【成績評価方法】

期末試験 80%、課題レポート 10%、出席態度 10%で評価する。古川、川村担当が 50%で配点する。

【学生へのメッセージ】

可能な限り実際例を示しながら講義しますが、学生自身の興味ある分野については、積極的に応答して欲しいと思います。

授業科目名・形態	看護倫理	講義	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	五十嵐靖彦	開講期	2年後期	単位数	1

【授業の主題】

専門職としての看護業務を、適切かつ有効に遂行するための規範となる心構えや行動原理について、倫理的視点から考察します。

【到達目標】

- 1) 看護とは人間関係一般の中でも、特殊・微妙な職域であることを理解すること。
- 2) その業務を全うする上では、特に倫理的配慮が大切であることを理解すること。
- 3) その倫理的配慮の中では、なによりも生命の尊厳、人権の尊重という価値観を深く身に付けること。

【授業計画・内容】

- 第1回 倫理とは（倫理の語義とそれを研究する倫理学についての説明）
- 第2回 倫理一般と領域倫理（社会人として心得るべき一般倫理と職域毎の特殊化される倫理について）
- 第3回 医の倫理について（医療に関連した職域分野の種々の倫理綱領について）
- 第4回 看護倫理の概念と歴史（ナイチンゲールから現代までの看護倫理の歩み）
- 第5回 看護倫理関連のキーワードの解説（人間の尊厳、インフォームド・コンセント、アドボカシー等々）
- 第6回 同上 続講
- 第7回 看護研究における倫理的配慮（研究倫理を審査する倫理委員会について）
- 第8回 事例研究（こういう場合、どう判断し、どう行動すればよいか）

【授業実施方法】

基本的に講義形式ですが、随時資料を読んでもらったり、質問に答えてもらったりします。

【授業準備】

毎回授業の終わりに、次回の授業に関連したテーマや文献について当たっておくようにと指示しますので、それを守ってください。

【主な関連する科目】

看護学概論

【教科書等】

教科書は使用しません。毎回資料を配付します。

【参考文献】

- 石井トク編『看護倫理』学研プラス 2014
- 小西恵美子他編『看護倫理』南江堂 2012
- 島崎玲子他編『看護学概論』医歯薬出版 2012
- 盛永審一郎他編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 2012

【成績評価方法】

平常点（出席状況・ミニテスト20%）と期末テスト（80%）の合算。

【学生へのメッセージ】

配付される資料はかなりな量になるはずですので、散失しないよう整理し保存してください。

授業科目名・形態	看護コミュニケーション	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	黒澤繭子・佐藤純子	開講期	2年後期	単位数 1

【授業の主題】

コミュニケーション技術は、患者や家族へ望む看護を実践するため、他の看護職者、医療職者、連携する各職者と良好な関係を築くために欠かせない技術である。この授業を通じて自己のコミュニケーション能力を振り返り、看護技術としてのコミュニケーション技術を学習する。

【到達目標】

- 1) 看護におけるコミュニケーションの特徴と重要性を理解する
- 2) コミュニケーションの基本的な方法について理解し、実践する
- 3) コミュニケーションに障害がある人の特徴に応じた対応を理解する

【授業計画・内容】

- 第 1 回 看護コミュニケーションの特徴 (黒澤)
- 第 2 回 ロールプレイングとプロセスレコード①概要と準備 (黒澤)
- 第 3 回 ロールプレイングとプロセスレコード②実施 (黒澤・佐藤)
- 第 4 回 ロールプレイングとプロセスレコード③評価の仕方 (黒澤)
- 第 5 回 事例を読んで考える (黒澤)
- 第 6 回 障害に応じたコミュニケーション (黒澤)
- 第 7 回 看護に必要な対話の技術 (黒澤)
- 第 8 回 ロールプレイングとプロセスレコード④再実施・評価 (黒澤・佐藤)

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

授業内容に関連した教科書の章にあらかじめ目を通して授業にのぞんでください。また、授業で配布する資料や教科書で復習をし、理解を深めてください。

【主な関連する科目】

コミュニケーション論、カウンセリング、看護過程論

【教科書等】

大森武子、大下静香、矢口みどり：仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス、医歯薬出版株式会社

【参考文献】

茂野 香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 第 16 版、医学書院、2015
杉本なおみ：医療者のためのコミュニケーション入門、精神看護出版

【成績評価方法】

提出課題 (95%)、演習態度・出席状況 (5%) により総合的に評価する

【学生へのメッセージ】

早期体験実習および基礎看護実習を通して、患者や患者の家族・看護師・医療従事者らとのコミュニケーションは欠かせないものであることを実感できたと思う。この授業では自分のコミュニケーション技術を振り返り、看護技術としての必要なコミュニケーション能力を身につける契機としてほしい。

授業科目名・形態	看護過程論	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	黒澤繭子・小畑千春	開講期	2年 前期・後期	単位数	2

【授業の主題】

看護過程は、様々な対象の、様々なニーズに対応し、その人らしく生活できるように支援するための目的や機能を持った看護を具体的に実践するための手段・方法論である。この授業では、効果的な看護活動を展開するための系統的な問題解決技法である看護過程を展開する方法を学ぶ。

【到達目標】

1. 看護過程を展開するための基礎的な知識とその方法、一連の流れを理解できる
2. 紙上事例を用いた看護過程を展開し、情報収集から看護計画の立案までを行うことができる
3. 看護記録の方法を理解できる
4. ケーススタディを行うためのケースレポートが作成できる

【授業計画・内容】 ※H28.4.4 現在の予定、第21回以降は再度修正の可能性あり

第1回	看護過程とは(1) (黒澤・小畑)	第16回	計画立案(3) (黒澤)
第2回	看護過程とは(2) (黒澤)	第17回	実施・評価・修正 (黒澤)
第3回	看護過程の概要と構造(1) (黒澤)	第18回	電子カルテシステムとクリティカルパス 看護記録とは (黒澤)
第4回	看護過程の概要と構造(2) (黒澤)	第19回	計画立案(4) 事例演習 (黒澤)
第5回	看護過程の概要と構造(3) (黒澤)	第20回	看護記録の概要 (小畑)
第6回	情報収集(アセスメント) (黒澤)	第21回	ケーススタディを行うためのケースレポートの書き方 (黒澤)
第7回	ゴートソンの機能的健康パターン (黒澤)	第22回	看護過程の評価 ケースレポート作成(1) (黒澤)
第8回	アセスメント 事例演習 (黒澤)	第23回	ケースレポート作成(2) (黒澤)
第9回	看護診断・共同問題 (黒澤)	第24回	ケースレポート作成(3) (黒澤)
第10回	情報の解釈・判断 (黒澤)	第25回	ケースレポート発表・検討会(1)準備 (黒澤)
第11回	看護診断 事例演習 (黒澤)	第26回	ケースレポート発表・検討会(2)準備 (黒澤)
第12回	全体像の把握・関連図 (黒澤)	第27回	看護記録(1) (小畑)
第13回	関連図 事例演習 (黒澤)	第28回	看護記録(2) (小畑)
第14回	計画立案(1) (黒澤)	第29回	ケースレポート発表・検討会(3)発表 (黒澤・小畑)
第15回	計画立案(2) (黒澤)	第30回	ケースレポート発表・検討会(4)発表 (黒澤・小畑)

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

授業内容に関連した教科書の章にあらかじめ目を通して授業にのぞんでください。また、授業で配布する資料や教科書で復習をし、理解を深めてください。

【主な関連する科目】

看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論、老年看護学概論

【教科書等】

石川ふみよ編著：看護過程の解体新書 第1版、学研、2015

リンダ J.カルペニートモイ著、新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック 第10版、医学書院、2013

高木永子監修：看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第4版、学研、2014

【参考文献】

ロザリンド・アルファロールワイヴァ著、本郷久美子監訳：基本から学ぶ看護過程と看護診断 第7版、医学書院

井上智子、佐藤千史編：緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 第2版、医学書院

新見明子編：根拠がわかる疾患別看護過程 病態生理と実践がみえる関連図と事例展開 改訂第2版、南江堂

【成績評価方法】

定期試験 40%、ケースレポート 40%、課題提出 10%、授業態度・出席状況 10%より総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

看護過程は看護実践を効果的に行っていくために必須となります。この授業で学んだことを基礎とし、ほぼすべての臨地実習でこの方法論を用いた看護展開を行っていきます。

授業科目・形態	小児看護学概論	講義	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	佐藤光子	開講期	2年前期	単位数	1

【授業の主題】

子どもたちがより健やかに成長・発達をとげていくことは人類共通の願いである。これからの社会を担う子どもたちの命を守り、困難な状況を改善し、健やかな成長・発達を保証することは社会全体の責務でもあるが、医療・看護の役割は特に大きいといえる。子どもを取り巻く環境が急激に変化しているなかで子どもの健康を守り、健やかな成長・発達を支えるためには対象である子どもの特徴について学ぶことが欠かせない。また子どもを取り巻く環境として家族や社会の状況を知る意義は大きい。子どもへの直接的な支援と共に、家族が安心して育児にあたることのできる環境づくりが小児看護の重要な役割であることを理解することが重要である。

【到達目標】

1. 小児看護の対象と看護師の役割を理解する
2. 小児の成長・発達の特徴を理解する
3. 小児の発達段階に応じた生活援助方法を理解する。
4. 小児を取り巻く家族・社会の環境を理解し、小児看護の特性と保健、福祉について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 小児看護の特徴と理念
- 第2回 小児の成長と発達
- 第3回 小児各期の健やかな成長と発達のための看護 ①新生児・乳児
- 第4回 小児各期の健やかな成長と発達のための看護 ②幼児・学童
- 第5回 小児各期の健やかな成長と発達のための看護 ③思春期・青年期の小児
- 第6回 小児・家族のアセスメント
- 第7回 小児と家族を取り巻く社会
- 第8回 まとめ

【授業実施方法】 講義

【授業準備】

現代の子どもと家族がおかれている状況には様々な問題があります。子どもが健やかな成長・発達をしていく上でどんな問題があるのか、マスメディアの情報や参考書を関心を持って見てください。

【主な関連する科目】「小児看護方法論 I」「小児看護方法論 II」「病態治療学 III（小児科）」

【教科書等】

系統看護学講座 専門 II 小児看護学 [1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論、医学書院、

【参考文献】 授業で適時紹介する。

【成績評価方法】

定期試験 90%、授業参加態度、及び出席状況等 10%を総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

子どもと家族を取り巻く社会の変化をふまえ、健やかな成長と発達を支援するための小児看護の役割を理解してほしいと願っています。

授業科目名・形態	小児看護方法論 I 演習	必修・選択の別		必修	
担当者氏名	佐藤光子・千葉孝子・高山新吾・伊藤洋介・山平良子	開講期	2年後期	単位数	1

【授業の主題】

子どもの成長・発達を踏まえて発達段階に応じた養護方法を理解し健やかな家庭生活、社会生活ができる知識・技術を学ぶ。さらに病気や健康障害を持つ子どもと家族の置かれている状況や治療過程を理解し、支援できるための基礎的な知識・技術を習得する。

【到達目標】

1. 小児の発達段階に応じた養護方法を理解する。
2. 健康障害や入院が小児とその家族に及ぼす影響とその看護を理解する。
3. 小児の看護に必要な基本的な看護技術を習得する。
4. 治療を受ける小児の入院環境を理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 日常生活の養護（遊び含む）（佐藤）
 第 2 回 小児の栄養（佐藤）
 第 3 回 事故防止・主な事故と看護（頭部外傷、熱傷等時の看護）（佐藤）
 第 4 回 外来受診・入院を必要とする小児と家族の看護（佐藤）
 第 5 回 在宅療養中の小児の看護・障害のある小児の看護（佐藤）
 第 6 回 新生児の看護・低出生体重児の看護（佐藤）
 第 7 回 小児のアセスメントーコミュニケーション、バイタルサイン等（伊藤）
 第 8 回 小児のアセスメントー身体測定（体重、身長、頭囲、等）、その他（伊藤）
 第 9 回 検査・処置を受ける小児の看護ー検査・処置体験と看護の実際（佐藤）
 第 10 回 検査・処置を受ける小児の看護ー与薬、注射、輸液管理、検体採取等（佐藤）
 第 11 回 基本となる小児看護技術（演習①）（佐藤・千葉・高山・伊藤・山平）
 第 12 回 基本となる小児看護技術（演習②）（佐藤・千葉・高山・伊藤・山平）
 第 13 回 演習の振り返り まとめ（佐藤）
 第 14 回 施設見学（佐藤・伊藤）
 第 15 回 施設見学のまとめ（佐藤・伊藤）

【授業実施方法】 講義・演習

【授業準備】 小児看護学概論で学んだ、小児の成長・発達段階ごとの特徴を理解しておくこと。

【教科書等】

系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護学総論 医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学〔2〕小児看護学各論 医学書院

【参考文献】 必要に応じ、授業で紹介する。

【主な関連する科目】 「小児看護学概論」「小児看護方法論Ⅱ」「病態治療学Ⅲ（小児科）」

【成績評価方法】 筆記試験 80%、演習 10%、施設見学レポート及び出席状況等 10%を総合して評価する。

【学生へのメッセージ】

小児の生活行動の発達と養護、健康障害を持つ小児と家族について学び、援助方法を考えましょう。日頃から小児の健康に関心を持って情報収集してください。

授業科目名・形態	小児看護方法論 II 演習	必修・選択の別	必修		
担当者氏名	佐藤光子・佐々木冷子・伊藤洋介	開講期	2年後期	単位数	1

【授業の主題】

健康障害を持つ小児と家族の問題を統合的に捉え、生活・療養するための基本的知識について学ぶ。小児におこりやすい疾患や健康問題について理解を深めその看護について学習する。

【到達目標】

1. 疾患や健康レベルの経過に応じた看護の実践方法について理解する。
2. 小児におこりやすい疾患や健康問題のレベルに応じた看護の実践方法について理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 症状の観察と看護—一般状態、痛み、発熱 (佐々木)
- 第 2 回 症状の観察と看護—呼吸・循環器の症状 (佐々木)
- 第 3 回 症状の観察と看護—消化器症状、水分・電解質異常 (佐々木)
- 第 4 回 症状の観察と看護—血液、神経・筋症状、その他 (佐々木)
- 第 5 回 小児の主な疾患と看護—先天性異常、新生児マススクリーニング (佐々木)
- 第 6 回 小児の主な疾患と看護—代謝性疾患 (I型糖尿病)、内分泌疾患 (佐々木)
- 第 7 回 小児の主な疾患と看護—免疫疾患、アレルギー疾患、感染症 (佐々木)
- 第 8 回 小児の主な疾患と看護—呼吸器疾患、循環器疾患 (佐々木)
- 第 9 回 小児の主な疾患と看護—消化器疾患、血液・造血器疾患 (佐々木)
- 第 10 回 小児の主な疾患と看護—腎・泌尿器および生殖器疾患、悪性新生物 (佐々木)
- 第 11 回 小児の主な疾患と看護—神経疾患、その他 (佐々木)
- 第 12 回 小児看護における看護過程展開① (佐藤・伊藤)
- 第 13 回 急性期及び周手術期にある小児と家族の看護 (佐藤)
- 第 14 回 慢性期及び終末期にある小児と家族の看護 (佐藤)
- 第 15 回 小児看護における看護過程展開② (演習発表) まとめ (佐藤・伊藤)

【授業実施方法】 講義・演習

【授業準備】 小児看護学概論、病態治療学 (小児科) での学習を基に小児の特徴を理解しておくこと

【教科書等】

系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護学総論、医学書院
 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護学各論、医学書院

【参考文献】 必要に応じ、授業で紹介する。

【成績評価方法】

筆記試験 90%、演習・出席状況及び授業参加状況等 10%を総合して評価する。

【主な関連する科目】 「小児看護学概論」「小児看護方法論 I」「病態治療学 III (小児科)」

【学生へのメッセージ】

子どもは一人の尊厳ある存在として生きる権利があります。子どもが自分を大切に、自分に自信を持って、自分の未来に希望を抱いて幸せな日々を送れるよう、小児看護の立場から一緒に考えていきましょう。

授業科目名・形態	次世代育成ケア論	講義	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	岩間 薫	開講期	2年前期	単位数	1

【授業の主題】

少子化に対する支援策が打ち出されているが、次世代を育む母子や家族の支援者となるためには、育児の基礎的知識・技術、母子や家族が直面している状況、現代における育児の諸問題を知ることが必要である。そこで、母性・父性・育児性の概念を明らかにし、思春期および性と生殖の健康問題等にも視点を置きながら、次世代を育成・支援することができるための知識・技術を学ぶ。

【到達目標】

1. 母性・父性・育児性の意味と概念を理解する。
2. 性とセクシュアリティの意味と概念を理解する。
3. 思春期の健康とセクシュアリティについて理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 母性・父性・育児性とは①
- 第2回 母性・父性・育児性とは②
- 第3回 母性・父性・育児性とは③
- 第4回 思春期の健康とセクシュアリティ①：セクシュアリティとは①
- 第5回 思春期の健康とセクシュアリティ②：セクシュアリティとは②
- 第6回 思春期の健康とセクシュアリティ③：思春期の性の理解①
- 第7回 思春期の健康とセクシュアリティ④：思春期の性の理解②
- 第8回 まとめ

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

授業中、疑問に思ったことや出された課題は、次回の授業までに必ず調べ、まとめておくこと。

【主な関連する科目】

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、母性看護学概論、母性看護方法論、母性看護学実習、助産科目

【教科書等】

資料配付

【参考文献】

適宜提示

【成績評価方法】

筆記試験 90%、授業への取り組み姿勢・出席状況 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

「母性とは?」「父性とは?」今まで、考えてみたことはありますか?

母性看護の対象理解につながる基本的な概念、性やセクシュアリティについて一緒に考えていきましょう。

授業科目名・形態	母性看護学概論 講義	必修・選択の別	必修		
担当者氏名	岩間 薫	開講期	2年前期	単位数	1

【授業の主題】

リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と意義を基盤に、女性のライフステージ各期の特徴や発達課題等から対象者を理解し、多岐にわたる女性の健康問題とその看護の基礎的知識について学ぶ。人間の性と生殖について理解し、母性看護における意義・生命倫理・看護倫理や具体的業務内容・責務・看護師の役割等について学ぶ。また、わが国および諸外国における母性看護の歴史的変遷と現状を母子統計、組織・法律、母子保健施策等から学ぶ。

【到達目標】

1. 母性看護の基盤となる概念と意義について理解する。
2. 母性看護の対象を取り巻く社会変遷と現状について理解する。
3. 女性のライフステージ各期における看護問題および看護について理解する。
4. 性とセクシュアリティに関わる看護問題について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 母性看護の基盤となる概念①
- 第2回 母性看護の対象を取り巻く社会変遷と現状①
- 第3回 母性看護の対象を取り巻く社会変遷と現状②
- 第4回 女性のライフステージ各期における看護①
- 第5回 女性のライフステージ各期における看護②
- 第6回 リプロダクティブ・ヘルス
- 第7回 母性看護実践に必要な技術
- 第8回 まとめ

【授業実施方法】

講義

【授業準備】

授業中、疑問に思ったことや出された課題は、次回の授業までに必ず調べ、まとめておくこと。

【主な関連する科目】

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、次世代育成ケア論、母性看護方法論、母性看護学実習、助産科目

【教科書等】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① (医学書院)

【参考文献】

適宜提示

【成績評価方法】

筆記試験 80%、授業への取り組み姿勢・グループワークの発表内容・出席状況 20%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

- ・ 次世代育成ケア論と母性看護学概論は、母性看護方法論や母性看護学実習の基礎となります。
- ・ 初めて耳にする専門用語が授業中、多く出てきます。必ず、復習してください。

授業科目名・形態	母性看護方法論 演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	岩間 薫・山平良子・伊藤洋介・高山新吾	開講期	2年後期 単位数 2

【授業の主題】

女性のライフステージが多様化する中、子どもを生み育てることを選択した女性に生じる問題（遺伝・不妊）や対象者の自己決定権を支援する看護と倫理について学ぶ。

マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期）にある女性、新生児期にある対象者の健康問題を総合的に捉え、健康診査、健康教育・援助等を行うための基礎的知識・技術及び異常時の看護等について学ぶ。

【到達目標】

1. 女性に生じる問題（遺伝・不妊）や対象者の自己決定権を支援する看護と倫理について理解する。
2. マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期）にある女性、新生児の健康診査、健康教育・援助等を行うための基礎的知識・技術及び異常時の看護等について理解する。

【授業計画・内容】

第1回	妊娠期の看護①	(岩間)	第19回	産褥期の看護①	(岩間)
第2回	妊娠期の看護②	(岩間)	第20回	産褥期の看護②	(岩間)
第3回	妊娠期の看護③	(岩間)	第21回	産褥期の看護③	(岩間)
第4回	妊娠期の看護④	(岩間)	第22回	産褥期の看護④	(岩間)
第5回	妊娠期の看護⑤	(岩間)	第23回	産褥期の看護⑤	(岩間)
第6回	妊娠期の看護⑥	(岩間)	第24回	産褥期の看護⑥・新生児の看護④	
第7回	妊娠期の看護⑦	(岩間)		: 演習A 母性看護技術②	(岩間)
第8回	妊娠期の看護⑧	(岩間)	第24回	産褥期の看護⑦・新生児の看護⑤	
第9回	妊娠期の看護⑨	(岩間)		: 演習A 母性看護技術①	(岩間)
第10回	妊娠期の看護⑩	(岩間)	第25回	妊娠期の看護⑭・産褥期の看護⑧	
第11回	妊娠期の看護⑪	(岩間)		: 演習B 母性看護技術②	(岩間・山平)
第12回	妊娠期の看護⑫	(岩間)	第26回	妊娠期の看護⑮・産褥期の看護⑨	
第13回	妊娠期の看護⑬	(岩間)		: 演習B 母性看護技術①	(岩間・山平)
第14回	分娩期の看護①	(岩間)	第27回	新生児の看護⑥	
第15回	分娩期の看護②	(岩間)		: 演習B 母性看護技術②	(岩間・伊藤・高山)
第16回	分娩期の看護③	(岩間)	第28回	新生児の看護⑦	
第14回	分娩期の看護④	(岩間)		: 演習B 母性看護技術③	(岩間・伊藤・高山)
第15回	分娩期の看護⑤	(岩間)	第29回	まとめ	
第16回	新生児の看護①	(岩間)		: 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護	(岩間)
第17回	新生児の看護②	(岩間)	第30回	遺伝相談・不妊治療と看護	(岩間)
第18回	新生児の看護③	(岩間)			

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

復習と予習をして、次回の授業では積極的に発言できるようにする。

【主な関連する科目】

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、次世代育成ケア論、母性看護学概論、母性看護学実習、助産科目

【教科書等】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 (医学書院)

写真でわかる 母性看護技術アドバンス 褥婦・新生児の観察とケア、母乳育児を理解しよう! (インターメディカ)

【参考文献】

適宜提示

【成績評価方法】

筆記試験 80%、授業への取り組み姿勢・提出物・出席状況 20%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

- ・ 授業は3年生の実習につながっています! 授業に集中し、予習、復習に励んでください。
- ・ 自分の母子健康手帳のある人は一度、目をとっておください。あなたの生の軌跡がわかります。
- ・ 妊婦さんや子ども連れの親子を見かけたら、見守り、やさしく接してください。

授業科目名・形態	成人看護方法論 I	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	山内久子・佐藤純子	開講期	2年前・後期	単位数 2

【授業の主題】

慢性疾患を持つ成人期にある患者およびその家族を理解すると共に、代表的な慢性疾患、特に生活習慣病を中心にセルフケア行動の確立を目指し、各疾患の予防法、日常生活上の留意点、看護援助の方法等について倫理的配慮を含めて教授する。また、がん看護の特殊性、その倫理的課題や予防および早期発見における活動についても学ぶ。

【到達目標】

- 1) 生活習慣と疾患との関連性について理解を深め、自分自身の生活習慣を振り返り、予防活動を理解する。
- 2) がんとその看護について理解を深め、倫理的課題や予防活動についても知る。

【授業計画・内容】

前期) 担当：山内

- 第1回 慢性期看護の考え方①
- 第2回 慢性期看護の考え方②
- 第3回 慢性期にある人と家族の特徴と理解①
- 第4回 慢性期にある人と家族の特徴と理解②
- 第5回 慢性期にある人と家族への看護援助①
- 第6回 慢性期にある人と家族への看護援助②
- 第7回 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護①
- 第8回 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護②
- 第9回 慢性の循環機能障害をもつ患者の看護①
- 第10回 慢性の循環機能障害をもつ患者の看護②
- 第11回 慢性の脳・神経機能障害をもつ患者の看護
- 第12回 慢性の脳・神経機能障害をもつ患者の看護
- 第13回 慢性の栄養摂取・代謝機能障害をもつ患者の看護①
- 第14回 慢性の栄養摂取・代謝機能障害をもつ患者の看護②
- 第15回 慢性の栄養摂取・代謝機能障害をもつ患者の看護③

後期) 担当：佐藤

- 第16回 自己管理をする患者への援助（演習）
(山内・佐藤)
- 第17回 慢性の内部環境調節障害をもつ患者の看護
- 第18回 慢性の内部環境調節障害をもつ患者の看護
- 第19回 慢性の内部環境調節障害をもつ患者の看護
(事例展開)
- 第20回 慢性の運動機能障害をもつ患者の看護
- 第21回 慢性の運動機能障害をもつ患者の看護
- 第22回 慢性の生体防御機能障害をもつ患者の看護
- 第23回 慢性の生体防御機能障害をもつ患者の看護
- 第24回 慢性の排泄機能・性機能障害をもつ患者の看護
- 第25回 慢性の感覚機能調節障害をもつ患者の看護
- 第26回 慢性の造血障害を持つ患者の看護
- 第27回 がん医療の現状とがん看護の特殊性
- 第28回 がん治療法に対する看護
- 第29回 がん患者の看護（事例展開）
- 第30回 まとめ

【授業実施方法】 主として講義形式で行い、適宜、演習やグループワークを取り入れる。

【授業準備】 解剖生理学や疾病について復習し、講義中に取り上げる疾患の看護についても予習して下さい。また、慢性疾患の新たな動向にも着目し、講義内容の理解を深めて下さい。

【教科書等】 成人看護学 慢性期看護論 ノーヴェルヒロカワ、系統看護学講座 がん看護学 医学書院

【参考文献】 臨床看護技術ガイドほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価方法】 試験（80%）、レポート・受講態度・出席状況など（20%）を総合的に評価する。

【主な関係科目】 成人看護学概論、成人看護方法論Ⅱ・Ⅲ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ

【学生へのメッセージ】 慢性の障害をもつ患者の看護を学ぶと共に、各自の生活習慣を振り返りましょう。

授業科目名・形態	成人看護方法論Ⅱ	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	佐藤純子・今野 修	開講期	2年前・後期	単位数 2

【授業の主題】

急性期、回復期、クリティカルな状況にある成人期の対象と家族の特徴とニーズを理解し、その特徴と家族への看護援助方法を学ぶ。また、機能障害別に症状の特徴を理解し、成人期の対象の特性を踏まえた看護援助方法を学ぶ。

【到達目標】

- 1) クリティカル状態の患者・家族の特徴と看護援助について理解する
- 2) リハビリ期にある患者の特徴と必要とされる看護援助について理解する

【授業計画・内容】

前期) 担当：佐藤

- 第1回 クリティカルケア看護の考え方
- 第2回 クリティカルケアを必要とする人の特徴と看護
- 第3回 リハビリテーション看護の考え方
- 第4回 リハビリテーションを必要とする人の特徴と看護
- 第5回 呼吸器系の障害のある患者の看護
- 第6回 呼吸管理とその看護
- 第7回 循環器系の障害のある患者の看護①
- 第8回 循環器系の障害ある患者の看護②
- 第9回 消化器系の障害のある患者の看護①
- 第10回 消化器系の障害のある患者の看護②
- 第11回 生体防御機能の障害のある患者の看護①
- 第12回 生体防御機能の障害のある患者の看護②
- 第13回 感覚器系の障害のある患者の看護
- 第14回 人工呼吸器装着患者の看護と呼吸リハビリ
(ゲストスピーカー：呼吸リハビリ療法士)
- 第15回 急性期看護の事例展開とまとめ

後期) 担当：今野

- 第16回 中枢神経系の障害のある患者の看護①
- 第17回 中枢神経系の障害のある患者の看護②
- 第18回 運動器系の障害のある患者の看護①
- 第19回 運動器系の障害のある患者の看護②
- 第20回 リハビリテーション看護に必要な看護技術
(グループワーク)
- 第21回 リハビリテーション看護に必要な看護技術
(グループワーク)
- 第22回 リハビリテーション看護に必要な看護技術
(演習)
- 第23回 創傷ケアと感染予防対策①
- 第24回 創傷ケアと感染予防対策②
- 第25回 障害受容に対する看護援助①
- 第26回 障害受容に対する看護援助②
- 第27回 クリティカルケアに必要な看護技術
(グループワーク)
- 第28回 クリティカルケアに必要な看護技術 (演習)
- 第29回 クリティカルケアに必要な看護技術 (演習)
- 第30回 まとめ

【授業実施方法】 講義、演習、グループワーク

【授業準備】 解剖生理学、各種疾患について復習しておいてください。

【教科書等】 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)、系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 (医学書院)

【参考文献】 適宜、授業で紹介します

【成績評価方法】 試験 (80%)、レポート・受講態度・出席状況など (20%) を総合的に評価します。

【主な関係科目】 成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅲ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ

【学生へのメッセージ】 クリティカル期・回復期の特徴を学び、観察することの大切さ、患者さんはもちろんのこと周囲への配慮を学んで欲しいと思います。解剖学・生理学を復習し、学習に臨んでください。

授業科目名・形態	成人看護方法論Ⅲ（周手術期）	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	水木暢子・村川徳昭	開講期	2年後期	単位数	1

【授業の主題】

周手術期にある成人期の対象の諸問題を理解し、手術を受ける患者・家族のQOLを高める方法を学ぶ。手術前後における心身の侵襲を予測し、患者自身が回復の意欲や目標を持ち新たなセルフケア能力を獲得できるための看護者の役割を学ぶ。また、成人期に遭遇しやすい代表的な手術を受ける患者の看護を取り上げ、術前から術後に至る一連の流れに沿った看護実践について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 健康障害を持ち手術療法を受ける対象の看護アセスメントと看護方法を適切に考察できる。
- 2) 周手術期にある対象と家族を身体的・心理・社会的にとらえ、適切な看護援助を提供するための基本を理解できる。
- 3) 術後合併症の予防と看護について考察できる。
- 4) 代表的な手術を受ける患者の特徴や術前・術中・術後に必要な看護援助の基本を習得する。

【授業計画・内容】

- | | | | |
|--------|---------------------------------|------|--|
| 第 1 回 | 周手術期看護の特徴と対象の理解 | (水木) | |
| 第 2 回 | 周手術過程に応じた看護① 術前の看護 | (水木) | |
| 第 3 回 | ” ② 術中の看護 | (村川) | |
| 第 4 回 | ” ③ 術後の看護 | (水木) | |
| 第 5 回 | 手術合併症予防のための看護技術 (グループワーク) | (水木) | |
| 第 6 回 | ” (グループ発表) | (水木) | |
| 第 7 回 | 呼吸機能障害をもつ人の看護：肺切除術を受ける患者の場合 | (水木) | |
| 第 8 回 | 栄養摂取障害をもつ人の看護：胃切除術を受ける患者の場合 | (水木) | |
| 第 9 回 | 排泄機能障害をもつ人の看護：ストーマ造設術を受ける患者の場合 | (水木) | |
| 第 10 回 | 排泄障害時の看護技術 (ストーマケアの演習) | (水木) | |
| 第 11 回 | 性・生殖機能障害をもつ人の看護①：乳房切除術を受ける患者の場合 | (水木) | |
| 第 12 回 | 性・生殖機能障害をもつ人の看護② | (水木) | |
| | ：子宮摘出術・前立腺切除術を受ける患者の場合 | (水木) | |
| 第 13 回 | 内視鏡下手術と日帰り手術を受ける人の看護 | (水木) | |
| | 周手術期における健康教育 | | |
| 第 14 回 | 周手術期にある人の看護アセスメント① | (水木) | |
| 第 15 回 | 周手術期にある人の看護アセスメント② | (水木) | |

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

専門基礎科目、成人看護学概論等、既習の関連科目の復習が必要です。特に病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ中で、本科目で取り扱う疾患や治療についての事前学習課題を最初の授業で提示するので、十分に復習してください。また次回授業のレジュメや資料を提示するので事前学習に活用してください。

【主な関連する科目】

病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

成人看護学 周手術期看護論 ニューヴェルヒロカワ

【参考文献】

成人看護学 B 急性期にある患者の看護Ⅱ 周手術期看護 廣川書店
成人看護学 H 成人看護技術Ⅱ 急性期にある患者の看護技術 廣川書店

【成績評価方法】

筆記試験 80%、提出課題 10%、授業への参加態度・出席状況 (10%) により評価する。

【学生へのメッセージ】

周手術期の対象に対する看護方法を楽しく学習していきましょう。

授業科目名・形態	老年看護方法論 I	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	檜原登志子・芳賀邦子・黒澤繭子	開講期	2年前期	単位数	1

【授業の主題】

高齢者の老化に伴う機能低下の日常生活変化に対し、健康を維持する為の支援を目的とする。又、多くの慢性疾患を持つ高齢者も増加の中、多く現れる主要症状を理解する為、病態生理、機能評価方法・尺度を用い必要なアセスメントを行い、生活者の視点から自立とセルフケアや QOL の向上を考え、その人らしい日常生活を送る為持っている機能（生活機能という）に対し、安全な技術や援助方法を学習する。

【到達目標】

1. 高齢者の老化に伴う機能低下の日常生活変化に対し、健康を維持する為の支援を理解できる。
2. 慢性疾患の主要症状とその病態生理を理解できる。
3. 機能評価方法・(指標・尺度)を用い必要なアセスメントを理解できる。
4. その人らしい日常生活を送る為の生活機能に対する、安全な技術や援助方法を理解できる。

【授業計画・内容】

第1回	老年看護援助の基本		(檜原)
第2回	高齢者のアセスメント		(檜原)
第3回	身体に加齢変化とアセスメント	フィジカルアセスメントから看護ケアへ (外皮系・感覚系)	(檜原)
第4回	〃	(循環系呼吸器系・消化器系)	(芳賀)
第5回	〃	(内分泌系・生殖泌尿器系・運動器系)	(檜原)
第6回	高齢者によく見られる身体症状とアセスメント	発熱・痛み・かゆみ	(芳賀)
第7回	高齢者の生活機能を整える看護展開		(檜原)
第8回	高齢者によく見られる身体症状とアセスメント	脱水・浮腫・倦怠感	(芳賀)
第9回	日常生活を支える基本動作能力のアセスメントと看護ケア	(評価指標・尺度)	(檜原)
第10回	転倒のアセスメントと看護ケア	廃用症候群 (生活不活発病) の予防と看護ケア	(芳賀)
第11回	食事と看護ケア	食生活と摂食・嚥下障害のアセスメント・口腔内の変化と口腔ケア	(檜原)
第12回	排泄と看護ケア	排泄障害とその特徴 ・排泄機能アセスメント	(芳賀)
第13回	清潔と看護ケア	清潔のアセスメント・入浴方法とケア・清拭・陰部洗浄・足浴	(檜原)
第14回	生活リズムと看護ケア	生活行動のアセスメント・睡眠と覚醒の変化 ・昼間と夜間ケア	(檜原)
第15回	演習 (高齢者疑似体験を含む)		(檜原・芳賀・黒澤)

【授業実施方法】

講義形式。必要に応じて (高齢者の立場に立って生活状況を考えるケア者になる為、事例の視聴覚教材) 等を視聴して、状況を洞察し思考する。別に演習 (高齢者疑似体験を含む) を実施する。

【授業準備】

授業で配布する資料や教科書で復習をし、理解を深めてください。

【主な関連する科目】

「老年看護学概論」「病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (精神科)」「リハビリテーションと看護」

【教科書等】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第8版、医学書院、2017
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第4版、医学書院、2017

【参考文献】

ナーシング グラフィカ 26「高齢者の健康と障害」、27「老年看護の実践」、メディカ出版、2017
 山田律子他編：生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図、第1版、医学書院、2012/2015
 亀井智子編集：根拠と事故防止からみた老年看護技術、第1版、医学書院、2012/2014、第2版、2016

【成績評価方法】

筆記試験 85%、課題学習レポート提出 10%、出席状況 (授業態度含む) 5% の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

高齢者の身体機能変化を病態理解し根拠あるケアを学び、その人の立場に立ち生活状況を理解し良いケアを学びます。

授業科目名・形態	老年看護方法論Ⅱ	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	檜原登志子・小玉光子・芳賀邦子	開講期	2年後期	単位数 1

【授業の主題】

疾病や障害による健康レベル別に、検査・治療への対応、認知症やうつのような高齢者に特有な問題、終末期に求められる複雑な問題を理解し、情報の収集・アセスメント・生活目標型の計画立案の看護過程を学び、高齢者が今まで生きてきたその人らしさを生かした生活支援の看護を学ぶ。医療施設・福祉施設の看護を学び、高齢者と家族に対してのソーシャルサポートとチームケアを理解する。今後重要となる高齢者の医療安全と災害看護のリスクマネジメントを学ぶ。

【到達目標】

1. 高齢者の健康レベルや生活困難を理解し、情報の収集・アセスメント・生活目標思考型の立案の看護過程ができる。
2. 高齢者のその人らしさを生かした生活支援の看護を理解できる。
3. 医療施設・福祉施設の看護、高齢者とその家族に対してのソーシャルサポートとチームケアを理解できる。
4. 高齢者の医療安全と災害看護のリスクマネジメントについて理解できる。

【授業計画・内容】

第1回	医療施設入院における看護・福祉施設入所における看護の違い	(檜原)
第2回	褥瘡予防の基礎知識とアセスメントの各種スケール	(小玉)
第3回	褥瘡予防のケア・ポジショニング	(小玉)
第4回	褥瘡ケア・ストマ周囲のスキンケア	(小玉)
第5回	治療に関するマネジメントとケアの技法 ①外来治療、検査と看護ケア (医療的ケア：胃ろう・吸引) ②栄養ケアマネジメントと各種アセスメント尺度	(檜原)
第6回	〃 ③薬物療法と看護ケア	(檜原)
第7回	高齢者に特徴的な手術 ④手術療法と看護ケア	(芳賀)
第8回	疾患を持つ高齢者への看護ケア パーキンソン病・肺炎・骨粗鬆症・骨折	(芳賀)
第9回	高齢者施設・病院関連感染 (HAI) ノロウイルス・インフルエンザ・結核・疥癬	(芳賀)
第10回	認知機能障害に対する看護ケア せん妄・うつ・MC I (軽度認知障害)	(檜原)
第11回	〃 認知症の基礎知識・発症の仕組み・型別の病態とアセスメントの各種スケール	(檜原)
第12回	〃 認知症状態別のケア・家族支援・認知症の社会資源	(檜原)
第13回	終末期における看護ケア 看取りケア	(芳賀)
第14回	高齢者のリスクマネジメント 医療安全 ・災害看護 救急救命	(檜原)
第15回	演習：事例による看護過程の展開/ 老年看護学福祉実習前学習	(檜原)

【授業実施方法】

講義形式。必要に応じて (高齢者の立場に立って生活状況を考えるケア者になる為に、事例の視聴覚教材) 等を視聴して、状況を洞察し思考する。

【授業準備】

授業で配布する資料や教科書で復習をし、理解を深めてください。

【主な関連する科目】

「老年看護学概論」「老年看護学方法論Ⅰ」「病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (精神科)」「リハビリテーションと看護」

【教科書等】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第8版、医学書院、2017
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第4版、医学書院、2017

【参考文献】

ナーシング グラフィカ 26「高齢者の健康と障害」、27「老年看護の実践」、メディカ出版、2017
 山田律子他編：生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図、第1版、医学書院、2012/2015
 亀井智子編集：根拠と事故防止からみた老年看護技術、第1版、医学書院、2012/2014、第2版、2016

【成績評価方法】

筆記試験 85%、課題学習レポート提出 10%、出席状況 (授業態度含む) 5% の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

高齢者の生活機能のアセスメントによる看護展開は、情報収集・分析・解釈と根拠のある看護方法の実践を学習します。

授業科目名・形態	精神看護方法論 I	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	山内久子	開講期	2年前期	単位数	I

【授業の主題】

精神障害者の入院期間は長期にわたることが多い。病状は退院可能であるが社会的に退院できるサービスが不十分なために入院している長期入院患者が、現在の入院患者の3分の1前後になると考えられている。この実情から精神障害者に対する偏見や差別等の問題点や課題が浮かび上がってくる。これらの背景を理解しながら精神障害者の置かれている立場・症状と看護・家族とのかかわり等について学び、さらに精神科看護師に求められている役割についても学ぶ。

【到達目標】

精神障害者とその家族が偏見と差別の中で生活している現実を知る。
精神障害者に対する急性期の看護および慢性期の看護の基本を理解する。

【授業計画・内容】

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 第 1 回 | 精神臨床看護学とは・精神科看護師の役割 |
| 第 2 回 | 患者—看護師の発展過程 |
| 第 3 回 | 自己の振り返り |
| 第 4 回 | セルフケアの援助 ①日常生活の援助 |
| 第 5 回 | セルフケアの援助 ②服薬、活動と休息、対人関係 |
| 第 6 回 | 精神看護の看護過程 ①アセスメント |
| 第 7 回 | 精神看護の看護過程 ②ケアプラン・実施・評価 |
| 第 8 回 | 生きる力と強さ ①ストレングス ②リカバリ ③エンパワメント |
| 第 9 回 | 精神疾患患者の理解 ①患者のとらえ方 |
| 第 10 回 | 精神疾患患者の理解 ②入院時の看護 |
| 第 11 回 | 安全管理 ①環境整備 ②自殺・自傷行為 ③暴力 |
| 第 12 回 | 安全管理 ④誤薬 ⑤転倒・転落 ⑥誤嚥・窒息 |
| 第 13 回 | 安全管理 ⑦隔離・身体拘束 ⑧無断離院 |
| 第 14 回 | 急性期・回復期の看護 |
| 第 15 回 | 慢性期の看護・退院支援 |

【授業実施方法】

主として講義形式で行い、適宜グループワーク等を取り入れます。

【授業準備】

その日学んだ授業内容は教科書および配布資料に目を通して復習し、次回の授業内容については予習を必ず行なってから授業に臨んで下さい。

【主な関連する科目】

「病態治療学Ⅲ（精神疾患）」「精神看護方法論Ⅱ」「精神看護学実習」

【教科書等】

川野雅資編集 「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」 ニューベルヒロカワ出版

【参考文献】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価方法】

筆記試験 80%、課題レポート・提出物 10%、授講態度・演習への取り組み・出席状況 10%等を総合的に評価します。

【学生へのメッセージ】

- ・ 授業中に行なうグループワーク時は積極的に参加して下さい。
- ・ 日頃から精神疾患および精神疾患患者に対して関心を持ち、新聞・テレビ等のニュースにも注意・関心を払うようにして下さい。

授業科目名・形態	精神看方法論Ⅱ	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	畠山禮子・高山新吾	開講期	2年後期	単位数 1

【授業の主題】

精神を病む人とその家族が抱える問題を理解し、精神看護に必要な実践方法を学ぶ。
代表的な精神症状・状態について取り上げ、看護実践に必要な看護技術、看護過程について学習する。

【到達目標】

- 1) 主な精神症状・状態について、症状・状態を引き起こす疾患について理解する。
- 2) 症状・状態を経験している患者の看護を理解する。
- 3) それぞれの症状・状態のアセスメントと援助について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 「幻覚・妄想の患者の看護」・「せん妄の患者の看護」 (畠山)
- 第2回 「抑うつ状態の患者の看護」・「興奮状態の患者の看護」 (畠山)
- 第3回 「拒絶的な患者の看護」・「引きこもり状態の患者の看護」 (畠山)
- 第4回 「操作をする患者の看護」・「自殺・自傷行為がある患者の看護」 (畠山)
- 第5回 「不眠状態の患者の看護」・「依存状態の患者の看護」 (畠山)
- 第6回 「認知症の患者の看護」・「不安状態の患者の看護」 (畠山)
- 第7回 「意欲減退状態の患者の看護」・「攻撃的行動をとる患者の看護」 (高山)
- 第8回 事例による看護過程展開演習① (高山)
- 第9回 事例による看護過程展開演習② (高山)
- 第10回 「強迫行為のある患者の看護」・「躁状態の患者の看護」 (高山)
- 第11回 「解離性障害の患者の看護」・「摂食行動の障害の患者の看護」 (畠山)
- 第12回 「パニック障害の患者の看護」・「児童・思春期・青年期の精神看護」 (高山)
- 第13回 「身体合併症患者の看護」・「社会の中の精神障害者」 (高山)
- 第14回 「医療観察法で入院した患者の看護」 (高山)
- 第15回 まとめ

【授業実施方法】

主として講義形式で行う。演習については事前にオリエンテーションをする。

【授業準備】

授業の各回で示されている（原因となる疾患）については予習してくること。

【主な関連する科目】

「病態治療学Ⅲ（精神疾患）」「精神看護学概論」「精神看護方法論Ⅰ」「精神看護学実習」

【教科書等】

川野雅資 編集 「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」第6版 ヌーベルヒロカワ出版、2015.

【参考文献】

吉松和哉 小泉典章 川野雅資 編集 「精神看護学Ⅰ 精神保健学」第6版 ヌーベルヒロカワ出版、2015.

【成績評価方法】

出席状況・授業参加態度（10%）、演習の参加態度（10%）、後期定期試験（80%）により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

様々な事例を通し精神を病む人とその家族への看護について一緒に考えて行きましょう。

授業科目名・形態	公衆衛生看護学概論	講義	必須・選択の別	必修	
担当者氏名	佐藤 孝	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

本科目は、健康に影響する様々な要因を学び、地域で生活しているすべての人々の健康を支援する看護の概要を学ぶ。また、看護の歴史を通して、社会の変化に伴って起こる地域の健康課題に対して、組織的に解決を図る公衆衛生看護活動の機能と特性を学ぶ。

【到達目標】

1. 健康を支援1するためには、生活者の視点と予防の概念が重要であることが理解できる
2. 健康な地域づくりにおける公衆衛生看護活動の意義と役割を理解できる
3. 看護分野の役割と、住民や関係機関との連携や協働の意義を理解し、看護観の拡大を図るとともに、看護の質の向上の重要性を理解する

【授業計画・内容】

- 第 1 回 公衆衛生看護の基本理念と目標
- 第 2 回 公衆衛生看護活動の基盤概念 ①集団・地域・人権
- 第 3 回 公衆衛生看護活動の基盤概念 ②予防・戦略・政策
- 第 4 回 公衆衛生看護活動の歴史
- 第 5 回 社会の動向と健康課題
- 第 6 回 健康政策 (保険・医療・福祉制度)
- 第 7 回 国際協力
- 第 8 回 健康に影響を及ぼす生活環境要因
- 第 9 回 生活構造・生活習慣と健康
- 第 10 回 公衆衛生看護の対象 (個人・家族)
- 第 11 回 公衆衛生看護の対象 (集団・組織・地域)
- 第 12 回 公衆衛生看護活動の場
- 第 13 回 公衆衛生看護活動の方法と技術 (健康支援活動・組織支援活動・協働と連携)
- 第 14 回 公衆衛生看護活動の展開 (情報収集と整理・地域診断・計画・評価)
- 第 15 回 公衆衛生看護管理 (システム構築 施策化 健康調査、災害対応)

【授業実施方法】

講義を中心とし、課題を活用した学習展開

【授業準備】

教科書を読んで講義に臨む。課題に取り組みレポートする。

【主な関連する科目】

「公衆衛生学」「健康教育論」「在宅ケア論 I」「社会保障論 I」、等

【教科書等】

公衆衛生看護学 j p、インターメディカル 更新版

【参考文献】

標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書院

国民衛生の動向 最新年度版 厚生労働統計協会

【成績評価方法】

定期試験結果 (80%)、レポート (10%)、出席・受講状況 (10%) で評価する

【学生へのメッセージ】

看護を提供する場が地域に広がっています。支援者として看護の社会性にも視野を広げましょう

授業科目名・形態	健康教育論	講義	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	日景真由美	開講期	2年前期	単位数	1

【授業の主題】

公衆衛生看護活動を実践する基盤の一つとなる健康教育や健康学習について、その基礎理念を理解する。また、個人や集団に対する健康教育や健康学習の企画、実施、評価の一連の方法と技術を理解し、実践を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 健康教育や健康学習の基礎理念を理解できる。
2. 健康教育や健康学習の企画、実施、評価の一連の過程を理解できる。
3. 健康教育や健康学習を実践できる。

【授業計画・内容】

第 1 回	健康教育の理念	健康の概念
第 2 回	健康教育の理念	健康の概念 (グループワーク)
第 3 回	健康教育の理念	健康の概念 (グループ発表)
第 4 回	健康教育の理念	ヘルスプロモーション・健康教育の定義、目的、対象 等
第 5 回	健康教育と保健行動	
第 6 回	健康教育に用いる基礎理論	
第 7 回	健康教育・健康学習の方法	
第 8 回	健康教育・健康学習の計画	健康教育・健康学習の企画
第 9 回	健康教育・健康学習の計画	健康教育・健康学習の実施、評価
第 10 回	健康教育・健康学習の実際	健康教育の実際例、グループワーク
第 11 回	健康教育・健康学習の実際	健康教育・健康学習の企画 (企画書の作成)
第 12 回	健康教育・健康学習の実際	健康教育・健康学習の指導案、媒体の作成
第 13 回	健康教育・健康学習の実際	健康教育・健康学習の指導案、媒体の作成
第 14 回	健康教育・健康学習の実際	グループ発表
第 15 回	健康教育・健康学習の実際	グループ発表、まとめ

【授業実施方法】

講義、演習

【授業準備】

教科書を読んで講義に臨み、講義後は学修内容を復習する

【主な関連する科目】

「公衆衛生看護技術論」「公衆衛生看護学実習」などの公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

公衆衛生看護学 jp 第4版 データ更新版、インターメディカル、2018.

【参考文献】

最新 保健学講座 別巻1 健康教育論、メヂカルフレンド社
 最新 行動科学からみた健康と病気、メヂカルフレンド社
 国民衛生の動向 2017/2018 年版、厚生統計協会、2017.

【成績評価方法】

出席状況・受講状況 (5%)、演習内容・提出課題 (25%)、定期試験の成績 (70%) による総合評価

【学生へのメッセージ】

この授業で学んだことは、学内の看護関連科目の講義や演習、学外実習、そして看護職として働く場で活用できます。そのため、学習した知識と技術は確実に自分自身のものになるよう授業後に復習しましょう。

授業科目名・形態	成人保健活動論	演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	松橋セツ子	開講期	2年後期	単位数	1

【授業の主題】

成人保健分野における保健活動の動向を踏まえ、対象者の特徴と健康問題を理解する。又、人々の健康レベルに応じたセルフケアを促すために、健康の保持増進や疾病予防対策の具体的な方法や技術を学ぶ。

更に、日常の生活習慣と生活習慣病の関連を理解し、高齢期を元気で過ごすための基礎的な健康づくりを支援する能力を養う。

【到達目標】

1. 成人保健活動の動向を踏まえ、成人期の特徴と健康問題を理解できる。
2. 成人の健康レベルに応じたセルフケアの方法や技術を修得できる。
3. 生活習慣と生活習慣病の関連を理解し、高齢期を元気で過ごすための基礎的な健康づくりを支援する能力を養うことができる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 成人保健の理念と動向、歴史的変遷
- 第 2 回 成人保健の現状（死因別死亡の推移・生活習慣病の現状と国民医療費の推移）
- 第 3 回 成人期の特徴と発達課題（ライフサイクルから見た生活と健康・成人期の健康管理）
- 第 4 回 成人保健施策（健康日本 21・健康増進法・新健康フロンティア戦略）
- 第 5 回 成人保健活動（健康増進事業と成人期における保健師活動）
- 第 6 回 生活習慣病と保健指導 ①メタボリックシンドローム・高血圧・脳卒中・心疾患
- 第 7 回 生活習慣病と保健指導 ②糖尿病・高脂血症・骨粗鬆症・がん等
- 第 8 回 各種検（健）診の目的・対象・方法・支援の実際
- 第 9 回 成人期におけるメンタルヘルス
- 第 10 回 特定健康診査・特定保健指導
- 第 11 回 特定保健指導の実際 ①特定保健指導計画
- 第 12 回 特定保健指導の実際 ②特定保健指導計画と評価
- 第 13 回・第 14 回 特定保健指導の実際 生活習慣改善のための保健指導（演習）
- 第 15 回 成人保健の今後の課題（地域・職域との連携。関連機関との連携。地域ケアシステムの構築）
- 第 16 回 試験

【授業実施方法】

講義、演習

【授業準備】

2年生までの関連する科目（成人看護学）で学んだことを復習し、教科書を読んで講義に臨む。

【主な関連する科目】

「成人看護学概論」「成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「保健医療福祉行政論」「公衆衛生看護学」の科目・実習

【教科書等】

公衆衛生看護学 j p 第4版データ更新版 インターメディカル 2017
 国民衛生の動向 2018/2019年版、厚生労働統計協会 2018

【参考文献】

相手の心に届く保健指導のコツ 東京法規出版

【成績評価方法】

筆記試験の成績 80%、課題レポート 10%、出席・受講状況 10%を総合して評価する。

【学生へのメッセージ】

成人期は、生涯の中で心身共に最も充実した時期です。日々変化する社会情勢やライフスタイルの変化から受けるストレスは心身の健康に大きな影響を及ぼし、近年特に社会問題となってきています。また、成人期の生活習慣は、高齢期への影響も大きく非常に重要な時期であることを念頭に、常に社会情勢に関心を持ち、授業の予習・復習を心がけて下さい。

授業科目名・形態	在宅ケア論 I	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	石川セツ子・芳賀邦子・黒澤繭子・高山新吾	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題】

高齢化社会を背景に健康概念に関する理解を深め、現状の健康問題について考える姿勢を養う。その上で在宅療養者とその家族に対する特性を理解し、対象者の多様なニーズへの対応、セルフケア能力の向上、在宅療養者へのQOLを重視した支援方法について講義する。

【到達目標】

- 1) 社会状況を取り巻く在宅ケアの必要性和社会的背景を知るとともに、在宅看護の主な経緯と背景について理解する。
- 2) 在宅ケアの概念および倫理について理解し、在宅ケアの対象と地域包括ケアシステムへの取り組みについて知る。
- 3) 日常生活における様々な援助方法について演習を行い、体験により振り返りができ課題について考えることができる。
- 4) 在宅看護が時代の変化に対応できるよう、継続的につなぐ看護の必要性について学ぶ。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 在宅ケアの必要性和社会的背景① (石川)
- 第 2 回 在宅ケアの必要性和社会的背景② (石川)
- 第 3 回 在宅ケアの概念 (石川)
- 第 4 回 在宅ケアの対象、地域ケア体制と社会資源① (石川)
- 第 5 回 在宅ケアの対象、地域ケア体制と社会資源② (石川)
- 第 6 回 在宅看護における倫理的課題 (石川)
- 第 7 回 生活の場における日常生活援助① (石川)
1)入浴・部分浴(手浴・足浴)、2)洗髪、3)移動、4)食事、5)排泄、6)衣類
- 第 8 回 生活の場における日常生活援助② (石川)
- 第 9 回 生活の場における日常生活援助③ (石川)
- 第10回 生活の場における日常生活援助④ (石川)
- 第11回 在宅看護で求められるヘルスアセスメント (石川)
- 第12回 在宅看護活動の技術 (芳賀)
- 第13回 在宅看護における看護過程展開 (石川)
- 第14回 生活の場における日常生活援助・ヘルスアセスメント① (演習) (石川・黒澤・芳賀・高山)
- 第15回 生活の場における日常生活援助・ヘルスアセスメント② (演習) (石川・黒澤・芳賀・高山)

【授業実施方法】：講義・演習・グループワークなど。

【授業準備】：社会背景と看護ニーズを関連づけて理解するため、厚生労働省「国民基礎調査」「地域包括ケアシステム」等の関連資料、参考書を読み、事前学習をしておいてください。

【主な関連する科目】：在宅ケア論Ⅱ 在宅ケア実習

【教科書等】：石垣和子・上野まり 編集：在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして、南江堂、改定第2版

【参考文献】：平成28年度版訪問看護業務の手引き等、必要に応じ授業で紹介する。

【成績評価方法】：①前期定期試験(90%)、②演習、グループワーク等による発言、発表(10%)

【学生へのメッセージ】：①在宅看護に関する法規、最近の社会情勢や国、県、市町村の施策の動きを知り、在宅支援に関して意識を高めてください。

② 社会状況の変化に伴い、時代の変化に対応できる看護について考え、将来的には、患者本人が望む場所で療養できるように、尊厳ある1人の人間として接していただきたい。

授業科目名・形態	在宅ケア論Ⅱ 講義	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	石川セツ子・芳賀邦子	開講期	2年後期	単位数 2

【授業の主題】

在宅看護の概念や訪問看護制度について理解した上で、在宅看護における保健・医療・福祉サービスと連携の必要性、ケアマネジメントと実際に学ぶ。また、訪問看護ステーションの機能と役割、課題を理解するとともに、在宅看護における医療処置が必要な療養者と家族への援助について考えを深める。

【到達目標】

- 1) 在宅看護の関連する法的知識を得る。
- 2) 在宅看護サービス事業の管理と経営を知る。
- 3) 在宅看護と他機関・他施設における看護の連携方法を理解する。
- 4) さまざまな疾病や障害に特徴的な看護及びケアマネジメントの展開方法を理解する。
- 5) 在宅で遭遇することの多い感染症をもつ療養者の看護について学ぶ。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 在宅看護の法的基盤とシステム①(石川)
- 第 2 回 在宅看護の法的基盤とシステム②(石川)
- 第 3 回 訪問看護制度(石川)
- 第 4 回 訪問看護ステーションの経営と管理(石川)
- 第 5 回 訪問看護と連携(石川)
- 第 6 回 様々な対象者への在宅看護①(芳賀)
- 第 7 回 様々な対象者への在宅看護②(石川)
- 第 8 回 訪問看護ステーションにおける看護活動の実際 (豊村)
- 第 9 回 医療処置が必要な療養者と家族への援助①(芳賀)
- 第 10 回 医療処置が必要な療養者と家族への援助②(石川)
- 第 11 回 感染症をもつ療養者への在宅看護(石川)
- 第 12 回 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所の役割とケアマネジメントの実際(石川)
- 第 13 回 医療処置が必要な療養者と家族への援助③(高松)
～がん看護と疼痛コントロールおよび看取りのケア～
- 第 14 回 事例①(石川)
- 第 15 回 事例②(石川)

【授業実施方法】：講義・演習・グループワークなど。

【授業準備】：社会背景と看護ニーズを関連づけて理解するため、厚生労働省「国民基礎調査」「地域包括ケアシステム」等の関連資料、参考書を読み、事前学習をしておいてください。

【主な関連する科目】：在宅ケア論Ⅰ 在宅ケア実習

【教科書等】：石垣和子・上野まり 編集：在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして、南江堂、改定第2版

【参考文献】：平成28年度版訪問看護業務の手引き,関連資料等は、必要に応じ授業で紹介する。

【成績評価方法】：

- ① 後期定期試験 (90%)、②演習、グループワーク等による発言、発表 (10%)

【学生へのメッセージ】

在宅看護に関連する法律について理解を深めましょう。その上で在宅療養の意義について考えてみましょう。訪問看護のすばらしさを知り興味を持っていただきたい。

将来看護職について療養の場が違って、予防から看取りまでを含んだ、継続的な看護を発揮していただきたい。また、社会状況や行政等の動向について、新聞やマスコミ等の課題に関心を持ち、考える機会をもちましょう。

授業科目名・形態	基礎看護学実習	実習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	黒澤繭子・水木暢子・岩間 薫・ 小玉光子・佐藤純子・畠山禮子・ 今野 修・小畑千春・伊藤洋介・ 高山新吾・千葉孝子・山平良子	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

これまでに学んだ看護の基本的知識と技術を活用して実際に患者を受け持ち、日常生活の援助や診療に伴う援助の実際を理解する。根拠に基づいた看護、個別的な状況に応じた方法の選択・工夫の仕方、円滑な人間関係の重要性など基本的な看護過程の展開方法の実際について理解を深める。

【到達目標】

1. 患者の状況にあわせた看護技術を安全・安楽を考慮して指導のもとで行うことができる
2. 受持ち患者の看護過程を指導のもとで展開できる
3. 患者と円滑な人間関係を築くことができる
4. 看護職として基盤となる倫理観を培う
5. カンファレンス等を活用し、複数の事例に対するアセスメントや看護実践を検討し、自己の体験を通して学んだ看護について、考えを深めることができる

【授業計画・内容】

実習の詳細は実習要項に基づく

【授業実施方法】

臨地実習

【授業準備】

これまで学んだ内容を基盤に、実際の患者に応用していくこととなりますので、既習の知識以外も活用し柔軟に対応し学びを深めてください。また、安全・安楽な援助を行うために、看護技術の復習を行い自信をもって援助できるように繰り返し練習してください。

【主な関連する科目】

看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ、看護過程論

【教科書等】

基礎看護学技術論・演習等で使用した教科書・資料

【参考文献】

必要時配布

【成績評価方法】

実習中の記録や技術、行動内容（80%）、実習態度（20%）により総合的に評価する

【学生へのメッセージ】

受持ち患者との関わりではコミュニケーションを大切にしてください。また、受持ち患者の顕在的・潜在的な能力が最大限に発揮されるように看護援助することを心がけてください。系統的に看護を実践するというのを、体験を通して学ぶことができる機会となります。

授業科目名・形態	疫学	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	三上 聖治	開講期	3年前期	単位数 2

【授業の主題】

疫学の基礎を学び、人間集団の中で起こりうる様々な健康関連の問題を理解しながら問題解決のために必要な対策を樹立できる能力を習得する。

【到達目標】

1. 疫学の定義と集団に関する考え方を理解する。
2. 論理的な考え方を身につける。
3. リスクについての理解を深める。
4. 疫学調査の設計と分析の理解ができる。
5. 調査、研究の倫理についての理解を深める。

【授業計画・内容】

第1回	疫学事始め	疫学の特徴と疫学的な考え方について学習する。
第2回	5つのW-bridge (What, Who について)	疫学の対象について学習する。
第3回	5つのW-bridge (Where, When, Why について)	疫学的な事象についての論理的な考察を学習する。
第4回	疫学研究の種類	疫学研究の種類、方法、利点、欠点について学習する。
第5回	疫学指標	曝露効果の指標について学習する。
第6回	スクリーニング	2次予防の効果判定について学習する。
第7回	記述疫学	記述疫学の実際と利点、限界について学習する。
第8回	分析疫学と推測統計学	分析疫学の手法と統計学の関連について学習する。
第9回	横断研究と生態学的研究	観察研究の横断研究と生態学的研究の手法、利点、欠点について学習する。
第10回	症例対照研究	症例対照研究の手法、利点、欠点について学習する。
第11回	コホート研究	コホート研究の手法、利点、欠点について学習する。
第12回	交絡因子とその調整方法	バイアスのn種類とその除去方法について学習する。
第13回	実験疫学と介入研究	介入研究の種類と方法、その実践例について学習する。
第14回	国内外の著名な疫学研究	疫学研究の実際と成果について解説する。
第15回	疫学研究と倫理	研究倫理の必要性和倫理審査の実際について学習する。

【授業実施方法】

プレゼンテーションツールや配布物による講義が中心であるが、学生の理解度を調べるために演習も一部実施する。

【授業準備】

初めて出てくる用語にチェックをいれましょう。

【主な関連する科目】

公衆衛生学、保健統計学

【教科書等】

教科書：看護疫学入門、医歯薬出版

【参考文献】

はじめて学ぶやさしい疫学、南江堂 疫学・保健統計学、医学書院

【成績評価方法】

授業の応対 (10%)、レポート (20%)、試験 (70%)

【学生へのメッセージ】

看護学や保健学研究の基礎となる具体的な研究計画、データ収集、分析方法について学ぶ学問です。EBN の実践のコアとしての応用が期待されます。

授業科目名・形態	保健統計学 講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	野坂 大喜	開講期	3年前期	単位数 2

【授業の主題】

この授業では、様々な保健指標や厚生労働統計資料の見方や考え方、看護師や保健師としての実務において必要な統計学に関する知識や手法を学びます。保健統計学は医学・看護学分野での研究や地域保健活動などにおいて有効性の判断や、保健政策や健康プログラムの効果の評価に必須の知識になっています。

【到達目標】

様々な医療データや資料から正しく情報を読み取り分析・考察できること。調査の計画から実施・分析・評価の方法を理解できること。よく使用される保健統計学解析方法について活用できること。の3点を到達目標とします。

【授業計画・内容】

第1回	保健統計及び統計の基礎	～ 取り扱うデータと統計学的関数 ～
第2回	疫学の基本と検定の手順	～ EBMの考え方と統計学的検定 ～
第3回	2つの平均値の比較	～ よく用いられる検定方法1 ～
第4回	2つの平均値の比較(演習)	～ よく用いられる検定方法1 ～
第5回	2つの比率の比較	～ よく用いられる検定方法2 ～
第6回	2つの比率の比較(演習)	～ よく用いられる検定方法2 ～
第7回	保健情報と率の調整方法	～ 基礎的用語の解説と注意事項 ～
第8回	保健情報と率の調整方法(演習)	～ 基礎的用語の解説と注意事項 ～
第9回	疫学調査・研究の型	～ 前向き研究と後向き研究の違い ～
第10回	地域相関(生態学的)研究	～ 相関・回帰分析と因果関係 ～
第11回	アンケート調査の方法	～ 調査方法の種類と調査票の設計 ～
第12回	スクリーニングの基本	～ 敏感度特異度と適中度について ～
第13回	患者予後についての分析	～ 生命表法の基礎と応用について ～
第14回	臨床疫学での保健統計処理	
第15回	保健統計学のまとめ	

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行いますが、所々で演習を取り入れます。理解度を確認しながら、双方向性のある授業を心がけます。理解度に応じて内容が若干変更となる場合があります。

【授業準備】

統計学の基礎知識について事前学習が重要です。

【主な関連する科目】

「統計学」「疫学」「公衆衛生学」

【教科書等】

看護学生のための疫学・保健統計 南山堂 ISBN 978-4-525-05342-0

その他講義資料を配布します。

【参考文献】

やさしい保健統計学 (改訂第5版)	南江堂 ISBN 978-4-524-26821-4
疫学・保健統計学	医学書院 ISBN 978-4-260-01998-9
医学・保健学のためのやさしい統計学	金原出版 ISBN 978-4-307-77171-9
世界一やさしくわかる医療統計	秀和システム ISBN 978-4-7980-3119-4
国民衛生の動向	厚生労働統計協会

【成績評価方法】

筆記試験 80%、課題レポート・提出物 10%、演習への取り組み 10%により総合的に評価します。

【学生へのメッセージ】

授業中に課題を課すことがあります。電卓をご用意ください(関数電卓が望ましい)。履修にあたり、関連する既習科目の内容を理解していることが必要です。

授業科目名・形態	保健医療福祉行政論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	松橋セツ子	開講期	3年後期	単位数	2

【授業の主題と目標】

保健医療福祉行政は時代変遷に伴い、人々が健康で暮らしやすい地域づくりを目的にした公的な活動であり、保健師は住民の生活視点にたち、これを具体化する活動を展開している。

法律、制度に伴う行政の仕組みと役割、政策理念等基礎的な知識を習得し、住民のニーズに沿った社会資源の開発や施策化するためのプロセスを学び、行政における保健師の特性を理解する。

【到達目標】

1. 保健医療福祉行政の基本および行政・財政の仕組みについて役割、政策理念等を理解できる。
2. 保健医療福祉における各分野の制度の仕組みと機能、対策の実際や動向制について基本を理解できる。
3. 保健医療福祉行政の施策への住民参加と、計画策定・実施・評価のサイクルの基本を理解できる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 保健医療福祉行政のめざすもの（基盤となる根拠や公衆衛生の定義。格差社会における役割）
- 第 2 回 保健医療福祉制度の変遷（公衆衛生政策の歴史と理念を理解する。国際的な公衆衛生活動と日本の国際協力活動を理解する）
- 第 3 回 保健医療福祉制度の変遷（日本の保健・医療・福祉政策の具体的な経緯を理解する）
- 第 4 回 保健医療福祉行政の理念と仕組み（国・都道府県・市町村の行政の仕組みと役割を理解する）
- 第 5 回 保健医療福祉の財政に関わる予算と編成・社会保障の財源等を理解する）
- 第 6 回 社会保障制度の理念と仕組みについて（社会保障とは。法規と行政体系。給付費。制度改革）
- 第 7 回 医療提供体制と介護保険制度（医療法と医療提供体制、医療保障。介護保険制度を理解する）
- 第 8 回 社会福祉制度を理解する（年金制度。雇用保険と労災。公的扶助。児童家庭福祉について）
- 第 9 回 社会福祉制度を理解する（高齢者福祉。障害者福祉。成年後見制度と日常生活自立支援事業）
- 第 10 回 地域保健行政の体系を理解する（地域保健に関する公的機関とそれぞれの役割を理解する。保健所と市町村保健センターの法的な位置づけと役割）
- 第 11 回 地域保健行政における関係機関の連携と必要性を理解する（地域・職域連携の推進）
- 第 12 回 地方公共団体の保健医療福祉計画（市町村総合計画と保健医療福祉の諸計画の関連）
- 第 13 回 保健計画の策定プロセス（目的の明確化と策定方法等。保健計画策定とエンパワーメント）
- 第 14 回 保健計画の推進と評価（住民への周知と評価の実際）
- 第 15 回 保健計画の立案。
- 第 16 回 試験

【授業実施方法】

講義 レポート

【授業準備】

関連する科目で学んだ内容が基礎知識となるため、講義前に復習する。また、教科書を読んで講義に臨み、講義後は学習内容を復習する。

【主な関連する科目】

「公衆衛生学」「社会保障論Ⅰ」「社会福祉概論Ⅰ」「障がい者（児）の福祉」「保健・医療と法律」「公衆衛生看護学」の科目および実習

【教科書等】

標準保健師講座 別巻Ⅰ 保健医療福祉行政論 第4版 2017改訂 医学書院
国民衛生の動向 2018/2019年版 一般財団法人 厚生労働統計協会 2018

【参考文献】

最新保健学講座7 保健医療福祉行政論 メヂカルフレンド社、2015

【成績評価方法】

筆記試験の成績 80%、授業出席・受講状況 10%、課題レポート 10%等総合して評価。

【学生へのメッセージ】

行政における保健師活動は、国・地方行政の制度上の業務が多い現状である。保健医療福祉行政論が基本となり、住民の安心・安全な生活を支援していくことが期待される。

特に近年関係法律等の改正が多く、常に社会情勢に関心を持ち、見聞を広め意欲的に学習してほしい。

授業科目名・形態	家族看護論	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	芳賀邦子	開講期	3年前期	単位数 1

【授業の主題】

看護の対象者は、多くは家族の一員であり、家族はその成員の健康上の問題によりシステムの、力動的に変動する。そのために、家族社会学などの理論に基づいたアセスメントが有用となり、家族看護学が発展してきた。現代の家族形態や家族機能の多様化に伴い、家族看護の考え方はますます重要となっている。本科目では、看護の対象となる個人を含む家族にその対象を広げ、家族を一つのシステムとして捉え、その機能、役割を理解し、個々の家族成員、家族成員間の関係性、家族単位の社会性を踏まえた看護活動・支援方法を学ぶ。

【到達目標】

1. 家族看護の対象である家族とは何か、家族の形態と機能、役割、発達課題が理解できる。
2. 家族看護過程を展開するための家族アセスメントとその基礎理論を知る。
3. 家族成員の健康問題がもたらす家族への影響を理解し、家族看護計画を展開できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 家族看護とは
 第2回 家族看護学の対象の理解
 第3回 家族看護過程の展開
 第4回 家族アセスメントツールとその基礎理論
 第5回 グループ学習
 1. 家族関係論
 2. 家族成員の健康問題がもたらす家族への影響と家族看護の実践
 3. 家族看護の展開事例
 第6回 グループ学習プレゼンテーション準備
 第7回 グループ学習プレゼンテーション① グループ1～5
 第8回 グループ学習プレゼンテーション② グループ6～9、まとめ

【授業実施方法】 講義、グループ学習・発表・質疑応答など

【授業準備】 家族看護は、看護の各領域すべてに関係しているため、既習の知識の統合、および実習での体験を振り返り、整理して臨んでください。

【主な関連する科目】 各領域の看護専門科目

【教科書等】 鈴木和子・渡辺裕子：家族看護学 理論と実践，日本看護協会出版会

【参考文献】 岡堂哲雄編集：系統看護学講座 基礎分野 家族論・家族関係論，医学書院
 小林奈美：グループワークで学ぶ家族看護論，医歯薬出版
 その他、適宜講義中に紹介します。

【成績評価方法】 筆記試験 70%、グループ学習・グループ発表への取り組み 20%、授業態度・出席状況 10%

【学生へのメッセージ】

家族看護論の学習を通し、家族の一員であるみなさんが、自分の家族について考える機会になることを期待します。グループ学習に積極的に参加し、学びを他のグループと共有することで、自己の学びをさらに深めていきましょう。

授業科目名・形態	助産学概論	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	大瀬富士子	開講期	3年前期	単位数 1

【授業の主題】

助産師は女性の性と生殖をめぐる健康問題に焦点をあてて援助する専門職である。その助産師の職業としての業務内容、責務、職業倫理、役割および、その基礎となる助産学の基本概念、助産師教育についての歴史的考察を加えながら解説する。また、わが国および諸外国の母子保健の動向について理解を深める。

【授業の到達目標】

- 1) 助産の概念、歴史を理解する。
- 2) 助産業務、責務、職業倫理、役割を理解する。
- 3) 助産師教育、母子保健の動向を理解する。
- 4) 今後の助産学と助産師業務の発展のために何をすれば良いかを学生自身で考える。

【授業計画・内容】

- | | |
|-----|-------------|
| 第1回 | 助産の概念 |
| 第2回 | 助産の歴史的考察 |
| 第3回 | 助産の歴史的考察 |
| 第4回 | 助産師と助産業務の特性 |
| 第5回 | 助産実践の倫理 |
| 第6回 | 助産師の活動分野 |
| 第7回 | 助産師教育 |
| 第8回 | 助産学の志向 |

【授業実施方法】

主に講義、1回グループワーク

【授業準備】

講義内容を踏まえ復習を中心に行う。

【主な関連する科目】「助産診断・技術学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「助産管理論」

【教科書等】

我部山 キヨ子・武谷 雄二：助産学講座1、基礎助産学[1]助産学概論、医学書院

【参考文献】

授業で紹介していきます。

【成績評価方法】

レポート 80%、グループワーク取り組み 20%

【学生へのメッセージ】

助産師・助産とは、過去・現在・未来を一緒に考えていきましょう。

授業科目名・形態	基礎助産学 講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	関口麗子・山平良子・	開講期	3年後期	単位数 2

【授業の主題】

助産師として活躍するために、リプロダクションに関する解剖・生理の知識を深める。

【授業の目標】

1) 産科学の基礎的知識がわかる。

【授業計画・内容】

第 1 回	母性の身体的特徴→形態と機能における男女差 (性差)	(関口)
第 2 回	女性性器の発達と構造、特徴	(関口)
第 3 回	性周期と調節機序→間脳・下垂体系および卵巣機能	(関口)
第 4 回	性周期におけるホルモン分泌の変動と調節機序	(関口)
第 5 回	妊娠成立の機序と胎児胎盤機能ユニットの理解	(関口)
第 6 回	分娩の生理—分娩の定義と種類、分娩の 3 要素	(山平)
第 7 回	分娩の生理—産道 (骨産道、軟産道、骨盤外計測)、胎児及び付属物	(山平)
第 8 回	分娩の生理—娩出力、分娩の発来機序	(山平)
第 9 回	分娩機転—軟産道開大機序、胎児の正常分娩機転	(山平)
第 10 回	分娩機転—胎盤剥離及び娩出機転と止血機序	(山平)
第 11 回	周産期の異常① (妊娠期・分娩期)	()
第 12 回	周産期の異常② (産褥期・新生児期)	()
第 13 回	麻酔・薬剤、産科手術・器具	()
第 14 回	産科救急 (出血・ショック)	()
第 15 回	周産期における超音波診断法	()

【授業実施方法】

講義

【授業準備】

講義内容をふまえ、関連する教科書の範囲の予習・復習。

【教科書等】

助産学講座 2、6 医学書院

【参考文献】

井上裕美他監修：病気がみえる 婦人科・乳腺外科 vol.9 MEDIC MEDIA

井上裕美他監修：病気がみえる 産科 vol.10 MEDIC MEDIA

日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修：産婦人科ガイドライン 産科編 2017

【成績評価方法】

後期定期試験で 100%評価する。

【主な関連する科目】 助産診断・技術学 I、II、III、IV

【学生へのメッセージ】

産科学の基礎ですので十分理解を深めましょう

授業科目名・形態	助産診断・技術学Ⅰ	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	三崎直子	開講期	3年後期	単位数 1

【授業の主題】

助産診断・技術学の意義と活用について理解する。

【授業の目標】

1. 助産診断の意義を理解する。
2. マタニティサイクルにある女性の助産診断を学ぶ

【授業計画・内容】

第1回 助産診断の定義と意義

第2回 妊娠期の助産診断 1

第3回 妊娠期の助産診断 2

第4・5回 分娩期の助産診断 1

第6・7回 産褥期の助産診断

第8回 新生児期の助産診断

【授業実施方法】

講義

【授業準備】

助産に関連する科目を復習する。

【教科書等】

助産学講座 6, 7, 8 医学書院

【参考文献】

適宜、授業で紹介する。

【成績評価方法】

後期定期試験で100%評価する。

【主な関連する科目】

「基礎助産学」、「助産診断・技術学Ⅱ」

【学生へのメッセージ】

積極的な授業参加を望みます。

授業科目名・形態	助産診断・技術学Ⅱ 演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	関口麗子・日沼ゆかり	開講期	3年後期	単位数 1

【授業の主題】

助産診断Ⅰの学びを基に、妊娠期・産褥期・新生児期にある対象者を総合的に捉え、助産診断・助産過程を展開するための健康診査・保健指導について実践技術の学びを深める。また、母乳育児をはじめとした育児支援技術や、乳幼児の健康診査、地域での継続支援について学びを深める。また、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と意義を基盤に、女性のライフスタイル各期の特徴や発達課題から対象者を理解し、女性が生涯にわたって健康な生活を送ることができるような健康教育・援助方法についても学びを深める。

【授業の目標】

- 1) 妊娠期のフィジカルアセスメントが実施できる。
- 2) 個別・集団の保健指導ができる。
- 3) 母乳育児支援、育児支援ができる。
- 4) 女性が生涯にわたって健康である支援を考えることができる。

【授業計画・内容】

- | | | |
|------|-----------------|------|
| 第1回 | 妊娠期の助産診断過程展開 | (関口) |
| 第2回 | 妊娠期の助産診断過程展開 | (関口) |
| 第3回 | 妊娠期のフィジカルアセスメント | (関口) |
| 第4回 | 妊娠期のフィジカルアセスメント | (関口) |
| 第5回 | 保健指導総論 | (関口) |
| 第6回 | 保健指導 | (関口) |
| 第7回 | マタニティクラスの計画と実践 | (関口) |
| 第8回 | マタニティクラスの計画と実践 | (関口) |
| 第9回 | 母乳育児支援 | (関口) |
| 第10回 | 母乳育児支援 | (関口) |
| 第11回 | 母子家庭訪問,1ヶ月健診 | (関口) |
| 第12回 | リプロヘルスサポーターの役割 | (関口) |
| 第13回 | 地域における助産師活動の実践 | (日沼) |
| 第14回 | 地域における助産師活動の実践 | (日沼) |
| 第15回 | 更年期・老年期の特徴と健康教育 | (関口) |

【授業実施方法】 講義・演習

【授業準備】 講義内容をふまえ、関連する教科書の範囲を読んでおくことと復習をすること。

【教科書等】 助産学講座 5・6・7・8 (医学書院)

【参考文献】

- 日本助産診断・実践研究会：実践マタニティ診断第4版 医学書院
 北川真理子、内山和美編：今日の助産 改訂第3版 南紅堂
 武谷雄二他監修：プリンシプル産婦人科学2産科編 第3版 MEDICAL VIEW
 井上裕美他監修：病気がみえる 産科 vol.10 MEDIC MEDIA

【成績評価方法】

レポート・演習 50%・試験 50%で総合的に評価する。

【関連する科目】 「助産診断・技術学Ⅰ」

【学生へのメッセージ】 母親自身が選択し自信をもって子育てしていける支援を考えましょう。

授業科目名・形態	公衆衛生看護活動展開論 I 演習	必修・選択の別	選択		
担当者氏名	中村みえ子	開講期	3年前期	単位数	1

【授業の主題】

公衆衛生看護活動は、生活全般に係わる地域の実情を総合的に把握し、課題を抽出し、地域特性に対応した健康政策を行っていく必要がある。ここでは、公衆衛生看護活動の土台であり出発点である地域診断とその過程、地域診断で得られた健康課題を解決するためのより具体的実践的な事業計画の立案・(実行)・評価までを演習を通して学ぶ。

【到達目標】

- 1) 地域の人々の生活と健康を多角的にアセスメントする方法を理解する。
- 2) 地域の顕在的・潜在的健康課題を抽出する方法を理解する。
- 3) 地域の健康課題に対する支援計画(保健活動計画)の立案方法を理解する。
- 4) 予算の仕組みや保健活動計画に必要な予算策定方法を理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 地域診断の概念・目的・意義
- 第 2 回 情報の収集
- 第 3 回 情報の分析・問題・課題の明確化
- 第 4 回 情報の収集 (グループ演習)
- 第 5 回 情報の収集 (グループ演習)
- 第 6 回 保健活動計画の策定
- 第 7 回 保健活動計画の評価
- 第 8 回 保健師の業務測定
- 第 9 回 保健師の業務測定 (演習)
- 第 10 回 地域保健計画 (位置づけ・評価等)
- 第 11 回 予算の仕組み・算出方法
- 第 12 回 予算の算出方法 (演習)
- 第 13 回 保健活動計画(事業計画)の作成(グループ演習)
- 第 14 回 保健活動計画(事業計画)の作成(グループ演習)
- 第 15 回 保健事業計画の発表 授業のまとめ

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

予習・復習をしっかりと行うこと。

【教科書等】

公衆衛生看護学 j p 第4版 インターメディカル 2015
 国民衛生の動向 2017/2018 一般財団法人 厚生労働統計協会

【参考文献】

授業にて適宜紹介する。

【成績評価方法】

筆記試験 80%、課題レポート 10%、演習への取組・授業態度・出席状況 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

即実践につながる科目です。積極的な演習により身につくことが多い科目なので、積極的に取り組んでください。授業の流れを意識しながら学びましょう。

授業科目名・形態	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ 演習		必修・選択の別	選択	
担当者氏名	中村みえ子	開講期	3年後期	単位数	1

【授業の主題】

地域の健康に関連する必要な情報を収集し、地域や集団における健康問題や健康課題を明確にし、その解決の方向性を見出す地域診断の一連の過程を実践する。また、健康教育や健康相談等の接近方法を用いて健康課題等を解決するための活動計画を立案する。

【到達目標】

1. 地域の健康に関する情報を収集し、健康問題や健康課題を明確にできる。
2. 健康問題や健康課題を解決するため、地域診断の一連の過程を実践できる。
3. 健康課題を解決するための活動計画を立案できる。

【授業計画・内容】

第 1 回	授業の概要について・統計情報の分析の仕方	第 11 回	事業計画の立案
第 2 回	統計情報の分析の仕方	第 12 回	事業計画の立案
第 3 回	データヘルス計画	第 13 回	事業計画の立案
第 4 回	市町村の情報の収集	第 14 回	地域診断の発表
第 5 回	情報の収集		
第 6 回	情報の収集		
第 7 回	情報の整理・分析		
第 8 回	情報の整理・分析		
第 9 回	健康問題・課題の明確化		
第 10 回	健康問題・課題の明確化		

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

「疫学」「保健統計学」「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ」で学んだ内容が基礎となるため、講義前に復習する。また、講義後は学習内容を復習する。

【主な関連する科目】

「統計学」「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ」「保健統計学」「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」等

【教科書等】

公衆衛生看護学 j p 第4版 インターメディカル 2015.

国民衛生の動向 2018/2019 年版 一般財団法人 厚生労働統計協会 2018.

【参考文献】

地域看護アセスメントガイド 医歯薬出版株式会社

【成績評価方法】

筆記試験 70%、演習レポート 20%、演習への取組や授業態度・出席状況 10%により総合的に評価する

【学生へのメッセージ】

地域診断はグループで行います。1人ひとりが役割を持ち、グループ学習の効果を意識しながら積極的に取り組みましょう。

授業科目名・形態	公衆衛生看護技術論 演習	必修・選択の別	選 択		
担当者氏名	日景真由美	開講期	3年後期	単位数	1

【授業の主題】

地域で生活する対象者が自らの意思で健康問題に気づき、健康問題の解決に向けた適切な方法を選択し、行動変容できるように支援する必要性を理解する。また、対象者が主体的に自らの健康問題を把握し、予防的な対処方法、または問題解決方法を選択できるように働きかける接近技法や技術の基礎を学ぶ。

【到達目標】

1. 対象者の健康問題解決に向けた保健指導の方法・技術を理解できる。
2. 家庭訪問の一連の過程（情報収集、アセスメント、実施、評価）を理解し、実践できる。
3. 健康教育・健康学習の計画を立案し、実践できる。

【授業計画・内容】

第 1 回	保健指導	保健指導の意義、目的・対象・特徴・方法
第 2 回	健康相談	健康相談の目的・対象・特性
第 3 回	健康相談	健康相談の相談技術
第 4 回	家庭訪問	家庭訪問の目的・対象・技術
第 5 回	家庭訪問	家庭訪問のプロセス
第 6 回	家庭訪問	家庭訪問の実際（訪問計画立案）
第 7 回	家庭訪問	家庭訪問の実際（演習 1）
第 8 回	家庭訪問	家庭訪問の実際（演習 2）
第 9 回	健康教育・健康学習	実態把握、健診結果に基づいた健康教育・健康学習
第 10 回	健康教育・健康学習の実際	計画立案（企画書の作成）
第 11 回	健康教育・健康学習の実際	計画立案（企画書・指導案の作成）
第 12 回	健康教育・健康学習の実際	計画立案（企画書・指導案の修正）
第 13 回	健康教育・健康学習の実際	実施準備（媒体等の準備）
第 14 回	健康教育・健康学習の実際	グループ発表
第 15 回	健康教育・健康学習の実際	グループ発表、まとめ

【授業実施方法】

講義 演習

【授業準備】

教科書を読んで講義に臨み、講義後は学修内容を復習する。

【主な関連する科目】

「健康教育論」「母子保健活動論」「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」などの公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

公衆衛生看護学. jp 第4版 データ更新版、インターメディカル、2017.

【参考文献】

- 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術、医学書院、2017.
 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動、医学書院、2017.
 最新保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術、メヂカルフレンド社、2017.
 国民衛生の動向 2018/2019年版、厚生統計協会、2018.
 最新公衆衛生看護学 第2版 総論、日本看護協会出版会、2017.

【成績評価方法】

出席状況・受講状況（5%）、演習内容・提出課題（45%）、定期試験の成績（50%）による総合評価

【学生へのメッセージ】

個人・家族・集団に対して、保健師が直接働きかけて提供する対人援助技術（保健指導）の基本を理解し、「地域で看護する」時に必要な知識や技術を確実に身につけるよう復習しましょう。

授業科目名・形態	母子保健活動論	演習	必修・選択の別	選 択	
担当者氏名	日景真由美	開講期	3年前期	単位数	1

【授業の主題】

母子保健分野における保健活動の歴史的な変遷や現在の施策及び動向を踏まえて、対象の健康レベルに応じた健康の保持増進、健康の回復・改善、疾病予防対策の支援方法や技術を学ぶ。

【到達目標】

1. 母子保健活動の歴史的変遷、現在の動向や施策を理解できる。
2. 母子保健活動の現状を把握し、対象者への支援（保健活動）を理解できる。
3. 母子保健における地域の支援体制や社会資源を考えることができる。

【授業計画・内容】

- | | |
|--------|---------------------------------------|
| 第 1 回 | 母子保健活動の変遷 |
| 第 2 回 | 母子保健の健康関連指標の動向 |
| 第 3 回 | 母子保健施策・母子保健計画 |
| 第 4 回 | 女性のライフステージ各期の健康課題と支援（思春期、妊娠期 など） |
| 第 5 回 | 女性のライフステージ各期の健康課題と支援（産褥期・育児期、成熟期、更年期） |
| 第 6 回 | 乳幼児期の健康課題と支援（乳幼児の発育・発達 など） |
| 第 7 回 | 乳幼児期の健康課題と支援（乳幼児健康診査、乳児健康診査） |
| 第 8 回 | 乳幼児期の健康課題と支援（1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査） |
| 第 9 回 | 乳幼児期の健康課題と支援（乳幼児の健康課題、基本的生活習慣 など） |
| 第 10 回 | 乳幼児期の健康課題と支援（離乳食 など） |
| 第 11 回 | 乳幼児期の健康課題と支援（事故防止、予防接種 など） |
| 第 12 回 | 子育てのリスクを持つ家族と支援（未熟児、低出生体重児、心身障害児など） |
| 第 13 回 | 子育てのリスクを持つ家族と支援（児童虐待 など） |
| 第 14 回 | 子育てのリスクを持つ家族と支援（発達障害、DV、ひとり親家庭 など） |
| 第 15 回 | 母子保健における地域の支援体制、社会資源 |

【授業実施方法】

講義、演習

【授業準備】

母性看護学や小児看護学で学んだ内容を復習して講義に臨む。講義後は学修内容を復習する。

【主な関連する科目】

「母性看護学」「小児看護学」、「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」などの公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

公衆衛生看護学. jp 第4版 データ更新版、インターメディカル、2017.
国民衛生の動向 2017/2018年版、厚生統計協会、2016.

【参考文献】

標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動、医学書院、2017.
最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論①、メヂカルフレンド社、2016.
最新公衆衛生看護学 第2版 各論1、各論2、日本看護協会出版会、2017.

【成績評価方法】

出席状況・受講状況（5%）、提出課題（30%）、定期試験の成績（65%）による総合評価

【学生へのメッセージ】

2年生までの関連科目を復習して授業に臨みましょう。特に、母性看護学・小児看護学で学んだ内容を基礎として、授業を展開していきますので、関連する項目を復習して授業に臨みましょう。

授業科目名・形態	高齢者保健活動論	演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	松橋セツ子	開講期	3年前期	単位数	1

【授業の主題】

少子高齢化の日本の社会情勢と国の高齢者対策の現状を知り、高齢者保健分野における保健活動の動向を踏まえ、高齢者の特徴と健康問題を理解する。

また、高齢者の健康レベルに応じたセルフケアを促すための具体的な方法や技術を学び、更に高齢者を取り巻く生活環境を理解した保健活動が実践できる能力を養う。

【到達目標】

1. 高齢者保健活動の動向を踏まえ、高齢者の特徴と健康問題を理解できる。
2. 高齢者の健康レベルに応じたセルフケアの方法や技術を修得できる。
3. 高齢者が住み慣れた地域で生活していくための生活環境を理解した保健活動を実践できる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 高齢者保健の理念と歴史的変遷・高齢者保健における保健師の役割
- 第 2 回 高齢者保健の現状（高齢者の健康状態・高齢者と家族・高齢者と社会参加等）
- 第 3 回 高齢者の健康状況と疾病特性（脳血管疾患・転倒や骨折・認知症等の現状等）
- 第 4 回 健康な高齢者と保健指導
- 第 5 回 要支援・要介護高齢者の現状
- 第 6 回 介護保険制度のしくみ・高齢者福祉介護保険事業計画について
- 第 7 回 介護保険制度における介護給付サービス（通所サービス・施設入所サービス等）
- 第 8 回 介護保険制度における地域支援事業・地域包括ケアシステムと保健師の役割
- 第 9 回 認知症の実態と対策
- 第 10 回 高齢者の保健指導の実際（介護予防実技実習）
- 第 11 回 高齢者の権利擁護（虐待防止・成年後見制度等）
- 第 12 回 要介護高齢者と介護者の現状と特性（ターミナル期の支援含む）
- 第 13 回・第 14 回 高齢者支援のためのネットワーク作り（演習）
- 第 15 回 高齢者の健康増進に関わる住民の地域活動支援（関連機関との連携。地域ケアシステムの構築）
- 第 16 回 試験

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

2年生までの関連する科目（老年看護学）で学んだことを復習し、教科書を読んで講義に臨む。

【主な関連する科目】

「老年看護学概論」「老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ」「在宅ケア論Ⅰ・Ⅱ」「保健医療福祉行政論」「公衆衛生看護学」の科目および実習

【教科書等】

公衆衛生看護学 j p 第4版データ更新版 インターメディカル、2017
国民衛生の動向 2017/2018年版 厚生労働統計協会 2017

【参考文献】

高齢者保健福祉マニュアル 南山堂

【成績評価方法】

筆記試験の成績 80%、課題レポート 10%、出席・受講状況 10%等を総合して評価する。

【学生へのメッセージ】

高齢化率の上昇に伴う社会情勢に関心を持ち、高齢者の自立支援を促す個人・家庭・地域のエンパワーメントを高めるための、保健師の役割やそれを支える法律・制度について理解を深めて下さい。また、地域包括ケアシステムの構築を目指す中で、生涯住みなれた地域で生活していくための高齢社会を支える保健師の姿を思い描きながら授業に臨んで下さい。

授業科目名・形態	健康課題別活動論 I	演習	必修・選択の別	選 択	
担当者氏名	日景真由美	開講期	3年後期	単位数	1

【授業の主題】

障がい者（児）・精神障がい者・難病などの疾患や障害を抱えた対象に対する歴史的な保健活動の変遷や動向を踏まえ、各対象の特性と生活上の問題や健康課題を理解する。また、保健・医療・福祉の諸施策を理解したうえで、個々の対象の特性に応じた生活を支援する保健活動の方法を学ぶ。さらに、地域社会における社会資源の活用や関係機関との連携および地域ケアの体制づくりなどの基礎的な知識を理解する。

【到達目標】

1. 障がい者（児）、精神障がい者、難病を抱えた対象への保健医療福祉活動の歴史的変遷、現在の動向や施策を理解できる。
2. 各対象の特性と生活問題や健康課題を理解できる。
3. 各対象の特性に応じた支援（保健活動）を理解できる。
4. 社会資源の活用や関係機関との連携、地域ケア体制づくりを考えることができる。

【授業計画・内容】

第 1 回	障がい者（児）保健福祉活動	障がい者（児）保健医療福祉の動向 I
第 2 回	障がい者（児）保健福祉活動	障がい者（児）保健医療福祉の動向 II
第 3 回	障がい者（児）保健福祉活動	障がい者（児）の健康課題と支援 I
第 4 回	障がい者（児）保健福祉活動	障がい者（児）の健康課題と支援 II
第 5 回	障がい者（児）保健福祉活動	障がい者（児）の自立支援、権利擁護
第 6 回	難病保健活動	難病保健医療福祉対策の動向
第 7 回	難病保健活動	難病療養者の生活と健康課題
第 8 回	難病保健活動	難病療養者への支援 I
第 9 回	難病保健活動	難病療養者への支援 II
第 10 回	難病保健活動	地域で生活する難病療養者の支援体制
第 11 回	精神保健活動	精神保健医療福祉の動向
第 12 回	精神保健活動	精神障害者の生活と健康課題
第 13 回	精神保健活動	社会病理を背景とする健康課題と支援 I
第 14 回	精神保健活動	社会病理を背景とする健康課題と支援 II
第 15 回	精神保健活動	地域で生活する精神障害者の支援体制

【授業実施方法】

講義、演習

【授業準備】

教科書を読んで講義に臨み、講義後は学修内容を復習する

【主な関連する科目】

「社会福祉概論 I」「障がい者（児）の福祉」「成人看護学」「精神看護学」、「公衆衛生看護学実習 I・II」など公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

公衆衛生看護学. jp 第4版 データ更新版、インターメディカル、2017.

国民衛生の動向 2018/2019年版、厚生統計協会、2018.

【参考文献】

標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動、医学書院、2017.

最新保健学講座 4 公衆衛生看護活動論②、メヂカルフレンド社、2017.

最新公衆衛生看護学 第2版 各論1、日本看護協会出版会、2017.

【成績評価方法】

出席状況・受講状況（5%）、提出課題（20%）、定期試験の成績（75%）による総合評価

【学生へのメッセージ】

2年生までの関連科目を復習して、授業に臨みましょう。授業で取り上げる内容は保健師活動として、基本的な分野です。この分野から保健師国家試験の問題として出題されることが多いので、授業後はしっかり復習しましょう。

授業科目名・形態	健康課題別活動論Ⅱ	演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	日景真由美	開講期	3年後期	単位数	1

【授業の主題】

歯科保健活動や感染症保健活動の歴史的な保健活動の変遷や動向を踏まえ、各分野の健康課題を理解する。また、保健・医療・福祉の諸施策を理解したうえで、各分野の対象の特性に応じた保健活動の方法を学ぶ。さらに、集団を対象とする健康危機への対応を学ぶ。

【到達目標】

1. 歯科保健活動、感染症保健活動の歴史的変遷、現在の動向や施策を理解できる。
2. 各分野の対象の特性に応じた支援（保健活動）を理解できる。
3. 感染症発生時の健康危機管理を理解できる。

【授業計画・内容】

第 1 回	歯科保健活動	歯科口腔保健の動向
第 2 回	歯科保健活動	生涯にわたる歯科口腔保健対策
第 3 回	歯科保健活動	生涯にわたる歯科口腔保健への支援
第 4 回	感染症保健活動	感染症保健対策の動向
第 5 回	感染症保健活動	感染症対策、感染症予防活動
第 6 回	感染症保健活動	疾病管理（結核 1）と支援
第 7 回	感染症保健活動	疾病管理（結核 2）と支援
第 8 回	感染症保健活動	疾病管理（結核 3）と支援
第 9 回	感染症保健活動	疾病管理（H I V 感染症／A I D S）と支援
第 10 回	感染症保健活動	疾病管理（性感染症、新興感染症・再興感染症）と支援
第 11 回	感染症保健活動	疾病管理（肝炎、HTLV-1 感染症 等）と支援
第 12 回	感染症保健活動	疾病管理（ツツガムシ病、腸管出血性大腸菌感染症、食中毒 等）と支援
第 13 回	感染症保健活動	健康危機管理と感染症対策
第 14 回	感染症保健活動	感染症発生時の保健活動 I
第 15 回	感染症保健活動	感染症発生時の保健活動 II

【授業実施方法】

講義、演習

【授業準備】

教科書を読んで講義に臨み、講義後は学修内容を復習する

【主な関連する科目】

「感染と免疫」、「公衆衛生学」、「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」など公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

公衆衛生看護学. jp 第4版 データ更新版、インターメディカル、2017.
国民衛生の動向 2018/2019年版、厚生統計協会、2018.

【参考文献】

標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動、医学書院、2017.
最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論②、メヂカルフレンド社、2017.
最新公衆衛生看護学 第2版 各論1、日本看護協会出版会、2017.

【成績評価方法】

出席状況・受講状況（5%）、提出課題（10%）、定期試験の成績（85%）による総合評価

【学生へのメッセージ】

2年生までの関連科目を復習して、授業に臨みましょう。授業で取り上げる内容は保健師活動として、基本的な分野です。この分野から保健師国家試験の問題として出題されることが多いので、授業後はしっかり復習しましょう。

授業科目名・形態	セイフティマネジメント	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	成田久美子・島山ルミ子	開講期	3年後期	単位数 1

【授業の主題】

安全な医療の提供は医療の基本となるものであり、医療事故防止や感染予防など医療安全管理は重要課題となっている。医療事故は、あってはならないが全くゼロにできないのが実情であり、患者の一番近くにいる最終ケア提供者であることが多い看護師は、医療安全管理においては最もリスクを抱えている立場にあると言える。本講義では、患者および家族と医療従事者双方を守る医療安全管理と感染予防対策について、国内の動向などの基本的考え方をふまえながら、医療現場で実際どのような取り組みがされているかを解説し、医療安全と感染防止対策における基本的知識の習得と看護の役割を理解する。

【到達目標】

- 1) 医療安全対策の歴史と動向、及びその概念を理解すること。
- 2) 医療機関における医療安全管理体制を理解すること。
- 3) 医療機関の現状、医療事故防止対策の考え方について学び、医療安全管理に対する自分なりの心構えができる。

【授業計画・内容】

- 第1回 医療安全対策の歴史と動向、医療施設における医療安全管理体制（島山）
 第2回 医療事故防止の考え方①（どうして事故は起こるのか、インシデントレポートの重要性）（島山）
 第3回 医療事故防止の考え方②（具体的な事例）（島山）
 第4回 医療安全とコミュニケーション 演習含む（島山）
 第5回 KYT（危険予知トレーニング）の実際 演習含む（島山）
 第6回 感染予防の基本的考え方、医療施設における感染管理体制（成田）
 第7回 医療現場における標準予防策の実際（手洗い、手袋装着方法等演習）（成田）
 第8回 医療現場における職業感染管理活動の実際（成田）

【授業実施方法】

講義形式と演習（グループワーク、手洗い実習）

【授業準備】

講義内容を踏まえ復習を中心に行う。医療事故や感染症に対する新聞やマスコミ報道に関心を持ち、情報収集する。

【主な関連する科目】

看護マネジメント論、統合実習

【教科書等】

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践2 医療安全、川村治子、医学書院、2014

【参考文献】

医療安全に活かすKYT、兵藤好美・細川京子、メジカルフレンド社、2013
 ルポ医療事故、出河雅彦、朝日新聞出版、2009
 基礎からわかる感染症、本田純一・操華子、ナツメ社、2012

【成績評価方法】

レポートと受講態度など総合して評価する 「レポート50%、出席状況・授業態度50%」

【学生へのメッセージ】

医療現場において、医療事故や感染をゼロにすることは非常に困難ですが、安全安心な医療環境を提供するために努力し続けることは医療従事者の義務といえます。医療安全管理に関して大切なことは、一人ひとりが対策の重要性を理解し、一人ひとりが確実に実施することの積み重ねです。患者様、自分自身双方を守るために実際の医療の現場で何ができるのか、この講義を通して考えるきっかけになることを望みます。

授業科目名・形態	リハビリテーションと看護	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	今野 修	開講期	3年後期	単位数	1

【授業の主題】

リハビリテーション看護の今日的課題について、回復期にある対象者の看護の基本原則と、臨地実習での疾病や障害に対する看護実践を踏まえた発展的学習を行なう。また、転倒・転落防止対策などを含めた維持期リハビリテーションおよび地域リハビリテーション、さらに補完・代替療法(CAM)を取り入れたリハビリテーション看護の実際等を紹介し、幅広い視点からリハビリテーション看護を考える。

【到達目標】

- 1) 対象者の生活の自立を踏まえ、生活の再構築の方法を理解することができる。
- 2) 回復力と自立性を高めることにつながる「安寧」のリハビリテーション看護への取り入れの方法を理解することができる。

【授業計画・内容】

- 第1回 リハビリテーション看護の考え方
- 第2回 がん患者のリハビリテーション看護
- 第3回 転倒・転落予防対策とリハビリテーション看護
- 第4回 高次脳機能障害患者のリハビリテーション看護
- 第5回 摂食・嚥下障害のある患者のリハビリテーション看護①
- 第6回 摂食・嚥下障害のある患者のリハビリテーション看護②
- 第7回 補完・代替療法(CAM) とリハビリテーション看護①
(ホリスティックケアを通してリハビリテーション看護を考える)
- 第8回 補完・代替療法(CAM) とリハビリテーション看護②
(ホリスティックケアを通してリハビリテーション看護を考える)

【授業実施方法】

講義および演習

【授業準備】

次回の授業内容については予告するので、次回までに教科書等で予習してくる。

【主な関連する科目】

成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、緩和ケア論、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

毎回資料を配布する。

【参考文献】

奥宮暁子他：ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ リハビリテーション看護，メディカ出版，2018.1

【成績評価方法】

レポート(80%)，授業態度・出席状況等(20%)による総合的評価

【学生へのメッセージ】

この講義を通して、人間にとっての最良の健康回復の支援方法を考えていきたいと思います。また、限られた時間で学習を深めるために、予習・復習にも努めてもらいたいと思います。

授業科目名・形態	ヘルスアセスメント	演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	今野修・千葉孝子・村川徳昭	開講期	3年後期	単位数	1

【授業の主題】

ヘルスアセスメントとは、対象の健康状態を把握するためのフィジカルアセスメントと心理・社会的アセスメントを統合したアセスメントである。本授業では、対象の身体的側面を査定するためのフィジカル・イグザミネーションの技法のみならず、心理的・社会的側面へのアセスメントの方法も学び、対象を全人的にアセスメントできる知識・技術の習得を目指す。

【到達目標】

身体的・心理社会的・スピリチュアルな側面からの健康に関する包括的な情報を収集し、その情報を質的・量的に分析・統合・判断できる。

【授業計画・内容】

第1回	ヘルスアセスメントの概要(今野)	第10回	シミュレータを活用したヘルスアセスメントの実際④：グループ発表(今野)
第2回	心理・社会的アセスメントの実際(今野)	第11回	シミュレータを活用したヘルスアセスメントの実際⑤：グループ発表(今野)
第3回	呼吸器系のアセスメント(千葉)	第12回	救命救急の場におけるヘルスアセスメント① (村川)
第4回	循環器系のアセスメント(千葉)	第13回	救命救急の場におけるヘルスアセスメント② (村川)
第5回	消化器系のアセスメント(千葉)	第14回	クリティカル・シンキングとヘルスアセスメント(今野)
第6回	神経・感覚器・筋骨格器系のアセスメント(千葉)	第15回	スピリチュアル・アセスメント(今野)
第7回	シミュレータを活用したヘルスアセスメントの実際①：グループ・ワーク(今野)		
第8回	シミュレータを活用したヘルスアセスメントの実際②：グループ・ワーク(今野)		
第9回	シミュレータを活用したヘルスアセスメントの実際③：グループ・ワーク(今野)		

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

次回の授業内容については予告するので、次回までに教科書等で予習してくる。

【主な関連する科目】

看護過程論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、基礎看護技術論Ⅱ

【教科書等】

松尾ミヨ子他:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント第4版、メディカ出版、2018.1

【参考文献】

特に指定しない。

【成績評価方法】

筆記試験(80%)、出席状況・授業態度等(20%)、により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

授業では、シミュレータ学習や事例検討等を取り入れ、実践したアセスメントへの振り返りを通して、クリティカルシンキング(批判的思考)の能力を身につけてもらいたいと思います。また、本科目に関連する講義、実習等の既習の知識を応用するために、予習、復習を積み重ねていってください。

授業科目名・形態	がん看護学	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	佐藤純子	開講期	3年 後期	単位数 1

【授業の主題】

がんは日本の死因の第1位である。そこで、国は死亡率の低下を目指し政策を掲げ、それによってがん医療は著しく進歩している。そこで看護師は、がんの治療過程や予後を理解し、患者とその家族が安心し、安全に治療を受けるための環境を整備していくことが求められる。ここでは、がん看護の特殊性、その倫理的課題、患者およびその家族を含めた看護の方法、予防および早期発見における活動についても学ぶ。さらに自分たちでテーマを決め、文献などから調べ、がん看護の特殊性を深めることを目標とする。

【到達目標】

- 1) より専門的ながん看護について理解を深める。
- 2) 患者およびその家族を含めた看護の方法や倫理的課題とその対処方法についても理解する。

【授業計画・内容】

第1回	がん医療の現状	第6回	ディベート・・・がん看護に関連する内容で討議（テーマは後で提示します）
第2回	がんの治療法とがん看護の特殊性	第7回	グループワーク（発表準備）
第3回	がん患者とその家族の倫理的問題	第8回	がん看護のグループワークの発表会
第4回	外来におけるがん化学療法の看護（がん化学療法認定看護師）		
第5回	病棟におけるがん化学療法の看護（がん化学療法認定看護師）		

【授業実施方法】

主として講義形式で行い、ディベートやグループワークを取り入れます。

【授業準備】

それぞれのテーマでグループワークを行いますので図書館などで、がんに関連する内容を調べてください。また、ディベートでは多角的な視点での知識を必要とします。事前の必要と思われることについて理解を深めておいてください。

【教科書等】

成人看護学 慢性期看護論 ニューヴェルヒロカワ
 系統看護学講座 がん看護学 医学書院

【参考文献】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価方法】

レポート（50%）、受講態度、出席状況など（50%）を総合的に評価します。

【主な関係科目】

成人看護学概論、成人看護方法論Ⅱ・Ⅲ、成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ

【学生へのメッセージ】

机上で学んだことと臨地実習で学んできたことを統合させ、がん看護における看護実践の実際を体得して欲しいと思います。受身の授業ではなく能動的な授業姿勢を期待します。

授業科目名・形態	研究方法論 I	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	岩間薫・水木暢子・佐藤純子・黒澤繭子	開講期	3年前期	単位数 1

【授業の主題】

看護における研究は、より質の高い看護ができるよう、新たな専門的知識・技術を創造し開発していくために重要である。したがって、看護研究の基本的概念や研究方法等を具体的に理解することは、看護教育においては極めて大切なことである。

【到達目標】

1. 研究の意味を理解する。
2. 研究における倫理的配慮について理解する。
3. 看護研究実践のための研究課題の発見の仕方、文献検索、研究計画の立て方、データの収集・分析、研究発表、論文のまとめ方、研究のクリティークに至る一連の研究過程を理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 研究の意味・研究と倫理的配慮 (水木暢子)
- 第2回 研究課題の発見・文献検討 (佐藤純子)
- 第3回 研究計画の立て方 (佐藤純子)
- 第4回 研究方法 (黒澤繭子)
- 第5回 データの収集と分析① 量的データ (黒澤繭子)
- 第6回 データの収集と分析② 質的データ (水木暢子)
- 第7回 論文構成とまとめ方・学会発表の仕方 (岩間 薫)
- 第8回 研究のクリティーク (岩間 薫)

【授業実施方法】

講義・演習

【授業準備】

一連の研究過程の理解を深めるため、また研究課題を発見できるようにするため、復習して、次回授業に備える。

【主な関連する科目】

研究方法論Ⅱ、統計学、保健統計学(選択)、看護研究、臨地実習

【教科書等】

黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step、第5版、医学書院、2012.

【参考文献】

1. ホロウェイ、ウイラー、野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門 研究方法から論文作成まで、第2版、医学書院、2006.
2. D. F. ポーリット、B. P. ハングラー、近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法、第2版、医学書院、2010.
3. 小笠原知枝・松木光子編：これからの看護研究 基礎と応用、第3版、ヌーヴェルヒロカワ、2012.
4. N. バーンズ、S. K. グローブ、黒田裕子・中木高夫・逸見功監訳：バーンズ&グローブ 看護研究入門 評価・活用・エビデンスの生成、エンゼビア・ジャパン、2015.
5. 南裕子・野嶋佐由美編：看護における研究、第2版、日本看護協会出版会、2017.
6. 川村佐和子：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④ 看護研究、第3版、メディカ出版、2017.

【成績評価方法】

課題レポート 90%、授業への取り組み姿勢・出席状況 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

看護職を専門職として遂行していくためには、研究は欠かせないものです。ここで、看護研究の方法とともに、研究の倫理的配慮等についてももしっかり学んでいきましょう。

授業科目名・形態	研究方法論Ⅱ	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	岩間 薫他、看護学科担当教員	開講期	3年後期	単位数 2

【授業の主題】

「研究方法論Ⅰ」で学んだ知識を踏まえ、研究における倫理的配慮、研究課題の発見の仕方、文献検索、研究計画の立て方、倫理審査申請書の作成等の一連の研究過程を担当教員の指導のもとで学生が主体的に実践する。なお、この研究過程は4年次の「看護研究」へと継続される。

【到達目標】

研究における倫理的配慮、研究課題の発見の仕方、文献検索、研究計画の立て方、倫理審査申請書の作成等の一連の研究過程を行うことができる。

【授業計画・内容】

1. 学生は希望する看護専門分野に分かれ、担当教員の指導のもとに個人またはグループ研究を行う。
2. 専門分野への配置では偏らないように調整を行うことがある。
3. 教員1名あたりの担当学生数は3～5名程度とする。

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。グループワークによる資料作成等も行う。

【授業準備】

担当教員からの指導を受け、次回授業まで必要な準備や作業を積極的に進めること。

【主な関連する科目】

研究方法論Ⅰ、統計学、保健統計学（選択）、看護研究、臨地実習

【教科書等】

「研究方法論Ⅰ」と同じ

【参考文献】

「研究方法論Ⅰ」と同じ

【成績評価方法】

研究の実施 50%、授業への取り組み姿勢・出席状況 50%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

- ・ 「研究方法論Ⅰ」の授業やレポート作成等で学んだ研究に関する基礎知識を活用しながら研究計画書や倫理審査申請書を作成し、4年次の「看護研究」でその成果を大いに発揮してください。
- ・ 専任教員とは、今までにない深い人間的な関係を築くことができます。

授業科目名・形態	成人・老年看護学実習Ⅰ (慢性期・回復期)	実習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	佐藤純子、小畑千春	開講期	3年前期・後期	単位数 3

【授業の主題】

成人期・老年期の発達段階や特徴を踏まえ、慢性疾患を持ち疾病のコントロールを必要とするその家族の健康問題を総合的に理解する。さらに看護過程の展開を通して対象の発達と健康レベルに応じた個別的な看護の実践方法を学び、看護の基本的な知識・技術・態度を修得する。

【到達目標】

実習目標

- (1) 疾病のコントロールを必要とする対象の発達課題や身体的・心理的・社会的特徴、疾病の受容過程を理解する。
- (2) 慢性疾患をもつ対象が疾病のコントロールをしながら、セルフケア能力を獲得して自立した社会生活を送るための援助ができる。
- (3) 慢性疾患を持つ対象へ看護過程の展開から個別的な援助ができる。
- (4) 慢性疾患を持つ対象の社会的問題を理解し、継続的な援助方法や社会資源の活用方法、ソーシャルサポートシステムを理解する。
- (5) 対象への援助における関連機関や各種機関の連携・協働の必要性和看護の役割や機能を理解する。

【授業計画・内容】

実習場所：大館市立総合病院

慢性期・回復期における患者を受け持ち、看護過程を展開する。また退院支援の実際も知る。

【授業実施方法】

臨地実習

【授業準備】

2年次の春季休業時に臨地実習の事前課題を提示します。それ以外にも今まで学んだ病態や看護技術なども理解を深めておいてください。

【主な関係科目】

成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人・老年看護学実習Ⅱ、老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

特に指定しない

【参考文献】

授業で使用した教科書や資料に加え、図書館などを活用して必要なものを自分で選んでください。

【成績評価方法】

出席状況および実習状況（50%）・実習記録（50%）などを総合的に評価します。

【学生へのメッセージ】

実習では、机上で学習できない貴重な体験から、多くのことを学ぶことができます。その機会を大切にしてください。

授業科目名・形態	成人・老年看護学実習Ⅱ (急性期・回復期)	実習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	今野修・千葉孝子	開講期	3年前期・後期	単位数	3

【授業の主題】

周手術期およびリハビリテーション期にある成人期・老年期の対象とその家族の健康問題を総合的に理解し、さらに看護過程の展開を通して、対象の発達課題と健康レベルに応じて、的確な看護判断に基づいた看護の実践方法を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 手術を必要とする患者や生命危機状況にある患者および家族の心理状態を把握し、その援助方法を理解することができる。
- 2) 疾病のコントロールやリハビリテーションをしながら、患者がセルフケアの確立に向けて自立した社会生活を送れるような援助の方法を理解することができる。
- 3) 手術中の患者の安全・安楽を配慮した手術室看護師の役割や、手術チームの協力体制を理解することができる。
- 4) 様々な場で提供される周手術期看護、リハビリテーション看護、外来看護等の流れや連携について理解することができる。

【授業計画・内容】（詳細については、成人・老年看護学実習Ⅱ要項を参照）

- 1) 手術およびリハビリテーションを必要とする成人期・老年期の患者様を1名受け持ち、術前から術後まで、あるいは術後リハビリテーション期における一貫した看護過程を展開する。年代による発達課題や身体的・精神的・社会的特徴や役割を考慮したうえで、健康レベルに応じた、個別のかつQOLを重視した看護の実践方法を学ぶ。
- 2) 実習期間中に指定された1日は看護チーム内で複数の患者に対するケアを学ぶフリー実習を行なう。
- 3) 実習期間中に指定された1日は手術室実習を行なう。手術中の患者の安全・安楽を配慮した手術室看護師の役割や、手術チームの協力体制、病棟や外来との連携について学ぶ。
- 4) 実習期間中に指定された1～2日は外来等の実習を行なう。周手術期やリハビリテーション期の対象が安全・安楽に検査や治療を受ける為の支援方法や、継続看護の実際を学ぶ。

【授業実施方法】

臨地実習

【授業準備】

- 1) 前日の実習目標にもとづいて、事前学習、学内演習を十分に行なう。
- 2) 実習が始まる前に、事前学習課題(成人看護学方法論Ⅱ・Ⅲの合同課題)を提示する。

【主な関連する科目】

病態治療学Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

成人看護学方法論や老年看護学方法論で使用したテキスト、資料を活用する。

【参考文献】

特に指定しない。

【成績評価方法】

出席状況・実習態度・カンファレンス参加態度(60%)、実習記録(40%)等による総合的評価

【学生へのメッセージ】

急性期は患者様の状況が刻々と変化しやすく、また、リハビリテーション期は、生活行動や価値観における変化の生じやすい時期でもあります。そのように変化する患者様の状態の把握のためには、疾患の理解や、心理的支援の方法、セルフケア獲得への支援等の事前学習を十分行なったうえで、患者様と関ることが必要となります。

授業科目名・形態	老年看護学福祉実習	実習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	檜原登志子・黒澤繭子・ 石川セツ子・芳賀邦子	開講期	3年前期・後期	単位数	2

【授業の主題】

介護老人福祉施設で生活する高齢者の日常生活援助を通じて、高齢者の身体的・心理的・霊的・社会的特徴についての理解を深める。又、新型特別養護老人ホームで個別化・ユニットケアを学ぶ。介護老人保健施設では、特殊性である（介護保険入所サービスを含む）軽度医療・看護の管理を必要として、介護保険上のリハビリテーションを受ける高齢者の理解が出来る。多様な施設を利用する高齢者の健康課題や福祉の観点からのニーズを把握し、個性の尊重、自立支援、QOLの向上を目指した生活援助、高齢者の尊厳に配慮した援助を実践する。また、高齢者に関する専門職の役割と連携の必要性や、看護の役割について理解する。併せて、施設が提供するショートステイ(地域包括ケア) 利用者の実習を通して看護と介護の連携の実践も学ぶ。高齢者終末期看護・介護の「施設の看取りケア」を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 施設を利用している高齢者を取り巻く環境（施設の特徴・生活環境）を理解する。
- 2) 老化に伴う身体的・心理的・霊的・社会的特徴を理解し、生活機能のアセスメントができ、施設ケアプランを理解し、日常生活を送る上での困難さを理解する。
- 3) 日常生活上の困難状況に合わせて残存機能を生かした、科学的根拠ある援助の重要性を理解する。
- 4) 予測的・予防的看護の必要性を理解し、自立した生活を目指した援助、見守ることの大切さやQOLを考えた援助方法を理解する。
- 5) 高齢者の適応力低下による高齢者リスクを防ぐ為の安全性の配慮と事故防止の重要性を理解する。
- 6) 高齢者施設・病院の医療関連感染（HAI）について理解できる。
- 7) 日常生活を支える各職種間や関連各機関とのコラボレーションの機能と重要性を理解する。
- 8) 高齢者とのかかわりを多く持ち、看護者に求められる支援を考えることが出来る。
- 9) 高齢者の終末期看護として「施設の看取りケア」を学ぶ。

【授業計画・内容】

実習の詳細は「平成30年度老年看護学福祉実習要項」に基づく。施設別の週案の学習目標に基づく。

【授業実施方法】

臨地実習を行う。帰学日と学内まとめ日で学修する。「平成30年度老年看護学福祉実習要項」を指導計画としている。

【授業準備】

既習の知識以外も活用し柔軟に対応し学びを深めて下さい。又、安全・安楽な援助を行うために、看護技術の復習を行い、自信をもって援助できるように繰り返し練習して下さい。高齢者の立場に立ち、対応できる態度を持ちましょう。

【主な関連する科目】

「老年看護学概論」「エイジング論」「老年看護方法論Ⅰ」「老年看護方法論Ⅱ」「病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（精神科）」「保健・医療と法律」

【教科書等】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第8版, 医学書院, 2016
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第4版, 医学書院, 2016

【参考文献】

必要時、実習内で提示する

【成績評価方法】

実習状況、実習記録（事前・事後学習を含む）85%、出席状況5%、終了後の課題10%、による総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

高齢者の言葉や心に関心を寄せて、高齢者の安寧のためのケアを考えていきましょう。事前学習を行い、施設の多くの職種ケア者から学ぶ姿勢を持つことが、学習の力に代えられます。

授業科目名・形態	小児看護学実習	実習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	佐藤光子・伊藤洋介・若狭由紀子	開講期	3年前期・後期	単位数 2

【授業の主題】

1. 小児看護の特徴を理解し、発達段階や健康レベルに応じた看護の基礎的能力を養う。
2. 健康障害をもつ小児とその家族を理解し、適切な生活環境や必要とする看護を学ぶ。

【到達目標】

1. 小児の成長・発達を理解し、発達段階やそれぞれの健康レベルに応じた援助について理解できる。
2. 健康障害が小児と家族に及ぼす影響や、健康障害をもつ小児とその家族の看護について理解できる。
3. 健康障害をもつ小児とその家族の看護を通して、適切な生活環境や必要な看護について考えることができる。
4. 小児看護における看護師の役割と態度について理解できる。
5. 受け持ち患児への看護展開ができる。

【授業計画・内容】

1. 実習施設
 - 1) 大館市立総合病院 小児科病棟及び小児科外来
 - 2) 大館市立城南保育園および大館市立城南保育園子育て相談室
2. 実習方法
 - 1) 実習期間： 前期 平成30年4月16日～7月13日
後期 平成30年10月1日～10月26日
グループ毎に2週間の実習を行う。
 - 2) 各実習施設において、健康障害をもつ小児及びその家族や健康な小児に必要な援助を、教員・看護師・保育士の指導のもとに実施する。
 - 3) 詳細は実習要項参照

【授業実施方法】 臨地実習

【授業準備】

事前学習課題を中心に小児看護の特徴及び主な疾患と看護を復習しておくこと。また直前オリエンテーションで小児看護に必要な援助技術を再確認して実習に臨むこと。

【主な関連する科目】 小児看護学概論、小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅲ（小児科）

【教科書等】

【参考文献】

小児看護学概論、小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅲ（小児科）で用いた教科書及び参考書、資料など。

【成績評価方法】

実習態度・実習出席状況等 60%、実習記録・事前学習等の記録 40%を総合して評価する。

【学生へのメッセージ】

健康な子どもと健康障害をもつ子どもの違いを肌で感じてみて下さい。

授業科目名・形態	母性看護学実習 実習	必修・選択の別	必修		
担当者氏名	岩間 薫 ・ 山平良子	開講期	3年前期・後期	単位数	2

【授業の主題】

1. 母性各期における対象を総合的に理解し、対象のニーズに応じた看護を実践できる能力を養う。
2. 実習を通して母性看護の実際を理解することができる。

【到達目標】

1. 母性各期にある対象を理解し、健康増進のための看護を理解できる。
2. 妊産褥婦および新生児の援助に必要な基本的な看護技術を実践できる。
3. 妊産褥婦および新生児の健康状態をアセスメントし、看護過程を展開できる。
4. 母性看護における継続看護の必要性を理解できる。
5. 母子保健医療チームの一員としての役割を理解できる。

【授業計画・内容】

実習計画・内容の詳細については、『母性看護学実習要項』に明記。
*実習オリエンテーション時に説明する。

【授業実施方法】

臨地実習

【授業準備】

事前学習課題や妊産褥婦および新生児の援助に必要な基本的な看護技術の練習を十分に行い、実習に臨むこと。

【主な関連する科目】

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、次世代育成ケア論、母性看護学概論、母性看護学方法論、助産科目

【教科書等】

母性看護学概論、母性看護学方法論の授業で使用了教科書や資料等

【参考文献】

適宜提示

【成績評価方法】

事前学習課題 10%、実習評価 60%、実習記録 20%、実習態度・出席状況 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

- ・ 事前学習課題を十分に行うことで、充実した実習となります。実習準備を万全に！
- ・ 母性看護学概論、母性看護学方法論、次世代育成ケア論で学んだ成果を大いに臨床の場で発揮して下さい。
- ・ 生の奇跡、生命の神秘さに触れることのできる貴重な実習となります。

授業科目名・形態	精神看護学実習	実習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	畠山禮子・高山新吾	開講期	3年前期・後期	単位数 2

【授業の主題】

精神に障害を持つ人との関わりを通して、病いの体験や生活の意味を知り、看護を必要とする患者およびその家族を総合的に理解し、状況に応じた援助方法を実際に学ぶ。また、精神医療保健チームの一員としての看護職者の役割、精神保健福祉法に基づく処遇について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 精神に障害を持つ人の病態を知り、病いによって影響を受けている行動が理解できる。
- 2) 精神に障害を持つ人との関わりを通し、対人関係の重要性を理解できる。
- 3) 精神に障害を持つ人を疾病と障害を併せ持つ生活者として捉え、日常生活の援助方法が理解できる。
- 4) 病態の治療過程を理解し、求められている看護の役割を認識することができる。
- 5) 患者と家族、周囲の人間関係を理解し、社会復帰に関連した社会資源活用方法について理解できる。
- 6) 患者のライフステージや病期を理解し、病いの体験（不安・恐怖・苦痛など）を受け止め、日常生活への援助、治療過程（薬物療法・作業療法・レクリエーション療法・生活技能訓練など）への援助について理解できる。
- 7) 患者 - 看護者間の相互作用のなかで、自己洞察しながら、看護過程を展開することができる。

【授業計画・内容】

詳細は実習オリエンテーションで提示する。

【授業実施方法】

臨地実習

【授業準備】

実習事前学習等については別紙で提示する。

【主な関連する科目】

「病態治療学Ⅲ（精神疾患）」「精神看護学概論」「精神看護方法論Ⅰ」「精神看護方法論Ⅱ」

【教科書等】

「病態治療学Ⅲ（精神疾患）」で使用したテキスト、

吉松和哉 小泉典章 川野雅資 編集 「精神看護学Ⅰ 精神保健学」第6版 ヌーベルヒロカワ出版、2015.

川野雅資 編集 「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」第6版 ヌーベルヒロカワ出版、2015.

【参考文献】

随時資料配布

【成績評価方法】

出席状況・実習状況（60%）、実習記録等（40%）により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

科学的根拠をもち、これまでの知識・技術を実習で発揮しましょう。

授業科目名・形態	在宅ケア実習	実習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	石川セツ子・黒澤繭子・芳賀邦子	開講期	3年前期・後期	単位数 2

【授業の主題】

- 1) 地域社会において、在宅で療養・生活している人々とその家族を対象に、対象の多様なニーズに対応したQOLを重視した療養生活・日常生活の支援活動の実際を学び理解できる。
- 2) 在宅ケアにおける保健・医療・福祉サービスの連携や地域ケアシステムの実際を学び理解できる。
- 3) 在宅看護活動の実際や継続看護の必要性について知る。
- 4) 個々の対象の特性に応じた支援に必要なサービスの活用や、ケアマネジメントの実際について理解できる。

【到達目標】

- 1) 在宅で療養・生活している人々とその家族を支援する施設の組織と役割を理解する。
- 2) 在宅で療養・生活している人々とその家族の生活・健康の諸問題、療養・生活している人々および家族に対する支援活動の実際を理解する。
- 3) 在宅で療養・生活している人々とその家族への社会資源の情報提供と活用を学ぶ。
- 4) 在宅ケアを支える関連職種および関連機関の連携を理解する。
- 5) 在宅で療養・生活している人々とその家族への訪問看護の実際、継続看護の必要性を理解する。
- 6) 要介護予防に対する施策を理解し、その重要性を学ぶ。
- 7) ケアマネジメントの実際、利用者を支えるシステムについて学ぶ。
- 8) 療養生活支援の実際を学ぶ。

【授業計画・内容】

- 1) 施設の組織と役割・事業概要
- 2) 在宅で療養・生活している人々と、その家族の生活状態・健康状態及び家族支援
- 3) 地域の社会資源・活用状況
- 4) 関連職種・関連機関との連携および活動内容
- 5) 在宅療養している人々と、その家族への訪問看護による援助の実際
- 6) 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所の事業目的、方針、内容の実際
- 7) ケアマネジャーの役割と活動内容
- 8) 在宅で療養・生活している人々とその家族に対するホームヘルプサービスの実際

※詳細は実習オリエンテーションにて提示する。

【授業実施方法】：臨地実習

【授業準備】：訪問看護、在宅ケアに関連するサービス、関係法規などの①事前学習ノートと②初日分の実習目標を記載した記録を実習開始前の指定の日時までに教員へ提出し確認してもらう。

【教科書等】：在宅ケア論Ⅰ・Ⅱで使用した教科書・2年次に授業で使用した関連資料など。

【参考文献】：必要時配布します。

【成績評価方法】：①実習指導者や教員による観察（実習中の行動や学習態度、実習指導者による記録のコメント、反省会・カンファレンス等での発言・発表）45%②学生自身及び教員による在宅ケア実習評価表（日々の在宅ケア実習記録含）45% ③在宅ケア実習への出席状況（10%）

【主な関連する科目】：在宅ケア論Ⅰ・Ⅱ

【学生へのメッセージ】：施設実習となりますので、個々の基本的なマナーをしっかりと守ってください。また、事前学習をしっかりと学んで積極的に質問するなど、主体的に実習に臨みやりがいと達成感のある実習を体験して頂きたい。

授業科目名・形態	助産診断・技術学Ⅲ	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	山平良子・重藤龍比古	開講期	4年前期	単位数	1

【授業の主題】

分娩期は人生のうちでも目に見える身体的・心理的・社会的・発達の变化を伴う時期であり、正常を逸すると母児の生命に直接的に大きな影響を及ぼす。この時期に助産師の行う診断とケアは、変化を正確に把握し適時に対応することが求められ、かつ現在および今後の健康状態の変化や経過を正確に予測した助産診断を行うことが極めて重要である。

本科目では、分娩期における助産診断の理論と技術を学び、助産過程の展開ができるようになる。また、分娩期におけるハイリスク・異常分娩、救急処置などの基礎的知識と技術について学ぶ。

【到達目標】

1. 分娩進行に伴う母子の健康状態に応じた助産診断の基礎的な知識を習得と助産過程の展開ができる。
2. 分娩期におけるハイリスクおよび異常分娩、産科手術、産科救急について理解できる。
3. 正常からの逸脱予測と予防のアセスメントを学ぶ。

【授業計画・内容】

- 第1回 分娩期の助産診断と診断類型 (山平)
- 第2回 事例展開①初産婦の分娩期 (山平)
- 第3回 事例展開②経産婦の分娩期 (山平)
- 第4回 事例展開③正常から逸脱した産婦のケア (山平)
- 第5回 事例展開④新生児のアセスメントとケア (山平)
- 第6回 事例展開⑤ハイリスク・異常分娩のケア (山平)
- 第7回 ハイリスク・異常分娩 (重藤)
- 第8回 産科手術・産科的医療処置 (重藤)

【授業準備】

事前に基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱでの学習内容、および教科書・資料・参考文献を復習しておくこと。各講義・演習で学習した知識・技術を活用できるように常に予習して臨むこと。

【主な関連する科目】

基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ

【教科書等】

助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期. 医学書院
 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3]分娩期・産褥期. 医学書院

【参考文献】

井上裕美他監修：病気がみえる産科 MEDIC MEDIA
 日本助産診断・実践研究会：実践 マタニティ診断第4版 医学書院
 北川真理子、内山和美編：今日の助産改訂第3版 南江堂
 武谷雄二他監修：プリンシプル産婦人科学2 産科編第3版 MEDICAL VIEW
 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修：産婦人科診療ガイドライン 産科編 2017 日本産婦人科学会
 その他は授業の中で適宜提示する。

【成績評価方法】

筆記試験 80%、授業への取組み姿勢・出席状況 20%とし総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

分娩介助技術習得の以前の必要な知識です。これまで以上に予習・復習が重要になりますし、教科書や参考文献を活用した積極的な自己学習の積み重ねが大切です。各学習の機会を大切にし、お互いに効果的な学習ができるようにしていきましょう。

授業科目名・形態	助産診断・技術学Ⅳ 演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	山平良子・関口麗子	開講期	4年前期	単位数 1

【授業の主題】

生理的現象である分娩を介助することは、母児の安全を保障すると同時に産婦が自らのすばらしい潜在能力に気づき、分娩に対する満足度が高くなるように支援していくことである。このことは、直接的に次世代の育成につながる重要な意味を持つ。分娩介助にあたり、生命に対する畏敬の念と、責任の重さを忘れずに母児の安全のために常に最善の支援技術が提供できるように準備しておく必要がある。本科目では臨地実習に向けて、出生を介助する援助技術を学び、分娩介助技術の基本と出生直後の新生児のケアの基礎的な知識と技術を習得する。

【到達目標】

1. 正常分娩介助法の基礎的な知識と技術を習得することができる。
2. 新生児に対して出生時の蘇生アルゴリズムに即したケアを習得することができる。

【授業計画・内容】

- 第1回 分娩介助の意義・原理、正常分娩介助法の原理（山平）
- 第2回 正常分娩介助法①（山平・関口）
- 第3回 正常分娩介助法②（山平・関口）
- 第4回 正常分娩介助法③（山平・関口）
- 第5回 正常分娩介助法④（山平・関口）
- 第6回 正常分娩介助法⑤（山平・関口）
- 第7回 フリースタイル分娩介助法①（山平・関口）
- 第8回 フリースタイル分娩介助法②（山平・関口）
- 第9回 出生直後の新生児のアセスメントとケア①（山平）
- 第10回 出生直後の新生児のアセスメントとケア②（山平）
- 第11回 新生児の異常（山平）
- 第12回 新生児の蘇生法（山平）
- 第13回 分娩第4期分娩後の異常への対処（山平）
- 第14回 胎児付属物（山平）
- 第15回 会陰裂傷縫合（山平）

【授業準備】

これまでの学習および教科書・資料・参考文献を復習し、常に知識・技術を活用できるように予習して臨むこと。

【主な関連する科目】

基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ

【教科書等】

助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期、医学書院

助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3]分娩期・産褥期、医学書院

【参考文献】

竹内 省、高橋真理子編集：分娩のしくみと介助法 メジカルビュー社

井上裕美他監修：病気がみえる産科 MEDIC MEDIA

北川真理子、内山和美編：今日の助産改訂第3版 南江堂

武谷雄二他監修：プリンシプル産婦人科学2産科編第3版 MEDICAL VIEW その他は授業の中で適宜提示する。

【成績評価方法】

筆記試験 40%、演習 40%、授業への取組み姿勢・出席状況 20%とし総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

臨地実習で適用可能な段階まで、知識・技術の習得が必要になります。助産技術習得のために必要な知識と技術ですので、積極的な自己学習の積み重ねを大切にしましょう。

授業科目名・形態	助産管理論 講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	三崎直子・松江喜美代	開講期	4年前期	単位数 2

【授業の主題】

助産管理に必要な理論、および助産業務の法的範囲と責任について学び、病院や地域における質の高い助産ケアを提供できる助産活動を考える。

【授業の到達目標】

1. 助産管理に必要な知識、および助産業務の法的範囲と責任を理解する。
2. 出産施設および地域での助産管理を理解する。

【授業計画・内容】

第1回	助産管理の意義と概念	(三崎)
第2回	助産管理と助産師の業務	(三崎)
第3回	助産師の責務と法的義務	(三崎)
第4回	母子保健と助産	(三崎)
第5回	出産施設における周産期管理	(三崎)
第6回	地域および国際助産活動と他職種連携	(三崎)
第7・8回	助産師の教育と展望、助産師のキャリアアップ	(三崎)
第9・10回	助産を取り巻く課題と取り組み(演習)	(三崎)
第11回	助産所における助産業務管理	(松江)
第12回	助産所における助産業務管理	(松江)
第13回	助産師活動の実際	(松江)
第14回	助産師活動の実際	(松江)
第15回	開業助産師の実際	(松江)

【授業実施方法】

講義形式で行う。

【授業準備】

助産に関する科目の復習をしておく。

【主な関連する科目】

「看護マネジメント論」、「助産学概論」、「助産診断・技術学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」

【教科書等】

助産学講座10助産管理 医学書院

【参考文献】

適宜、授業内で紹介する。

【成績評価方法】

前期定期試験で100%評価する

【学生へのメッセージ】

積極的な授業への参加を望みます。

授業科目名・形態	公衆衛生看護活動展開論Ⅲ 演習	必修・選択の別	選 択		
担当者氏名	成田あさ子	開講期	4年前期	単位数	1

【授業の主題】

保健師の専門性でもある公衆衛生看護活動について知識を深めると共に、地域の健康課題を解決するため、地域の人々が主体的に活動へ参加できるように、セルフヘルプグループの育成から組織化への支援方法、健康を守る各種の住民組織の育成及び住民組織と協働する方法を学ぶ。また、地域ケアシステム、ネットワークづくり等の健康な地域づくり型保健活動の必要性を理解する。

【到達目標】

1. 地域の健康課題解決に向けた地域組織の育成、支援方法を理解できる。
2. 健康を守る各種の住民組織との協働する方法を理解できる。
3. 健康な地域づくり型保健活動の必要を理解できる。
4. 自然災害における公衆衛生看護管理機能を理解できる。

【授業計画・内容】

- | | |
|--------|---------------------------|
| 第 1 回 | グループ支援の特長と意義 |
| 第 2 回 | グループ支援と保健師の役割 |
| 第 3 回 | グループ育成支援と組織化 |
| 第 4 回 | 地域活動への発展と支援者の基本的姿勢 |
| 第 5 回 | 地区組織化活動の定義・沿革・プロセス |
| 第 6 回 | 地区組織への支援における評価 |
| 第 7 回 | 地域ケアシステムとは（理念・目的・つくり方） |
| 第 8 回 | 地域ケアシステムの発展過程、チームワーク |
| 第 9 回 | 実習施設におけるグループ・組織化活動 |
| 第 10 回 | 実習施設におけるグループ・組織化活動 |
| 第 11 回 | 災害保健活動（定義・目的・制度・体制・活動） |
| 第 12 回 | 演習：自然災害における公衆衛生看護管理機能 |
| 第 13 回 | 演習とまとめ：自然災害における公衆衛生看護管理機能 |
| 第 14 回 | 地域ケアシステムの実践活動 |
| 第 15 回 | 地域ケアシステムの実践活動 |

【授業実施方法】

講義、演習

【授業準備】

教科書を読んで講義に臨み、講義後は学修内容を復習する

【主な関連する科目】

「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ・Ⅱ」等 公衆衛生看護学の科目および「公衆衛生看護学実習」

【教科書等】

公衆衛生看護学. j p 第4版、インターメディカル、2015

【参考文献】

最新保健学講座 公衆衛生看護活動論②、メジカルフレンド社
 新版 保健師業務要覧 第3版 日本看護協会出版会
 地域看護学講座④グループ・組織化活動 医学書院
 大規模災害における保健師の活動マニュアル 全国保健師協会、公衆衛生協会
 地域保健スタッフのための「住民グループ」の作り方・育て方 医学書院

【成績評価方法】

前期定期試験の成績90%、出席状況・授業態度10%

【学生へのメッセージ】

健康な地域づくり型保健活動の基本となる大切な講義です。新聞等の情報にも目を向け自主的に学習するとともに、積極的な発言により楽しく学びましょう。

授業科目名・形態	産業保健活動論	講義	必修・選択の別	選 択	
担当者氏名	日景真由美	開講期	4年前期	単位数	1

【授業の主題】

産業保健分野における保健活動の歴史的な変遷や現在の諸施策および動向を理解する。また、産業保健における健康課題と労働安全衛生体制を理解し、看護職（保健師・看護師）の役割と活動内容を理解する。さらに、職場の健康づくり活動や地域保健との連携を学ぶ。

【到達目標】

1. 産業保健活動の歴史的変遷、現在の動向や施策を理解できる。
2. 産業保健における健康課題と労働安全衛生体制を理解できる。
3. 産業保健活動における看護職（保健師・看護師）の活動を理解できる。
4. 職場の健康づくり活動と地域保健活動の連携を理解できる。

【授業計画・内容】

- | | |
|-------|-------------------------------------|
| 第 1 回 | 産業保健・看護の概念、産業保健・看護の歴史と現在の動向（日景） |
| 第 2 回 | 産業保健の制度と仕組みⅠ（日景） |
| 第 3 回 | 産業保健の制度と仕組みⅡ（日景） |
| 第 4 回 | 産業保健における健康課題の対策と支援（日景） |
| 第 5 回 | 産業保健における看護職の役割と活動（日景） |
| 第 6 回 | 産業保健における健康課題と対策の実際（日景、大館市内の事業所 産業医） |
| 第 7 回 | 産業保健活動の実際（日景、大館市内の事業所担当職員） |
| 第 8 回 | 産業保健活動の実際（日景、大館市内の事業所担当職員） |

【授業実施方法】

講義・見学

【授業準備】

教科書を読んで講義に臨み、講義後は学修内容を復習する

【主な関連する科目】

「公衆衛生学」「成人保健活動論」「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」など公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

公衆衛生看護学. jp 第4版、インターメディカル、2016.
国民衛生の動向 2017/2018年版、厚生統計協会、2017.

【参考文献】

標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動、医学書院、2017.
産業看護学、日本看護協会出版会、2017.
最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論①、メヂカルフレンド社、2017.
最新公衆衛生看護学 第2版 各論2、日本看護協会出版会、2017.
公衆衛生がみえる 2018/2019、メディックメディア、2018.

【成績評価方法】

出席状況・受講状況（5%）、提出課題（15%）、定期試験の成績（80%）による総合評価

【学生へのメッセージ】

3年生までの関連科目を復習して、授業に臨みましょう。また、働く人々の労働安全衛生や健康管理、職域保健と地域保健との連携などを学びましょう。

授業科目名・形態	学校保健活動論	講義	必修・選択の別	選 択	
担当者氏名	日景真由美	開講期	4年前期	単位数	1

【授業の主題】

学校保健分野における保健活動の歴史的な変遷や現在の諸施策および動向を理解する。また、学校保健における健康課題と活動体制を理解し、公衆衛生看護活動との連携を学ぶ。さらに、養護教諭の職務と役割、対象の健康レベルに応じた活動方法を理解する。

【到達目標】

1. 学校保健活動の歴史的変遷、現在の動向や施策を理解できる。
2. 学校保健における健康課題、学校保健安全活動体制を理解し、公衆衛生看護活動との連携を理解できる。
3. 養護教諭の職務、対象の健康レベルに応じた活動内容を理解できる。

【授業計画・内容】

- | | |
|-------|----------------------------------------|
| 第 1 回 | 学校保健・看護の理念、学校保健・看護の歴史、学校保健安全制度と仕組み（日景） |
| 第 2 回 | 学校保健における健康課題の対策と支援Ⅰ（日景） |
| 第 3 回 | 学校保健における健康課題の対策と支援Ⅱ（日景） |
| 第 4 回 | 学校保健活動、養護教諭の活動（職務・役割 など）（日景） |
| 第 5 回 | 義務教育における養護教諭の活動（日景、養護教諭） |
| 第 6 回 | 特別支援教育における養護教諭の活動（日景、秋田県立比内支援学校 養護教諭） |
| 第 7 回 | 学校保健・看護活動の実際（日景、大館市内の小学校養護教諭） |
| 第 8 回 | 学校保健・看護活動の実際（日景、大館市内の小学校養護教諭） |

【授業実施方法】

講 義、見 学

【授業準備】

教科書を読んで講義に臨み、講義後は学修内容を復習する

【主な関連する科目】

「公衆衛生学」「小児看護学」「母子保健活動論」、「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」など公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

公衆衛生看護学. jp 第4版、インターメディカル、2016.
国民衛生の動向 2017/2018年版、厚生統計協会、2017.

【参考文献】

標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動、医学書院、2017.
最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論①、メヂカルフレンド社、2017.
最新公衆衛生看護学 第2版 各論2、日本看護協会出版会、2017.

【成績評価方法】

出席状況・受講状況（5%）、提出課題（35%）、定期試験の成績（60%）による総合評価

【学生へのメッセージ】

3年生までの関連科目を復習して、授業に臨みましょう。また、公衆衛生看護活動と学校保健・看護活動の連携を学びましょう。

授業科目名・形態	公衆衛生看護管理論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	太田敦子	開講期	4年前期	単位数	1

【授業の主題】

様々な地域集団の特性に応じた健康課題解決のための保健活動は、健康水準を高めることを目的に展開する公衆衛生看護管理機能そのものである。具体的には事例管理・地区管理をはじめ、情報管理、事業管理、予算管理、組織管理、人材育成、健康危機管理等のそれぞれの管理機能を学ぶことにより、すべての保健師に管理能力が必要であることを理解し、それを其々が十分に発揮することで公衆衛生看護活動の質が高まり、人々の健康を保障することにつながることをめざす。

【到達目標】

1. 健康水準を高める公衆衛生看護管理の特徴を理解できる。
2. 具体的な公衆衛生看護管理機能（事例管理、地区管理、情報管理、事業管理、予算管理、組織管理、人材育成、健康危機管理等）を理解できる。
3. 保健師に管理能力が必要なことを理解し、人々の健康を保障する能力を養うことができる。

【授業計画・内容】

第1回	「公衆衛生看護管理の特徴」	1. 公衆衛生看護管理の理念
第2回	〃	2. 公衆衛生看護管理の基本
第3回	「公衆衛生看護管理の実際」	1. 事例管理・地区管理
第4回	〃	2. 情報管理
第5回	〃	3. 事業・業務管理、予算管理
第6回	〃	4. 組織運営と管理
第7回	〃	5. 人事管理・人材育成
第8回	〃	6. 健康危機管理

【授業実施方法】

講義

【授業準備】

教科書を読んで講義に臨み、講義後は学習内容を復習する。

【主な関連する科目】

「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」、「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」等の公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

最新保健学講座、公衆衛生看護管理論、メヂカルフレンド社、2016.

【参考文献】

随時 紹介

【成績評価方法】

筆記試験 100%

【学生へのメッセージ】

公衆衛生看護管理論は、「管理」は、いわゆる管理者だけが行うものではなく、新任保健師から管理期の保健師まですべての保健師に求められる能力であることをお話しします。保健師一人一人が十分にその機能を発揮できるよう講義では具体的な「事例」等も用いながら進めていきます。その際事例を基にしたグループワークを随時行います。

授業科目名・形態	リエゾン精神看護論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	畠山禮子	開講期	4年前期	単位数	1

【授業の主題と目標】

精神看護の知識や技術をその他の領域の看護に応用し、医療スタッフ間の連携を図ること、看護師のメンタルヘルス支援などの役割と機能をもつリエゾン精神看護について学ぶ。

【到達目標】

- 1) リエゾン精神看護とは何かを理解する。
- 2) 患者・家族の心の健康について理解する。
- 3) 看護師のメンタルヘルスについて理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 リエゾン精神看護とは
- 第2回 リエゾン精神看護に必要な考え方
- 第3回 チーム医療とリエゾン精神看護
- 第4回 一般科における直接ケア
- 第5回 コンサルテーション
- 第6回 看護師のメンタルヘルス支援
- 第7回 リエゾン精神専門看護師制度と教育
- 第8回 まとめ

【授業実施方法】

主に講義形式

【授業準備】

「病態治療学Ⅲ（精神疾患）」「精神看護学概論」「精神看護方法論Ⅰ」「精神看護方法論Ⅱ」「精神看護学実習」の復習を中心に行う。

【教科書等】

随時資料配布

【参考文献】

- 野末聖香 リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために 医歯薬出版株式会社 2004.
- 坂田三允 精神看護エクスペール16 リエゾン精神看護 中山書店 2006.

【成績評価方法】

出席状況・授業参加態度（50%）課題レポート（50%）などにより総合的に評価する。

【主な関連する科目】

「病態治療学Ⅲ（精神疾患）」「精神看護学概論」「精神看護方法論Ⅰ」「精神看護方法論Ⅱ」

【学生へのメッセージ】

現代社会において、ストレスを抱える人たちが増えてきています。身体を病む人や障害のある人も不安を抱えて生きています。このような人々を身体的、精神的、社会的側面を統合した人として捉え、ホリスティックケアを行うことが求められるリエゾン精神看護活動についても一緒に学びましょう。

授業科目名・形態	緩和ケア論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	水木暢子	開講期	4年前期	単位数	1

【授業の主題】

緩和ケアやターミナルケアの理念と発展過程を理解するとともに、緩和ケア実践で看護師が直面する倫理的課題について考究する。全人的な患者理解と主要症状に対する専門的な技術を用いた苦痛軽減の方法を学び、人間の尊厳を尊重した生活の維持について理解を深める。また、緩和ケアを受ける患者の家族が体験する喪失と悲嘆のプロセスを理解し、適切な支援を行うための看護の役割について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 緩和ケアの定義と歴史を理解する。
- 2) 緩和ケアを受ける対象と家族の特徴や支援方法を理解する。
- 3) 緩和ケアにおける薬物療法をはじめとした治療とケアの方法や問題点を理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 緩和ケア・ターミナルケアの定義・歴史
- 第2回 ターミナル期にある人の特徴と理解
- 第3回 ターミナル期にある人と家族への援助
- 第4回 緩和ケアの実践方法
- 第5回 緩和ケアにおける薬剤の活用と副作用への対処
- 第6回 ターミナル期にある患者と家族の事例から学ぶ（緩和ケア認定看護師）
- 第7回 在宅ターミナルケア
- 第8回 まとめ

【授業実施方法】

講義形式で行う。グループ討議や演習を1～2回程度行う予定。

【授業準備】

成人看護学概論、成人看護方法論、がん看護学、在宅ケア論Ⅱで学習した内容で、本科目と関連する内容については十分復習し、事前学習をして備えること。又適宜、必要な事前学習を提示するので、しっかり予習して授業に臨むこと。

【主な関連する科目】

成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、がん看護学、在宅ケア論Ⅱ、臨地実習

【教科書等】

鈴木志津枝、内布敦子編：成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 ニューヴェルヒロカワ

【参考文献】

恒藤暁、内布敦子編：系統看護学講座別巻10 緩和ケア 医学書院
 梅田恵、的場典子編：緩和ケア 南江堂
 その他の参考図書および資料は随時提示する。

【成績評価方法】

レポート評価（70%）、授業への参加態度・提出物・出席状況（30%）により評価する。

【学生へのメッセージ】

いのちの始まりから終わりまで、いのちについて考えます。緩和ケアは専門病棟のみならず、一般病棟や在宅ケアなど様々な場面で必要な知識となります。3年次までの講義や実習で体験した終末期看護の内容を統合させる学習になります。授業終了時には、自分の死生観・緩和ケアに対する理解が深まっているように、主体的な学習を進めていきましょう。

授業科目名・形態	救急医療と看護	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	村川徳昭・成田亜紀子・水木暢子	開講期	4年前期	単位数 1

【授業の主題】

救急医療における看護の役割を理解した上でその実践を学び、急変時の基本的な対応ができる知識を身につける。救急患者の特徴と治療、病院等における救急・急変時の対応と看護、救急医療における多職種連携について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 救急・災害時の医療システム、患者の受け入れ状況など医療体制の現状を理解する。
- 2) 救急看護のアセスメントに必要な基礎的な知識を習得する。
- 3) 急変時の対応に関する知識を習得する。
- 4) 救急・急変時の初期対応や応急処置のスキルを習得する。
- 5) プレホスピタルケアの現状を理解する。

【授業計画・内容】

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 第 1 回 | 救急および災害医療と看護総論 (村川) |
| 第 2 回 | 救急・災害医療の諸問題 (村川) |
| 第 3 回 | 災害時における初期治療 (村川) |
| 第 4 回 | CBRNE 災害対策医療 (村川) |
| 第 5 回 | 救急医療施設における看護の実際 (成田救急看護認定看護師) |
| 第 6 回 | Guideline-2015 に基づいた心肺蘇生 (村川) |
| 第 7 回 | プレホスピタルケアと応急処置の実際 (救急救命士) |
| 第 8 回 | 救急・急変時に必要な基本的技術 (演習) (水木) |

【授業実施方法】

おもに講義形式で行うが、一部演習も取り入れる。

【授業準備】

成人看護方法論Ⅱ (クリティカルケア) で学習した内容で、本科目と関連する内容については十分復習し、事前学習として備えること (資料を授業時持参)。又毎回の授業は次回以降の内容と非常に関連しているので、毎回復習し、事前学習が提示された場合には、しっかり予習して授業に臨むこと。

【主な関連する科目】

成人看護方法論Ⅱ・Ⅲ、成人・老年看護学実習Ⅱ、災害看護学

【教科書等】

特に指定しない。必要時、資料を配布する。

【参考文献】

系統看護学講座別巻 クリティカルケア看護学 医学書院
 系統看護学講座別巻 救急看護学 医学書院
 山内豊明 フィジカルアセスメント 医学書院
 その他の参考図書は随時提示する。

【成績評価方法】

試験 (60%)、演習および事後レポート (20%)、出席状況 (10%)、授業への参加状況 (10%) により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

救急医療に関連したニュースに関心を持ち、問題意識をもって取り組みましょう。

授業科目名・形態	国際看護活動論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	佐藤光子	開講期	4年前期	単位数	1

【授業の主題】

私たちの生活はあらゆる分野で世界の人々といろいろな形につながっています。私たちの健康も世界と深い関わりがあります。そこで世界の人々の健康問題や保健・医療の現状と課題を諸外国の政策や経済、文化的背景との関連から考察し、国際看護の基本理念と異文化の価値観を尊重した看護のあり方について学ぶ。

【到達目標】

1. グローバル看護、国際看護について理解する。
2. グローバルな視点で看護の普遍性や多様性について理解する。
3. 日本が行っている国際社会における連携や、国際看護活動の実践例について理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 グローバル看護とは何か
- 第 2 回 異文化・多文化と看護を考える①
- 第 3 回 社会制度と看護を考える
- 第 4 回 情報と看護を考える
- 第 5 回 教育と看護を考える
- 第 6 回 グローバルな視点をもった看護実践とは？
- 第 7 回 異文化・多文化と看護を考える②（大館在住外国人とともに考える）
- 第 8 回 国際的な視野をもつ看護師になるには？

【授業実施方法】 基本的には講義で行う。グループ討議も随時行う。

【授業準備】

毎回授業にあたって、世界でおこっている様々な事象特に健康に関する情報から感じたこと、学んだことを発表し合う。そのため情報収集し、自分の考えをまとめて発表できるよう準備すること。

【主な関連する科目】 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、看護方法論全般

【教科書等】 特に指定しない

【参考文献】

知って考えて実践する国際看護 医学書院
 国際看護学 中山書店
 系統看護学講座 看護の統合と実践 医学書院
 国際看護・国際保健 弘文堂
 ほか 授業で適時紹介する。

【成績評価方法】 レポート 90%、授業参加態度及び出席状況等 10%を総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

看護は、人種や国籍を超えた普遍性をもつ専門的な任務であると考えます。国境にこだわらないグローバルな視点で看護の普遍性や多様性を学び、私たちはどんな役割を果たすべきかを一緒に考えましょう。

授業科目名・形態	災害看護学 講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	小玉光子・成田亜紀子	開講期	4年前期	単位数 1

【授業の主題】

突如発生する災害は人々の生活や健康に甚大な影響を及ぼす。災害看護学では、「災害直後から支援できる看護の基礎知識について理解すること」の条項にそって、知識と演習を通して、災害サイクル各期で看護職が果たす役割を学習する。

【到達目標】

1. 災害看護に関する基本的な知識について理解できる。
2. 災害が人々の生活や健康に及ぼす影響について理解できる。
3. 災害サイクル各期に応じた看護の役割が理解できる。
4. 災害急性期の被災者のトリアージを修得できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 災害医療の観点からみた東日本大震災の特徴（小玉）
- 第2回 災害とは何か、災害看護の概要と災害医療の基本（小玉）
- 第3回 急性期の災害医療・災害看護活動（成田）
- 第4回 急性期の災害看護活動 演習①（成田）
- 第5回 急性期の災害看護活動 演習②（成田）
- 第6回 災害への対応体制・国際貢献（小玉）
- 第7回 亜急性期以後の災害医療・災害看護活動（小玉）
- 第8回 災害時の心のケア（小玉）

【授業実施方法】

講義形式および演習

【授業準備】

予め教科書の該当部分に十分目を通すこと。関連する科目も真剣に授業を受けること。

【主な関連する科目】

救急医療と看護、看護倫理、基礎看護学、成人看護学、小児看護学、老年看護学、在宅看護学、精神看護学、カウンセリング、看護コミュニケーション、公衆衛生学、感染と免疫、国際看護活動論

【教科書等】

新体系看護学全書 看護の統合と実践② 災害看護学 第2版 メヂカルフレンド社

【参考文献】

系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院
 酒井明子・菊池志津子：災害看護 改訂第2版 南江堂
 酒井明子：ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 MC メディカ出版

【成績評価方法】

レポート（95%）、出席状況・受講態度（5%）を総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

常日頃から災害に関する情報に関心と問題意識を持ち、新聞やニュース等から積極的に情報を得るようにしましょう。

授業科目名・形態	看護マネジメント論	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	佐々木 冷子	開講期	4年前期	単位数	1

【授業の主題】

現在の看護管理は、新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織システムを動かしていく活動である。看護サービスとは何か、看護の対象者に対して、知識・技術をケアとして捉え、安全な医療を提供する役割がある。さらに本課題は、看護を取り巻く保健・医療・福祉を総合的に学ぶ必要があります。

【到達目標】

看護を取り巻く周辺状況を理解し、臨床看護実践の重要性を理解する。
診療報酬を学び、看護経済を学ぶ。

【授業計画・内容】

- 第1回 看護サービスの管理 P6
- 第2回 看護提供方式 P38
- 第3回 看護組織と管理 P25
- 第4回 看護管理のスキル①資源の獲得と配分 P85～93
- 第5回 看護管理のスキル②アウトカムマネジメント P180～184
- 第6回 看護管理のスキル③人的資源管理 P103～164
- 第7回 医療の連携と協働・医療経済と管理 P166～228
- 第8回 現代法制度と看護管理 P230

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

「看護提供方式」等の予習をして望んで頂きたい。

【主な関連する科目】

「看護学概論」「看護倫理学」

【教科書等】

手島恵 看護管理学 南江堂 2018

【参考文献】

- パトリシアベナー：井部俊子他訳 ベナー看護論 医学書院、2002
- エドガーH・シャイン：二村俊子他訳 キャリア・ダイナミックス 白桃書房、2002

【成績評価方法】

出席状況、前期試験等の総合評価

【学生へのメッセージ】

看護マネジメント論は、各すべての看護専門領域の統合されたマネジメントを学ぶ学問です。新しいデータを多く盛り込み授業展開したいと考えております。臨床看護の集大成として学生の皆様とともに、「安全な看護実践、魅力ある看護」とは何か、そして「看護の質向上のためには何が重要であるか」を共に学びたいと思います。

授業科目名・形態	看護研究	演習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	水木暢子他、看護学科担当教員	開講期	4年前期・後期	単位数 2

【授業の主題】

看護研究は学士課程の集大成であり、卒業後さらに研鑽を重ね、創造的に専門性を深めるための基盤を形成するものです。3年次の「研究方法論Ⅰ」「研究方法論Ⅱ」で学んだ知識を踏まえ、作成した研究計画書に沿って、専任教員の指導のもとで学生が主体的に看護研究を実施します。データの収集・分析・倫理的配慮・論文の作成・研究発表の一連のプロセスを実践し、最終的に論文に集約して完了することになります。

【到達目標】

- 1) 研究課題に関する文献検索により、先行研究を分析し、課題を絞り込むことができる。
- 2) 研究目的に沿った研究方法を選定し、研究計画に従い研究を進めることができる。
- 3) データの収集・分析を行い、論文を作成することができる。
- 4) 一連の研究活動を通し、研究のプロセスを理解する。
- 5) グループメンバーとの協力や協同的な態度を身につける。

【授業計画・内容】

1. 学生は原則として研究方法論Ⅱの担当教員に指導を受け、個人またはグループ研究を継続する。
2. グループ配置は人数等で偏らないように調整を行うことがある。
3. 教員1名あたりの担当学生数は3～6名程度とする。
4. 助産学選択の学生は助産学担当の教員が担当する。
5. 論文提出は9月末日までとする。
6. 全体での研究発表は行わないが、専門分野ごとの発表や大学祭での発表を行う。
7. 「看護研究論文集」を発行する。10月以降は編集作業に入り、校正を経て3月の発行を目指す。

【授業実施方法】

演習。ゼミナール形式で行う。

【授業準備】

担当教員から指導を受け、次回授業までに必要な準備や連絡調整を自主的に積極的に進めること。

【主な関連する科目】

研究方法論Ⅰ、研究方法論Ⅱ、統計学、保健統計学、臨地実習

【教科書等】

「研究方法論Ⅰ」と同じ

【参考文献】

「研究方法論Ⅰ・Ⅱ」と同じ

【成績評価方法】

看護研究評価用紙（研究の実施状況 30%、論文の内容 45%、研究への取り組み姿勢 25%）に基づき、評価を行う。

【学生へのメッセージ】

「看護研究」での学びは学士課程のみならず、卒業後に専門職者として業務を遂行していく上での基盤となるものです。また、「看護研究」を行う過程において、大学教育の柱である「問題提起・問題解決法の修得」を学び、学生生活の充実感を味わうことを期待します。看護実践の創造的な開発を迫るための基礎能力を育成するという観点から、看護実践と深く関わりを持った研究を行うことが望まれます。

担当教員やグループメンバーとの協同的・協調的交流は、これからの人生に大きな影響を与えることと思います。有意義な学生生活の締めくくりとなることでしょう。

授業科目名・形態	看護総合(卒業試験含む)	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	看護教員全員・脇山園恵	開講期	4年前期・後期	単位数 2

【授業の主題】

看護学学習の集大成となる科目であり、看護専門職として必要な総合力を身に付ける。これまで習得した看護学に関する基礎および専門分野の知識と技術などを振り返り、理解不十分であった点や疑問点などを見出し、学生自らが学習成果を確認することで看護実践力を養う。なお、この科目には卒業試験も含む。

【到達目標】

1. 専門分野ごとの授業を通して、看護専門職の基礎部分についての系統別学習ができる。
2. 専門分野ごとの授業を通して、国家試験の出題傾向に応じた学習のポイントを理解できる。
3. 小テストでは、必修問題および一般・状況問題の正解率が国家試験合格基準以上を獲得できる。
4. 卒業試験に合格する。

【授業計画・内容】

第1回 オリエンテーション	第16回 人体の構造と機能
第2回 必修問題	第17回 疾病の成り立ちと回復の促進
第3回 必修問題	第18回 基礎看護学
第4回 人体の構造と機能	第19回 成人看護学
第5回 疾病の成り立ちと回復の促進	第20回 成人看護学
第6回 基礎看護学	第21回 精神看護学
第7回 基礎看護学	第22回 小児看護学
第8回 成人看護学	第23回 母性看護学
第9回 成人看護学	第24回 在宅看護学
第10回 成人看護学	第25回 小テスト
第11回 小児看護学	第26回 小テスト
第12回 精神看護学	第27回 看護の統合と実践
第13回 在宅看護学	第28回 公衆衛生看護学および健康支援と社会保障制度
第14回 老年看護学	第29回 公衆衛生看護学および健康支援と社会保障制度
第15回 老年看護学	第30回 小テスト

【授業実施方法】

講義形式

【授業準備】

担当教員から指導を受け、次回授業までに必要な準備や作業を積極的にすすめること。

【主な関連する科目】

看護学に関する基礎および専門分野の科目

【教科書等】

専門基礎科目および専門科目の授業に使用した教科書、随時資料配布

【参考文献】

国家試験過去問題集 等

【成績評価方法】

小テスト・卒業試験 90%、授業態度・出席状況 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

日々の学習の積み重ねが大切です。そして、国家試験合格への道を自分の力で切り開いていきましょう。

授業科目名・形態	看護実践総合演習	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	佐藤純子・水木暢子・小玉光子・ 黒澤繭子・今野修・小畑千春・ 千葉孝子・高山新吾・伊藤洋介	開講期	4年後期	単位数	1

【授業の主題】

これまでの看護技術習得状況を評価し、対象の治療環境に適した看護技術を提供できるよう、確かな看護技術を実践する。

【到達目標】

看護技術演習や臨地実習で学んだことを踏まえ、安全で安楽な看護技術を習得する。

臨床での看護技術がイメージできる。

【授業計画・内容】

佐藤純子、水木暢子、小玉光子、黒澤繭子、今野修、小畑千春、千葉孝子、高山新吾、伊藤洋介がそれぞれの項目を担当し、演習を実施する。

- ① 体位変換と寝衣交換
- ② 無菌操作と創傷処置
- ③ 皮下注射・筋肉注射・皮内注射の方法
- ④ 採血法
- ⑤ 静脈注射と点滴注射
- ⑥ 呼吸・循環の異常への対処方法（酸素吸入と吸引）
- ⑦ 夜間の緊急時の対処方法
- ⑧ 技術チェックとまとめ、課題レポート作成

小グループとなり、それぞれの項目の演習を学生が主体となって実施する。

【授業実施方法】

集中演習

【授業準備】

1年次から4年次までの看護技術を復習してください。また、侵襲度の高い看護技術をモデルを用いて実施してもらいますので、知識面の復習をしてください。

【主な関連する科目】

基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ、「基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ヘルスアセスメント、救急医療と看護

【教科書等】

これまで看護学全般の授業でのテキストおよび資料を十分に活用してください。

【参考図書】

ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社）など

【成績評価方法】

出席状況および演習状況（60%）、レポート等（40%）の総合評価

【学生へのメッセージ】

この演習では、学生自らが自己の課題を明確にし、これまで学んできた看護技術を総合的な視点で捉えなおします。看護職者として業務を遂行していくための看護技術を習得するための機会です。これまでの看護技術を復習し、グループごとに協力し合いながら演習を進めてください。

授業科目名・形態	高齢者・精神地域実習 実習	必修・選択の別	選択		
担当者氏名	畠山禮子・高山新吾	開講期	4年前期	単位数	2

【授業の主題】

精神に障害をもつ人を疾病と障害を併せ持つ生活者として理解し、社会復帰の過程と意味を学ぶために、精神障害者社会復帰施設等で実際に実習を行う。さらに、関連機関との連携やノーマライゼーションの重要性などについて理解を深める。

今後増加する認知症高齢者が生活の場として暮らし、自分らしく生きるということの理解を深めるために、精神看護の視点から認知症高齢者対応の「グループホーム」、「ディサービス」等での実習を行う。

【到達目標】

- 1) 精神に障害をもつ人の特徴を理解し、社会復帰のための看護活動の実際を学ぶ。
- 2) 社会復帰の必要性和意味について理解する。
- 3) 社会復帰を促進するための社会資源の活用方法について学ぶ。
- 4) ノーマライゼーションの重要性を理解する。
- 5) 地域における社会復帰施設の実際を知る。
- 5) 社会復帰を支援する関連職種の役割と連携について学ぶ。
- 6) 認知症高齢者が住みなれた地域で自分らしく生活することの重要性を理解する。

【授業計画・内容】

詳細は実習オリエンテーションで提示する。

【授業実施方法】

学外実習

【授業準備】

実習事前学習等については別紙で提示する。

【教科書等】

「病態治療学Ⅲ（精神疾患）」で使用したテキスト、

吉松和哉 小泉典章 川野雅資 編集 「精神看護学Ⅰ 精神保健学」第6版 ヌーベルヒロカワ出版, 2015.

川野雅資 編集 「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」第6版 ヌーベルヒロカワ出版, 2015.

【参考文献】

随時資料等配布

【成績評価方法】

出席状況・実習状況（60%）、実習記録・検討会等（40%）により総合的に評価する。

【主な関連する科目】

「病態治療学Ⅲ」「精神看護学概論」「精神看護方法論Ⅰ」「精神看護方法論Ⅱ」

【学生へのメッセージ】

利用者の方々とのコミュニケーションをとる時間を大切にしてください。

授業科目名・形態	公衆衛生看護学実習 I	実習	必修・選択の別	選 択
担当者氏名	日景真由美・金谷マキ子	開講期	4年前期・後期	単位数 2

【授業の主題】

個別事例（個人・家族）の看護上の問題を健康と社会的条件との関連から明らかにして、個別事例へ継続した家庭訪問指導を行い、家族支援や地域の社会資源を活用した生活支援の実際を学ぶ。また、地域の健康上の問題を把握して、集団を対象とした健康支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

1. 個人・家族の健康問題を把握する一連の過程（情報収集・分析・健康問題の抽出など）を理解できる。
2. 個人・家族の健康問題の背景や地域の特性を掴み、対象のニーズに沿った支援計画の立案を理解できる。
3. 個人・家族の健康問題の解決に向けた保健師の支援活動の実際と、支援活動の評価を理解できる。
4. 健康問題の解決・改善のため、関係機関ならびに関係職種との協力・協働を理解できる。
5. 個別援助を通して、地域における健康支援の方法を考えることができる。

【授業計画・内容】

1. 実習概要

実習オリエンテーションで提示する（詳細は実習要項を参照）

2. 実習施設

秋田県内の市町村（4か所）

【授業実施方法】

臨地実習

【授業準備】

「公衆衛生看護技術論」で学んだ「家庭訪問」を振り返り、家庭訪問計画を立案する。
家庭訪問前に乳幼児の身体計測、血圧測定などの技術を復習する。

【主な関連する科目】

公衆衛生看護技術論「母子保健活動論」「成人保健活動論」「高齢者保健活動論」などの公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

公衆衛生学、公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論、公衆衛生看護活動展開論Ⅰ、公衆衛生看護活動展開論Ⅱ、公衆衛生看護活動展開論Ⅲ、健康教育論、成人保健活動論、高齢者保健活動論、母子保健活動論、健康課題別活動論Ⅰ、健康課題別活動論Ⅱ、公衆衛生看護技術論、家族看護論などで使用した教科書および配布資料、実習施設について収集した資料などを活用する。

【参考文献】

適宜紹介

【成績評価方法】

事前学習（10%）、実習内容・実習記録・実習指導者の評価（90%）を総合して評価する。

【学生へのメッセージ】

これまでに学んできた知識や技術を活かして、地域で生活している人々の健康問題解決への支援活動を実践する実習になります。各自が目標を持って、積極的な姿勢で実習に取り組んでいきましょう。

授業科目名・形態	公衆衛生看護学実習Ⅱ 実習	必修・選択の別	選 択	
担当者氏名	日景真由美・金谷マキ子	開講期	4年前期	単位数 3

【授業の主題】

情報の収集・分析など一連の方法・技術を通して、地域特性や地域で生活している人々の健康状態や健康問題を把握し、地域特性に対応した公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。また、保健所や市町村の看護活動を通して、地域保健活動における保健所や市町村の役割と機能、地域の健康問題と健康問題への施策及び公衆衛生看護管理活動を学ぶ。さらに、健康問題を解決するため、関係機関や関係職種との連携、コーディネートの必要性を理解する。

【到達目標】

1. 実習地域の地域診断（情報収集・分析・健康問題の抽出など）の方法が理解できる。
2. 地域診断に基づいて、個人・家族・集団ならびに地域全体に対する活動計画の立案が理解できる。
3. 健康問題の背景や住民の多様なニーズを理解し、地域住民の健康問題解決へ向けた支援活動の実際を理解できる。
4. 地域住民への支援活動の評価を理解できる。
5. 保健・医療・福祉行政における健康関連施策と行政組織の一員として、地域保健活動における保健師の役割（独自性、専門性など）を理解できる。
6. 地域保健医療福祉活動と地域ケアシステム・地域ケアコーディネーションを理解できる。
7. 健康な地域づくりにおける保健師の独自性、専門性を理解できる。

【授業計画・内容】

1. 実習概要

実習オリエンテーションで提示する（詳細は実習要項を参照）

2. 実習施設

秋田県内の県保健所（4か所）と市町村（4か所）

【授業実施方法】

臨地実習

【授業準備】

春季休業中、事前学習課題を調べて提出する。

実習開始前に、実習施設の健康課題から健康教育・健康学習の企画書・指導案を作成する。

【主な関連する科目】

「保健医療福祉行政論」、「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「公衆衛生看護管理論」等の公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

公衆衛生学、公衆衛生看護学概論、健康教育論、保健医療福祉行政論、疫学、保健統計学、公衆衛生看護活動展開論Ⅰ、公衆衛生看護活動展開論Ⅱ、公衆衛生看護活動展開論Ⅲ、公衆衛生看護管理論、成人保健活動論、高齢者保健活動論、母子保健活動論、健康課題別活動論Ⅰ、健康課題別活動論Ⅱ、公衆衛生看護技術論、家族看護論などで使用した教科書および配布資料、実習施設について収集した資料などを活用する。

【参考文献】

適宜紹介

【成績評価方法】

事前学習課題（10%）、実習の出席状況・実習内容・実習記録・実習指導者の評価（90%）を総合して評価する。

【学生へのメッセージ】

実習施設において、実際の保健師活動を学ぶことができる貴重な実習です。学生の皆さんは主体的および意欲的な姿勢で実習に臨みましょう。

授業科目名・形態	助産学実習 I	実習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	岩間 薫・山平良子・関口麗子	開講期	4 年前期	単位数	5

【授業の主題】

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象の身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から多面的に情報収集し、統合した助産過程の展開を行い、立案した計画に沿って安全で安楽な分娩介助およびケアを実践する。さらに提供した分娩介助およびケアを客観的に振り返り、自己の課題を明確にして次の介助とケアに活かして学びを深める。

また、母子保健医療チームの一員としての助産師の役割を理解し、看護者としての必要な倫理的義務や責任について学ぶことも重要である。

【到達目標】

1. 妊産褥婦・新生児について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から多面的に情報収集し、統合した助産過程が展開できる。
2. 助産診断に基づいた計画を立案し、分娩介助およびケアを実践できる。
3. 継続事例の受け持ちを通して、妊娠期から産褥・新生児期まで継続した個別的なケアを提供できる。
4. 提供した分娩介助およびケアを客観的に振り返り、自己の課題を明確にして次のケア提供に活かすことができる。
5. 専門職としての役割・責務を認識した行動を学ぶ。

【授業計画・内容】

1. 産婦を受け持ち、助産過程の展開を行い正常分娩の介助を 10 例程度実践する。(継続受け持ち事例を含む)
 2. 継続事例として、妊娠期から分娩・産褥・新生児期までの受け持ちを 1 例実施する。
 - 1) 妊産婦を分娩第 1 期から受け持ち、入院時・分娩各期の観察および分娩介助を含むケア・新生児の健康診査、退院時まで母児のケアを行う。
 - 2) 受け持ちの産婦が異常に移行した場合は、実習指導者の指示に従い直接的なケアについて見学を通して学ぶ。
 - 3) 実習内容は実習指導者と相談の上で決定し、実習計画の発表・調整・報告を行いながら、主体的にのぞむ。
 - 4) 評価表を用いて、各段階における到達目標の評価を行い、自己の課題と目標を明確にする。
- *その他の計画・内容の詳細は、別途実習要項を参照のこと。

【授業実施方法】 臨地実習

【授業準備】

事前にこれまでの学習内容、および教科書・資料・参考文献を復習し、分娩介助技術をマスターしておくこと。

【主な関連する科目】

助産学概論、基礎助産学、助産診断・技術学 I・II・III・IV、助産管理論

【教科書等】

助産学講座 1 助産学概論～助産学講座 8 医学書院、授業で配布した資料など。

【参考文献】

井上裕美他監修：病気がみえる産科 MEDIC MEDIA

日本助産診断・実践研究会：実践 マタニティ診断第 4 版 医学書院

北川真理子、内山和美編：今日の助産改訂第 3 版 南江堂

武谷雄二他監修：プリンシプル産婦人科学 2 産科編第 3 版 MEDICAL VIEW

日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修：産婦人科診療ガイドライン 産科編 2017 日本産婦人科学会

その他は、適宜提示する。

【成績評価方法】

事前学習 10%、実習評価 60%、実習記録 20%、実習への取り組み姿勢・出席状況 10%とし総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

これまで学内で学習したことを実際に臨地実習で実践させていただく大切な実習です。24 時間体制の実習になりますから、知識のほか自己の体調管理に留意し、体力・気力の維持を図りましょう。一回の機会を大切に、主体的に学習を行い、互いに協力し合いながら有意義な実習にしましょう。

授業科目名・形態	助産学実習Ⅱ	実習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	岩間 薫・山平良子	開講期	4年通年	単位数	2

【授業の主題】

病院の産科外来において助産師の活動を学び、受け持ち継続事例の健康診査と妊娠期の助産過程を展開し、保健指導を実施する。また、マタニティクラスを運営し、そのあり方を学ぶ。助産師の業務には、助産所という経営体の管理運営責任者としての業務がある。助産所の管理・運営の基本的知識をふまえて、実習を通して助産所の特徴を理解し、業務・管理・運営業務、医療連携を学び、併せて助産の望ましいあり方を考える。

【到達目標】

1. 継続事例の妊娠期の助産過程を展開できる
 - 1) 産婦・胎児の健康診査・経過診断・健康生活診断と指導者の助言のもとに保健指導ができる。
 - 2) 妊娠期の健康教育のあり方を学ぶことができる。
 - 3) 正常な経過からの逸脱を予測し、予防することと緊急時の対応について理解できる。
2. マタニティクラスの見学と運営から、そのあり方を学ぶことができる。
3. 助産所の特色、業務・管理・運営業務、医療連携を学ぶことができる。
4. 専門職としての役割・責務を認識した行動を学ぶことができる。
 - 1) 対象を尊重した態度を学び、ケアが提供できる
 - 2) 母児の生命の尊重、助産の倫理について考えることができる。
 - 3) 助産業務が理解できる。

【授業計画・内容】

1. 継続事例として、初産婦1例を妊娠中期から母児の産褥1ヶ月健診まで受け持つ。
 2. 事前に保健指導の指導案を作成し、保健指導内容を実習指導者および指導教員の確認を受けておく。
 3. 妊娠初期・中期の各1名、その他の妊婦8名の妊婦健康診査、保健指導案作成と保健指導を実施する。
 4. マタニティクラスの見学と運営を行う。
 5. 助産所実習を通して、助産所の特徴の理解と業務・管理・運営業務、医療連携を学ぶ。
- *その他の計画の詳細は、別途実習要項を参照のこと。

【授業実施方法】 臨地実習

【授業準備】

事前にこれまでの学習内容、および教科書・資料・参考文献を復習し、さらに保健指導集を充実させておくこと。

【主な関連する科目】

助産学概論、基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、助産管理論、公衆衛生看護技術論

【教科書等】

助産学講座1助産学概論～助産学講座8医学書院、各授業で配布した資料など。作成した保健指導集。

【参考文献】

井上裕美他監修：病気がみえる産科 MEDIC MEDIA
 日本助産診断・実践研究会：実践 マタニティ診断第4版 医学書院
 北川真理子、内山和美編：今日の助産改訂第3版 南江堂
 武谷雄二他監修：プリンシプル産婦人科学2産科編第3版 MEDICAL VIEW
 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修：産婦人科診療ガイドライン 産科編2017 日本産婦人科学会

【成績評価方法】

事前学習10%、実習評価60%、実習記録（レポートを含む）20%、実習への取り組み姿勢・出席状況10%とし総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

継続事例さんやマタニティクラスで出会う妊婦さんの大切な妊娠期にかかわります。自分たちで作成した保健指導集の出番です。助産学実習Ⅰと重なり、さらに内容も多彩ですが、一回の機会を大切に、互いに協力し合いながら有意義な実習にしましょう。

授業科目名・形態	統合実習	実習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	佐藤純子・水木暢子他看護学科担当教員		開講期	4年前期	単位数 2

【授業の主題】

修得した看護管理の知識と技術を応用展開し、看護・保健・福祉の実践活動について広い視点で理解する。自ら選択した専門領域で看護チームに参加し、医療チームに関わる人々との協働のあり方を理解する。また看護チームに参加し複数の受け持ち患者の看護を通してチームアプローチを含む看護実践活動を展開し、今までの知識・技術の統合を図り、看護観を深めることを目的とする。

【到達目標】

実習目標

- 1) 看護チームの一員として複数の患者に対する適切なケアマネジメントを学ぶ。
- 2) 医療チームに関わる人々との協働を通してチームアプローチを学ぶ。
- 3) 専門的知識と確かな技術に基づいた安全な看護を提供でき、その看護を適性に評価できる看護実践能力を育成する。
- 4) 看護者としての社会性および倫理的感性を育成する。
- 5) 看護管理の実際を学び、修得した看護学の知識・技術を展開し看護実践活動を広い視点で理解する
- 6) 看護の役割機能を明確化し、看護における課題および自己の課題を明確にする。さらに看護観を発展させる力を育成する。

【授業計画・内容】

実習内容

- 1) 学生の関心・目指す専門性から実習領域を決める。
- 2) 実習指導者の指導下で複数の対象者の看護実践を行う。対象者の看護問題の優先度を判断し、看護実践を行う。またチームメンバーの一員として情報の共有を行なう。
- 3) 対象者への看護を通し、他職者との連携を体験する。
- 4) 看護管理の実際を学ぶ。

【授業実施方法】

臨地実習

【授業準備】

これまでの講義及び演習、臨地実習で学んだことをもう一度振り返ってください。特に看護管理の知識について理解を深めておきましょう。

【教科書等】

これまでの看護学全般の授業でのテキストおよび資料

【成績評価方法】

出席状況および実習状況（50%）、記録およびレポート等（50%）の総合評価

【学生へのメッセージ】

この実習では、学生自らが自己の課題を明確にし、これまで学んできた看護学を総合的な視点で捉えなおします。実際に看護チームの一員として参加しながら学ぶことは、自己の看護観を高め、将来の看護専門職者としての活動に大きく役立つはずですよ。

授業科目名・形態	専門基礎演習	演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名		開講期	2年後期	単位数	2

【授業の主題】

【到達目標】

今年度休講

【授業計画・内容】

【授業実施方法】

【授業準備】

【主な関連する科目】

【教科書等】

【参考文献】

【成績評価方法】

【学生へのメッセージ】